

# 日本医療大学年報

創刊号

2015年



日本医療大学

# 目 次

『2015年 日本医療大学年報』創刊号 発刊に寄せて .....	1
1 使命・目的等	
1-1 沿革 .....	2
1-2 本学の使命と目的 .....	3
1-3 機構組織図 .....	4
2 学修と教授	
2-1 学生の受入れ .....	5
2-2 教育課程および教授方法 .....	8
2-3 学修及び授業の支援 .....	11
2-4 単位認定、卒業・修了認定等 .....	12
2-5 キャリアガイダンス .....	13
2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック .....	13
2-7 学生サービス .....	14
2-8 教員の配置・職能開発 .....	16
2-9 教育環境の整備 .....	53
3 経営・管理と財務	
3-1 経営の規律と誠実性 .....	62
3-2 理事会の機能 .....	70
3-3 大学の意思決定の仕組みおよび学長のリーダーシップ .....	71
3-4 コミュニケーションとガバナンス .....	72
3-5 業務執行体制の機能性 .....	72
3-6 財務基盤と収支 .....	73
3-7 会計 .....	78
4 自己点検・評価	
4-1 自己点検・評価の適切性 .....	79
4-2 自己点検・評価の誠実性 .....	79
4-3 自己点検・評価の有効性 .....	80
5 使命・目的に基づく大学独自の基準設定と自己点検・評価 .....	80
6 社会貢献 .....	81
7 顕彰 .....	86
8 委員会活動報告 .....	86
9 認知症研究所活動報告 .....	118



## 発刊に寄せて

日本医療大学学長 傳野 隆一

此の度、日本医療大学年報を発刊することができましたのは、学内関係者はもとより、多くの方々の協力あってのもの感謝申し上げます。

本学は、平成26年4月に保健医療学部看護学科の単科大学として開学した新しい大学ですが、翌年にはリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻）、さらに平成28年4月には診療放射線学科を増設し、医療系の総合大学を目指し、拡充をしているところです。

大学を取り巻く環境は大きく様変わりをしています。18歳以下の人口が減少し、大学入学定員が増加する中で、大学が学生に選ばれる時代になりました。そこで、問われるのは大学の教育改革であり、その一つが、三つのポリシーの具現化であり、大学教育の充実に向けたPDCAサイクルの確立であります。もう一つは、大学の質保証であろうと思います。本学は医療職養成校ですので、いずれの医療職を目指す学生であっても最終的には国家試験合格が一つの質保証になるものと思われれます。加えて第三者機関による認証評価であります。アフターケア期間中ではありますが、平成31年度には大学機関別認証評価を受ける準備を進めているところです。そのため自己点検評価様式に沿った形式で年報を作成しています。

教育面では、新しい教育環境を学生と共に創りあげていくと共に、教員自らが能力開発（FD）、教育改革等を通して、教育研究能力を高めていくための組織づくりに取り組んでいます。

研究面では医療・福祉に関わらず、様々な分野で活躍をして頂いておりますが、さらなる高みの研究を目指せるような研究環境も徐々に整備しています。幸いにも、昨年から『日本医療大学紀要』を発刊しております。また、附置研究所である認知症研究所は認知症対策に関する研究で競争的研究助成金を得ることができました。また、民間企業と共同で認知症患者を対象とした補助食品の臨床研究に着手したところです。

社会貢献の面では、社会福祉法人ノテ福祉会と共同で生涯学習講座を定期的開催或いは市民を対象とした公開講座を開催するなど、地域住民の健康福祉に貢献しています。

今後とも関係各位のご支援、ご協力を賜り、医療・福祉の分野で貢献できる大学づくりに邁進して参りたいと存じます。

# 1 使命・目的等

## 1-1 沿革

学校法人日本医療大学の歴史は、昭和59（1984）年4月に札幌市豊平区月寒に開設された特別養護老人ホーム「幸栄の里」に始まる。「幸栄の里」では、デンマークで発祥したノーマライゼーションの思想を本邦で実践するために入所者のみならず、在宅高齢者のサービスを事業化し、在宅介護サービスの先駆けとなった。

高齢者福祉事業を展開する中、医療と福祉に従事する高度な技術を有する人材の育成が急務であることを痛感し、平成元（1989）年4月に日本福祉学院総合福祉科（介護福祉士養成）を開設した（表1-1-①-a）。翌年に専門学校日本福祉学院に名称を変更し、平成4（1992）年には、総合ソーシャルワーカー科を開設した。平成5（1993）年に社会福祉法人札幌栄寿会（現、社会福祉法人ノテ福祉会）から分離独立し、学校法人つしま記念学園が設立された。平成7（1995）年4月に専門学校日本福祉リハビリテーション学院が開校し、理学療法学科と作業療法学科が設置された。翌年平成8（1996）年には、専門学校日本福祉看護学院を開設し看護師の養成を始めた。平成15（2003）年4月に、専門学校日本福祉学院に精神保健福祉士短期通信科や、社会福祉科（夜間）が設置された。平成16（2004）年4月には、日本福祉リハビリテーション学院に診療放射線学科を開設したが、平成21（2009）年4月に専門学校日本福祉看護学院と統合され、専門学校日本福祉看護・診療放射線学院に校名を変更した。平成18（2006）年に専門学校日本福祉リハビリテーション学院に言語聴覚学科が設置され、リハビリテーション医療を担う3セラピストの養成が始まった。平成16（2009）年4月に、専門学校日本福祉学院に精神保健福祉士一般通信科と社会福祉士科を開設した。

平成25（2013）年11月に学校法人つしま記念学園から学校法人日本医療大学に法人名を変更し、平成26（2014）年4月に日本医療大学を開学、保健医療学部看護学科を設置した。翌年の平成27（2015）年4月には、理学療法学専攻と作業療法学専攻の2専攻からなるリハビリテーション学科が開設された。

表1-1-①-a. 学校法人日本医療大学の沿革

平成元年4月
日本福祉学院（厚生省介護福祉士養成施設指定） 開校
総合福祉科（現 介護福祉学科）入学定員50人 開設
平成2年4月
専門学校日本福祉学院に名称変更（専修学校認可）
平成4年4月
専門学校日本福祉学院
総合ソーシャルワーカー科 入学定員50人 増設
平成5年4月
学校法人つしま記念学園設立（社会福祉法人札幌栄寿会から分離独立）

平成6年4月	専門学校日本福祉学院 社会福祉士通信課程 入学定員300人（現600人）増設
平成7年4月	専門学校日本福祉リハビリテーション学院 開校 理学療法学科（4年）入学定員40人 開設 作業療法学科（4年）入学定員40人 開設
平成8年4月	専門学校日本福祉看護学院 開校 看護学科（4年）入学定員50人 開設
平成15年4月	専門学校日本福祉学院 精神保健福祉士短期通信科 定員200人 増設 社会福祉士科（夜間）定員40人 増設
平成16年4月	専門学校日本福祉リハビリテーション学院（札幌キャンパス） 診療放射線学院（4年）入学定員50人 増設
平成18年4月	専門学校日本福祉リハビリテーション学院（恵み野キャンパス） 言語聴覚学科（4年）入学定員40人 増設
平成21年4月	専門学校日本福祉看護学院看護学科と専門学校日本福祉リハビリテーション学院診療放射線学科を統合 専門学校日本福祉看護・診療放射線学院 開校 専門学校日本福祉学院 精神保健福祉士一般通信科 増設 社会福祉士科（1年・通学）増設
平成25年10月	学校法人組織変更認可 日本医療大学設置認可 学校法人日本医療大学（法人名変更）
平成26年4月	日本医療大学 開学 保健医療学部看護学科 入学定員 80人 開設
平成27年4月	日本医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 入学定員 80人 開設
平成28年4月	日本医療大学 保健医療学部診療放射線学科 入学定員 50人 開設予定

## 1-2 本学の使命と目的

本学の沿革を遡れば、昭和58（1983）年に開設された当時としては先駆的な都市型特別養護老人ホーム「幸栄の里」に辿り着く。現在のように高齢者福祉が社会の耳目を集める以前の時代に、理想とする高齢者福祉を実現するためには、その担い手すなわち介護士や看護師、診療放射線技師、

リハビリテーションセラピスト、社会福祉士、精神保健福祉士などの医療や福祉従事者の育成が望まれ、次々と専門学校を開設してきた。しかしながら、日々発展高度化する医療や福祉に対応する人材を輩出するには、幅広い教養と高度な医療福祉の知識と技術を修得し問題解決能力に長ける教育を行なう必要性から、専門学校教育から大学教育へと変換した。本学の使命は、すなわち「幅広い教養と高度な医療福祉の知識技術を修得し問題解決能力に長けた医療人の育成」である。また、本学の歴史が高齢者福祉の現場から始まっていることから、「ヒューマニティ（人間尊重・人間愛）に育まれる『人間力』」を建学の精神に、「人間尊重を基盤とした『人間力』」を備えた医療人の育成」を本学の教育理念とした。

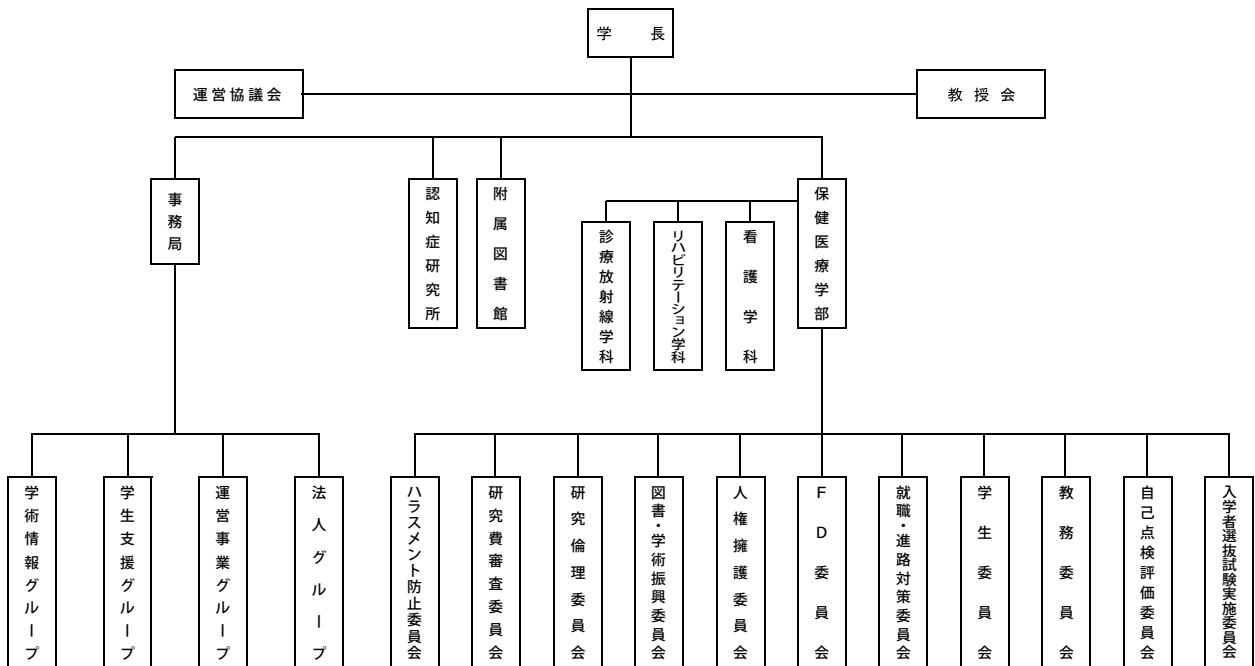
本学設置の目的は、学則の第1条に謳われているように、「日本医療大学は、教育基本法および学校教育法ならびに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授および研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康および生活の向上へ貢献することを目的とする」である。また、同第6条2項に学部および学科の教育上の目的が謳われており、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的および論理的な実践力で地域医療に貢献する医療人を育成する」ことである。

### 1-3 機構組織図

本学の運営を円滑に行うための機構組織は、平成27年度時点で図1-1-③-aのとおりである。

図1-1-③-a

機構組織図



## 2 学修と教授

### 2-1 学生の受け入れ

#### 2-1-① 入学者受け入れの方針の明確化と周知

本学の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）は、「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していきける学生を求めている。養成する人材が卒業後に札幌地域のみならず、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できる逞しい人材を募集します」と謳っている。すなわち、将来医療や福祉の現場で実践者となり、地域医療やへき地医療に貢献する気概のある学生を求めている。看護学科、リハビリテーション学科の入学者受け入れ方針については、各学科の概要の項（看護学科 p.17、リハビリテーション学科 p.41）に記載しており、ホームページや大学案内、学生募集要項にて、周知を図っている。

#### 2-1-② 入学者受け入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

本学の入学者受け入れ方針の周知については、前述の方法のほか、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、時間を設け説明している。

#### 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入数の維持

平成26年度開設の看護学科の入学定員は80人であり、入試区分は推薦入試（定員30人）、一般入試前期（同40人）、同後期（同10人）の3区分であり、入学者数は85人であった（表2-1-③-a）。平成27年度の看護学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は、前年度とほぼ同数であり、入学者数は定員の4人増の84人であった（表2-1-③-b）。いずれの年度も定員の5～6%超の学生に入学を許可している。平成28年度入学試験においては、志願倍率、受験倍率、実質倍率ともに過去最高となり89人の入学予定者があった（表2-1-③-e）。

リハビリテーション学科においては、平成27年度が入試初年度であった。入学定員は、理学療法学専攻、作業療法学専攻ともに40人である。両専攻ともに入試区分は、推薦入試（定員15人）、一般入試前期（同20人）、同後期（同5人）の3区分で行ったが、入学手続きを行った受験生数が、両専攻ともに入学定員を充足できなかったため特別入試を実施した。その結果、理学療法学専攻では38人の入学者（表2-1-③-c）を、作業療法学専攻では15人の入学者（表2-1-③-d）を得ることができた。理学療法学専攻の平成28年度入学試験では、志願倍率、受験倍率、実質倍率ともに初年度を上回り、43人の入学予定者があった（2-1-③-f）。作業療法学専攻では、志願倍率、受験倍率は、初年度を若干下回り、実質倍率は初年度と同率となり、26人の入学予定者となった（表2-1-③-g）。

平成28年度に設置が認可された診療放射線学科においては、志願倍率、受験倍率ともに1.5倍、実質倍率は1.3倍であり52人の入学予定者があった（2-1-③-h）。



平成27年4月1日時点での在籍学生数は、表2-1-③-iの通りである。

表2-1-③-a. 平成26年度 入試区分別（志願者・受験者・入学者）状況

学 科	看 護 学 科				
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		合計
			前期	後期	
定 員 (人)	30	40	10	80	
志 願 者 (人)	41	189	52	282	
受 験 者 (人)	41	186	43	270	
合 格 者 (人)	31	84	20	135	
入学者数 (人)	31	39	15	85	
志願倍率 (%)	1.4	4.7	5.2	3.5	
受験倍率 (%)	1.4	4.7	4.3	3.4	
実質倍率 (%)	1.3	2.2	2.2	2.0	

表2-1-③-b～d. 平成27年度 入試区分別（志願者・受験者・入学者）状況

表2-1-③-b. 看護学科

表2-1-③-c. リハビリテーション学科  
理学療法専攻

学 科	看 護 学 科				
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		合計
			前期	後期	
定 員 (人)	30	40	10	80	
志 願 者 (人)	41	176	53	270	
受 験 者 (人)	41	171	49	261	
合 格 者 (人)	30	81	19	130	
入学者数 (人)	30	43	11	84	
志願倍率 (%)	1.4	4.4	5.3	3.4	
受験倍率 (%)	1.4	4.3	4.9	3.3	
実質倍率 (%)	1.4	2.1	2.6	2.0	

学 科 (専 攻)	リハビリテーション学科 (理 学 療 法 学 専 攻)					
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		特別	合計
			前期	後期		
定 員 (人)	15	20	5		40	
志 願 者 (人)	23	40	9	5	77	
受 験 者 (人)	23	40	8	5	76	
合 格 者 (人)	15	32	8	3	58	
入学者数 (人)	15	15	5	3	38	
志願倍率 (%)	1.5	2.0	1.8		1.9	
受験倍率 (%)	1.5	2.0	1.6		1.9	
実質倍率 (%)	1.5	1.3	1.0	1.7	1.3	

表2-1-③-d. リハビリテーション学科  
作業療法学専攻

学 科 (専 攻)	リハビリテーション学科 (作 業 療 法 学 専 攻)					
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		特別 入試	合計
			前期	後期		
定 員 (人)	15	20	5		40	
志 願 者 (人)	5	12	3	2	22	
受 験 者 (人)	5	12	3	2	22	
合 格 者 (人)	7	13	2	2	24	
入学者数 (人)	7	5	1	2	15	
志願倍率 (%)	0.3	0.6	0.6		0.6	
受験倍率 (%)	0.3	0.6	0.6		0.6	
実質倍率 (%)	0.7	0.9	1.5	1.0	0.9	

表2-1-③-e～h. 平成28年度 入試区分別 (志願者・受験者・入学者) 状況

表2-1-③-e. 看護学科

表2-1-③-f. リハビリテーション学科  
理学療法学専攻

学 科	看 護 学 科				
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		合計
			前期	後期	
定 員 (人)	30	40	10	80	
志 願 者 (人)	28	199	60	287	
受 験 者 (人)	28	195	60	283	
合 格 者 (人)	28	83	20	131	
入学者数 (人)	28	46	15	89	
志願倍率 (%)	0.9	5.0	6.0	3.6	
受験倍率 (%)	0.9	4.9	6.0	3.5	
実質倍率 (%)	1.0	2.4	3.0	2.2	

学 科 (専 攻)	リハビリテーション学科 (理 学 療 法 学 専 攻)				
	入 試 区 分	推薦 入試	一般入試		合計
			前期	後期	
定 員 (人)	15	20	5	40	
志 願 者 (人)	22	64	14	100	
受 験 者 (人)	22	62	11	95	
合 格 者 (人)	15	40	7	62	
入学者数 (人)	15	22	6	43	
志願倍率 (%)	1.5	3.2	2.8	2.5	
受験倍率 (%)	1.5	3.1	2.2	2.4	
実質倍率 (%)	1.3	1.6	1.6	1.5	

表2-1-③-g. リハビリテーション学科  
作業療法学専攻

学 科 (専 攻)	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)			
	推薦 入試	一般入試		合計
		前期	後期	
入 試 区 分				
定 員 (人)	15	20	5	40
志 願 者 (人)	9	31	5	45
受 験 者 (人)	9	31	5	45
合 格 者 (人)	9	25	5	39
入学者数 (人)	9	16	1	26
志願倍率 (%)	0.6	1.6	1.0	0.5
受験倍率 (%)	0.6	1.6	1.0	0.5
実質倍率 (%)	1.0	1.2	1.0	0.9

表2-1-③-h. 診療放射線学科

学 科	診 療 放 射 線 学 科			
	推薦 入試	一般入試		合計
		前期	後期	
入 試 区 分				
定 員 (人)	25	20	5	50
志 願 者 (人)	20	41	15	76
受 験 者 (人)	20	40	14	74
合 格 者 (人)	18	32	9	59
入学者数 (人)	18	29	5	52
志願倍率 (%)	0.8	2.1	3.0	1.5
受験倍率 (%)	0.8	2.0	2.8	1.5
実質倍率 (%)	1.1	1.3	1.6	1.3

表2-1-③-i. 学生数

学科・専攻	年次	入学 定員 (人)	平成26年度				平成27年度			
			総定員 (人)	男 (人)	女 (人)	計 (人)	総定員 (人)	男 (人)	女 (人)	計 (人)
看 護 学 科	1年	80	80	13	72	85	80	12	72	84
	2年	80					80	13	72	85
計		160	80	13	72	85	160	25	144	169
リハビリテーション 学科	理学療法学専攻 1年	40					40	24	14	38
	作業療法学専攻 1年	40					40	5	10	15
計		80					80	29	24	53
学部計		240	80	13	72	85	240	54	168	222

## 2-2 教育課程および教授方法

### 2-2-① 教育目標を踏まえた教育課程編成方針の明確化

保健医療学部の教育目的は、建学の精神、教育理念に基づき「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学習能力を授けるとともに専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」である。また、教育目標は、次のとおりである。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。
5. 問題解決に向けた科学的思考能力と主体的学修能力で自己成長できる。

看護学科のカリキュラムの基本概念は、「看護学は、『人間と健康』という人間存在の本質に深く取り組む学問である。本学における看護学教育は、人間が生きること、人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人々の健康の保持や増進と、健康障害をもつ人々への生活を支援する専門職業人としての看護師に必要な教科目を配置している。本学のカリキュラムは、看護を実践の科学として位置づけ、『人間』『環境』『健康』『看護』の4つの基本概念で構成しています」であり、一方リハビリテーション学科のカリキュラムの基本概念は、「リハビリテーション学科は、本学の教育理念に基づき、幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授することを教育研究上の目的としています」である。

それぞれの学科の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）については、学科の概要の項に記載されているのでこの項では、割愛する。各学科のカリキュラムの基本概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

平成28年度開設予定の診療放射線学科の3つの方針と教育目的、教育目標は以下のとおりである。  
入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

1. 目的のため、本学で学修することに意欲と熱意を持っている人
2. 基本的な生活態度の基、他者と思いをやりを持ってコミュニケーションができる人
3. 遭遇する様々な課題に対して、主体的に取り組み、最後までやりとげる人
4. 診療放射線の専門的な内容に関心を持ち、学ぶ意欲を持っている人
5. 画像処理などの新しい技術について、探究心や想像力を持って自ら学ぶ意欲のある人
6. 人の命を尊ぶ意欲を持って、他者と接する事のできる人

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

1. 人類の文化や社会、自然に関する知識の理解と知的活動の面でも、職業生活や社会生活の面でも必要となる汎用的な技術を養う。
2. 体系的な専門知識と技術に基づく適切な判断力と行動を培うとともに、これらを基盤とした診療放射線技師の人間性を養う。
3. 生命尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観を備え、的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
4. チームとしての医療の一員として、他の医療技術者と協調・協働して責任を果たし、医療安全の確保に貢献できる能力を養う。

5. 医療技術の進歩に柔軟に対応することができる基本的資質と、生涯を通して継続的に自己研鑽できる能力を養う。
6. 主体的かつ創造的に課題への探求に取り組み、解決するための力と学問の向上に寄与し得る基本的な研究能力を養う。

#### 卒業認定・学位授与方針（ディプロマポリシー）

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. 放射線診療の受診者を全人間的に理解する能力
4. コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、放射線の診断分野と治療分野を実践する能力
6. エビデンスに基づいた放射線の診断分野と治療分野を安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

#### 教育目的

放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身に付けた職業人を育成する。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身に付けた職業人を育成することを目的とする。

#### 教育目標

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる
2. 全人間的理解を基盤とした人間関係を形成できる
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践ができる
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる

#### 2-2-② 教育課程編成・実施方針に沿った教育課程の体系的編成および教授法の工夫と開発

シラバス中に両学科ともに教育課程についての記載があり、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べられている（SYLLABUS 2015 看護学科 p.7-11、リハビリテーション学科 p.14-17）。

教科目は、両学科ともに基礎教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目に大別され、看護学科では、基礎教育科目を5領域（33教科目）に、専門基礎教育科目を2領域（26教科目）に、専門教育科目を4領域（55教科目）に区分し教科目を配置している。リハビリテーション学科では、基礎教育科目を3領域（32教科目）に、専門基礎教育科目を3領域（25教科目）に、専門教育科目を6領域（理学46教科目、作業43教科目）に区分し教科目を配置している。

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち専門性が高くなる前に基礎科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学習意欲の高揚を目的としてい

る。教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、総じてディベートを行ない、自主的、問題解決型授業の展開に腐心している教員が多い。また、FD研修会を通じて教授法の向上を図る試みがなされている（FD委員会報告書 p.111）。

前述のように、医療系大学においては、日々の学修の積み重ねが重要であり、単年度に集中して多くの単位を取得させるのは好ましくない。そのため、本学では、それぞれの学科で履修の上限単位（CAP制）を設け、1年間に履修できる授業単位を制限している。本件は、履修規程第4条第2項やシラバスに記載されている。

### 2-3 学修および授業の支援

校内の各種委員会の構成員に教員のみならず事務職員を加え、学生の持つ学業や生活についての問題を共有するとともに、解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、推薦入試合格者に対して本学教員による入学前教育を行っている。課題は、平成26年度・27年度入学生ともに推薦図書についてのブックレポートであった。

新入生オリエンテーションは、平成26年度は入学式後、平成27年度は入学式前に2日間、大学生としての心構えをはじめ、各委員会からのオリエンテーション、履修登録に関すること、図書室や相談室などの利用方法など日本医療大学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応するよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは教務委員会が作成した『学修ハンドブック』を配布し、アカデミック・スキルについて導入を図っている。

在学生については、在校生ガイダンスを前期始業日に実施し、新学年での心構えと注意事項を指導している。

各学科や専攻に学生担当教員（以下、学担）を複数名配置し、学生の教学上および生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている（表2-3-①-a）。リハビリテーション学科では、更にチューター制度を導入し、教員と学生、クラスメイト、先輩と後輩との絆を強化し、有意義な学生生活の実現に努めている。教務委員会では、各教員のオフィスアワーを学生に周知している（教務委員会報告 p.88）。

本学は開学まもなく、まだTA（Teaching Assistant）制度の導入に至っていない。

学修支援に直接的に関与する「教務委員会」「学生委員会」「図書・学術振興委員会」「就職・進路対策委員会」の年度活動状況については、各委員会報告（p.86-p.118）に記載する。

異動の実態は、表2-3-①-bのとおりであり、平成27年度に看護学科において退学者1人（2学年）、休学者3人（1学年1人、2学年2人）であった。退学理由については、教務委員会において学担や学科長から説明があり教務委員会で承認後、教授会で報告、最終的に承認されている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学中の支援を行っている。

表2-3-①-a. 学生担任教員

平成26年度		
看護学科	1年A	○原谷珠美、斉藤リカ
	1年B	○伊藤廣美、福島眞里
	1年C	○山田敦士、滋野和恵
	1年D	○松本真由美、佐々木由紀子
平成27年度		
看護学科	1年A	○佐々木由紀子、岡田尚美
	1年B	○山田敦士、伊藤廣美
	2年AB	○原谷珠美、福島眞里
	2年CD	○松本真由美、滋野和恵
リハビリテーション学科	1年理学療法学専攻	高橋光彦、石橋晃仁
	1年作業療法学専攻	合田央志

○主担任

表2-3-①-b. 異動（休学者、退学者、除籍者数）

休学者		平成26年度	平成27年度	
		1年	1年	2年
看護学科		0	1	2
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	-	0	-
	作業療法学専攻		0	-
計		0	1	2

退学者		平成26年度	平成27年度	
		1年	1年	2年
看護学科		0	0	1
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	-	0	-
	作業療法学専攻		0	-
計		0	0	1

単位は人

#### 2-4 単位認定、卒業・修了認定等

単位認定、進級および卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用について、単位認定や成績評価は、学則第27条（単位数の計算方法）、第28条（試験）、第29条（成績の評価）に規定されている。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。また、卒業や学位の授与についても同第32条、第33条に示されている。また、学則第26条、第28条第2項、第30条および第31条の規定に基づき履修規定を別に定め、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修

得単位の認定が明文化されている。これらは、教務委員会で審議され、教授会で報告、承認される。なお、本学の成績表記は、表2-4-①-aのとおりである。

各教科目の成績評価方法は、科目担当責任者によってシラバスに明記され、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用する。

両学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）については、学科の概要の項（看護学科 p.16、リハビリテーション学科 p.41）に記載されているので割愛する。本学は、開学後2年が経過したばかりであるが、学位授与方針に沿った教育を展開している。

表2-4-①-a. 成績評価

成績評価	評 点	単 位 付 与
A A ( 秀 )	100～90点	合 格
A ( 優 )	89～80点	
B ( 良 )	79～70点	
C ( 可 )	69～60点	
D ( 不 可 )	59点以下	不 合 格

## 2-5 キャリアガイダンス

教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制整備を整えており、キャリアガイダンスについては、就職・進路対策委員会が担っている。

看護学科では、「専門看護師・認定看護師の活動」と題した講習会の開催、国家試験の模擬試験を2回実施した。また、『キャリアハンドブック』の編集を進めている。

リハビリテーション学科においては、平成27年度は企画がなかったが、来年度に向けて講演会や国家試験の模擬試験実施を検討している。詳細については、平成27年度就職・進路対策委員会報告書に記載する（p.110）。

## 2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

### 2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

本学の教育に対する社会的評価は、開学2年目で卒業生を輩出しておらず、不明である。その評価は、国家試験の合格率や職種関連資格取得状況、専門領域への就職率等が客観的評価の指標となり、来年度にはそれぞれの客観的評価を高める方策を整備する予定である（委員会報告、次年度への課題等参照）。

### 2-6-② 教育内容・方法および学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

学生による授業評価アンケート案を教授会に諮り、承認された授業評価アンケートを各科目の最終授業時間内で実施した。集計した結果は、図書館に掲示し学生に周知するとともに、授業担当者に自由記載を含めて通知した（FD委員会報告書p.111）。年度末に本学ホームページに公開する予定であったが、ホームページ改修中につき、改修後に掲載予定である。



## 2-7 学生サービス

### 2-7-① 学生生活の安定のための支援

本学における学生生活支援の窓口は、主に学生委員会が担っている。学生委員会では、キャンパスの保安向上に関する事項の検討、環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）、ニュースレター「あずまし」の発刊、「学生委員からのお知らせ」の配布、学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」の配布、生活指導、学生の満足度調査の実施などの通常業務のほか、生活指導や人間力の向上の啓発のための学生委員会主催事業、学友会支援事業、学生の賞罰に関する事項、奨学金に関する事項、国際交流、海外研修に関する事項を検討し、より良い学生生活の実現に向けた活動を行っている。本委員会の平成26・27年度の活動の詳細については、学生委員会活動の項（p.93）に記載する。

学科における学生支援については、各学年に学担を配置し、学修指導、生活指導を行っている。学生の変化をいち早く把握するため、常に情報収集に努め、学科会議等を通じて、教職員間で共有し解決策を講じている。リハビリテーション学科では、チューター制度を導入している。

経済的支援については、日本学生支援機構奨学金、日本政策金融公庫教育ローン、社会福祉法人北海道社会福祉協議会教育支援資金、高等職業訓練促進給付金事業、北海道看護職員養成修学資金（看護学科のみ）などの公的奨学金制度のほかに、一般入学試験において合格した者の中から、優秀な成績をもって本学に入学する者に与えられる日本医療大学特待生制度、学校法人日本医療大学後援会奨学金制度など本学独自の奨学金制度を設けている。平成26・27年度の日本学生支援機構および他の奨学金貸与は以下の表2-7-①-aのとおりで、貸与者の在学生に占める比率は、平成26年度は67%、平成27年度は63%である。

学内におけるサークル活動等、団体の設立、活動、解散については、日本医療大学学内団体規程（CAMPUS HAND BOOK 2015, p.90）に定められている。団体の設立、解散は、学生委員会で審査され学長の許可を受けなければならない。学生のサークル活動は、専門教育科目の教育課程時間数が増える上級学年については、参加が非常に厳しいこと、また、臨地・臨床実習があることから、時間的にゆとりがある1・2年生を中心に行われている。平成26・27年度の学生団体は、表2-7-①-bのとおりである。

学生の健康を管理する保健室の使用については、平成26年9月から真栄キャンパスの保健室に常勤の専任職員が配置された。平成26年度および平成27年度の保健室来室状況は、応急処置が119人、相談その他（健康診断結果に基づく健康相談含む）が263人。来室項目別人数は表2-7-①-cのとおりで、来室実数は140人である。なお、平成27年度に設立されたリハビリテーション学科が所在する恵み野キャンパスには、専用の保健室はなく、また専任職員も配置していない。

学生相談室については、真栄キャンパスに平成26年9月から非常勤の臨床心理士が配置され、講義期間中の毎週水曜日に開室を行った。平成26年度の相談延べ人数は20件（内訳：学生12件、教員8件）であった。平成27年度は9月から毎月一度恵み野キャンパスでの開室を実施した。利用状況は2-7-①-dのとおりである。

他にも、体育大会、アンデルセングルメ祭り、日医祭（大学祭）、ナーシングセレモニー（看護学科）など、学生生活に潤いを与える企画を学生とともに学生委員会が企画・実施している。

表2-7-①-a. 各種奨学金受給状況

		平成26年度						平成27年度					
		日本学生 支援機構			北海道 看護職員 修学資金	その他	計	日本学生 支援機構			北海道 看護職員 修学資金	その他	計
		1種	2種	併用				1種	2種	併用			
看護学科	1年	9	31	10	7	0	57	8	29	14	4	1	56
	2年	-	-	-	-	-	-	9	30	10	9	0	58
	3年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション学科	1年	-	-	-	-	-	-	7	17	2	-	0	26
	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
診療放射線学科	1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計		9	31	10	7	0	57	24	76	26	13	1	140

単位は人

表2-7-①-b. 学生のサークル活動状況

	平成26年度		平成27年度	
	サークル名	登録者数	サークル名	登録者数
学生団体	ボランティア	31	ボランティア	7
	茶道	8	茶道	12
	漫画・イラスト	5	漫画・イラスト	8
	スポンティア	13	スポンティア	32
	演劇	9	演劇	8
	バトミントン	10	バトミントン	15
	バレーボール	15	バレーボール	20
			スケボー	8
			アドベンチャー	12
			バスケットボール	8
			動画作成	5
		サッカー	11	
計	7団体	91	12団体	146

単位は人

表2-7-①-c. 保健室利用状況

	平成26年度	平成27年度
来室延べ人数	68	382
A 内科系	7	62
B 外科系	3	38
C その他	4	19
D 相談	52	217
E その他	2	46

単位は人

A・B：傷病理由の来室

C：眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科、心因性

D：呼出し面談、精密検査報告、予防接種の報告、健康面について

E：物品の貸与（マスク、綿棒、生理用品、救急絆創膏）

表2-7-①-d. 学生相談室利用状況

	平成26年度		平成27年度	
	利用者数（実数）	相談件数（延べ数）	利用者数（実数）	相談件数（延べ数）
真栄キャンパス	6	20	7	39
恵み野キャンパス	0	0	0	0
計	6	20	7	39

単位は人

## 2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

毎年度、学生の満足度調査を5月に実施し、その結果を教授会に報告の上、ニュースレター「あずまし」に掲載している。学生の意見や要望を検討し、可能なものから改善を行なっている。平成27年度については、スクールバス運用や学生食堂のメニューについて改善を行った。

## 2-8 教員の配置・職能開発

### 2-8-① 教育目的および教育課程に則した教員の確保と配置

本学は、平成25年に文部科学省から設置認可を受け、開学後2年が経過したばかりで、設置認可後の学年進行中である。保健医療学部看護学科は平成26年4月に開設され、同リハビリテーション学科は平成27年4月に設置された。同診療放射線学科は平成28年4月に設置予定である。本学の教育目的を達成すべき両学科の概要、現状、教員の教育・研究・社会活動、学術業績は以下のとおりである。

#### [看護学科の概要]

日本医療大学保健医療学部看護学科（以下、「看護学科」という。）は、平成26年4月に開設された。看護学科の入学定員は80人である。

看護学科の教育目的は、本学の建学の精神「ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる人間力」、教育理念「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学習の能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」を掲げている。

また、看護専門職として、将来にわたり、永続的に自己成長、自己研鑽を続けていくための資質や能力を養うことができるような教育を展開し、看護学学士課程としての学修成果を得た看護師を育成することを目指している。

建学の精神、教育理念、教育目的を具現化するために、以下のような教育目標を定め育成する人材像を描いている。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる

2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践ができる
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる

看護学科の入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のとおりである。

1. 学習の基礎的な能力を持ち、本学での学習に意欲を持つ人
2. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
3. 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4. 人に関心を持ち、豊かな人間性とあたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5. 知的好奇心をもち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、「入学受入れ方針」に従い入学した学生に対し、看護学科の教育目的・教育目標に基づき、以下の方針で教育を展開する。

1. 人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成
3. 科学的思考を基盤とした看護実践能力の育成
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力の育成

看護学科の教育課程修了時に、以下の態度や能力を修得している学生に学位を授与する（卒業認定・学位授与方針、ディプロマ・ポリシー）。

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. 看護の対象となる人を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、看護を実践する能力
6. エビデンスに基づいた看護ケアを安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

## 看護学科の現状

平成26年4月入学者は85人、平成27年4月入学者は84人であった。学修が円滑に進み、充実した学生生活となるための支援として、学担を1期生においては1年次8人、2年次4人、2期生においては1年次4人配置し、学担間および学担と他の教員間で連絡を密にし、細やかな学習・生活支援を行っている。また、オフィスアワー制度を導入しており、全ての教員がオフィスアワーを学生に提示し、学生の訪問・相談を受けている。

平成26年度においては本学保健医療学部は看護学科のみの設置であり、先輩がいない状態であったが、学生委員会の教員が中心となって支援し、学友会および7つの学内団体を立ち上げ、体育大会、

大学祭を開催した。平成27年度においては恵み野キャンパスにリハビリテーション学科が設置され、学友会活動等においてリハビリテーション学科の学生と協同・交流する姿が見られ、医療専門職としての素養を培っている。

看護学科学生1期生・2期生計169人に対し、教員は、平成26年度は18人（基礎科目4人、専門基礎科目2人、看護学12人）、平成27年度は25人（基礎科目4人、専門基礎科目3人、看護学18人）であった。教員は、学年進行にともない着任することが決定しており、今後若干名が着任される予定である。職階は、平成27年3月時点で教授7人（基礎科目1人、専門基礎科目3人、看護学3人）、准教授6人（基礎科目3人、看護学3人）、講師6人（看護学）、助教3人（看護学）、助手3人（看護学）であり、年齢構成は、60歳代以上5人（教授4人、講師1人）、50歳代13人（教授3人、准教授3人、講師4人、助教1人、助手2人）40歳代3人（准教授2人、講師1人）、30歳代4人（准教授1人、助教2人、助手1人）であった。平成27年度末に准教授1人、助教1人の退職が承認された。また、平成29年度着任予定であった教授予定者が着任を辞退した。今後、それぞれの後任教員の補充を急がなければならない。（資料、職階別教員構成 表2-8-①-a（平成26年度）、表2-8-①-b（平成27年度）。年齢構成 表2-8-①-c（平成26年度）、表2-8-①-d（平成27年度））

研究活動については、本学着任前からの研究テーマを継続して行っている教員が多く、学外および学部資金獲得教員も多く認められ、成果を上げている。日本医療大学保健医療学部開設年度から紀要を発刊し、第1巻（2015年発刊）には総説1本、論文7本が、第2巻（2016年発刊）には総説1本、論文6本が掲載された。また、本学の認知症研究所には教授が1人参画しており、他大学と共同研究を行っている。

看護学科の社会貢献としては、北海道看護協会をはじめとした看護系団体の委員や研修講師、市中病院の看護部研修における看護師の研究指導等に教員を派遣している。また、個人的な社会貢献や、専門職育成に尽力している教員も多く存在する。

表2-8-①-a. 平成26年度 看護学科教員数

教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
5 (2)	6 (1)	5	3	19 (3)	13 (7)

単位は人（ ）内は男性

表2-8-①-b. 平成27年度 看護学科教員数

教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
7 (3)	6 (1)	6	3	22 (4)	27 (15)

単位は人（ ）内は男性

表2-8-①-c. 平成26年度 専任教員の年齢構成

	66～70歳	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	26～30歳	計
教授	1	1	2	1						5
准教授			2	1	1		2			6
講師		1		3		1				5
助教					1		1		1	3
計	1	2	4	5	2	1	3		1	19

単位は人

表2-8-①-d. 平成27年度 専任教員の年齢構成

	71～75歳	66～70歳	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	計
教授	1	1	1	3	1					7
准教授				2	1	1	1	1		6
講師			1		3	1	1			6
助教						1		1	1	3
計	1	1	2	5	5	3	2	2	1	22

単位は人

## 看護学科教員の教育・研究・社会活動

氏名 傳野 隆一 職階 学長、教授

専門分野：医学

教育活動：

責任科目：形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、形態機能学Ⅲ、総合医療論、保健医療論

担当科目：チーム医療論

非常勤講師：認知症介護実践研修（日福）、社会と健康史（札幌医大）、外科学（札幌医大）

学内委員会・学科内業務等：教授会、入試広報委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本医学教育学会、日本医師会

科学研究費（研究資金）等の取得：奨学寄付金

社会活動：民事調停員、専門調停員、日本消化器外科学会指導医、日本臨床外科学会評議員、尊厳死協会北海道支部理事

氏名 門間 正子 職階 看護学科長、教授

専門分野：成人看護学、急性期看護、周手術期看護、クリティカルケア看護

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（2年後期、2単位30時間：30時間）

担当科目：

平成26・27年度 看護を知る（1年前期、1単位30時間：30時間）、看護ゼミナールⅠ（1年通年30時間：30時間）

非常勤講師：北海道医療センター附属札幌看護学校（看護研究）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、入試広報委員会（委員長代理）、自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、人権擁護委員会

学術活動：所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会（評議員）、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、札幌医科大学クリティカルケア看護研究会（評議員）、北海道救急医学会  
科学研究費（研究資金）等の取得：

一般財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所平成26年度研究助成

テーマ 「北海道の道北地方において救急医療に携わる看護師が抱える困難の現状と課題—アクションリサーチによる支援モデルの構築」

一般財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所平成27年度研究助成

テーマ 「北海道の地方において救急医療に携わる看護師が抱える困難の状況と課題—アクションリサーチによる支援モデル構築の基礎的研究」

社会活動：

日本看護歴史学会第29回学術集会企画委員

日本看護歴史学会第29回学術集会実行委員

札幌山の上病院看護部研修において同病院看護師の研究指導

苫小牧市立病院看護部研修において同病院看護師の研究指導

新札幌循環器病院看護部研修において同病院看護師の研究指導（H26）

平成26年度北海道専任教員養成講習会において受講生に対し研究指導（H26）

平成27年度北海道専任教員養成講習会において受講生に対し研究指導（H27）

氏名 村松 幸 職階 教授

専門分野：衛生学、公衆衛生学、医療統計学、疫学

教育活動：

責任科目：公衆衛生学、保健医療統計学、統計学、情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ

担当科目：上記と同じ

非常勤講師：公立法人九州歯科大学歯学部歯学科「食と歯」

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 教授会、図書館長、図書・学術振興委員会（委員長）、研究費審査委員会、研究倫理委員会（委員長）

平成27年度 教授会、図書館長、図書・学術振興委員会（委員長）、研究審査委員（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本衛生学会（評議員）、日本民族衛生学会（評議員）、日本疫学会、日本公衆衛生学会、日本栄養・食糧学会（参与）

科学研究費（研究資金）等の取得：基盤研究C、研究分担者「世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状態に与える影響」—栄養疫学的研究（平成27年度～平成29年度）

社会活動：

社団法人日本栄養士会査読委員、東大保健学同門会幹事

氏名 林 美枝子 職階 教授

専門分野：医療人類学、性人類学、社会医学

教育活動：

責任科目：

平成26年度 看護学科 文化人類学

平成27年度 看護学科 家族論 文化人類学

リハビリテーション学科 文化人類学 社会学

非常勤講師：

平成26年度 北海道情報大学（文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ）

平成27年度 北海道情報大学（文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ）

札幌国際大学（地域社会と健康、高齢社会と健康）

学内委員会・学科内業務等：平成26・27年度 教授会、学生委員会（委員長）、人権擁護委員会（委員長）、研究倫理委員会

学術活動：

所属学会、研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本フォレンジック看護学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：

平成26年度 北海道犯罪被害者等支援推進委員会 副委員長

平成27年度 第31回日本女性会議の実行委員長として会議を開催

平成27年度北海道専任教員養成講習会 文化人類学、家族論を担当

北海道看護師、助産師、保健師実習指導者養成講座 文化人類学を担当

公益財団法人市町村振興協会 評議員

一般財団法人道民活動振興センター 評議員

札幌市男女共同参画審議会 会長

北海道民族学会運営委員



北海道社会功労賞推薦委員

氏名 小山 満子 職階 教授

専門分野：

教育活動：

責任科目：

平成26年度 「看護を知る」1単位、「看護ゼミナールⅠ」1単位

平成27年度 「看護を知る」1単位、「看護ゼミナールⅠ」1単位、「看護ゼミナールⅡ」1単位、「母性看護学概論」2単位

担当科目：同上

非常勤講師 平成26年度 専門学校日本福祉学院（母性看護学概論）

平成27年度 専門学校日本福祉学院（母性看護学概論）

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 教授会、教務委員会（委員長）、自己点検・評価委員会（委員長）、人権擁護委員会、研究費審査委員会、ハラスメント相談員

平成27年度 教授会、教務委員会（委員長）、人権擁護委員会、研究費審査委員会、ハラスメント相談員

社会的活動：

氏名 賀来 亨 職階 教授

専門分野：病理学、コンピュータ教育

教育活動：

責任科目：

平成27年度 生命科学、病態病理学、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、疾病論Ⅳ

非常勤講師：札幌医科大学（医学部：病理学）、天使大学（栄養学科：形態機能学、病理学、看護学科：病理学）、北海道ハイテクノロジー専門学校（看護学科：病理学）、北海道メディカル・スポーツ専門学校（柔道整復師学科：臨床医学）

学内委員会・学科内業務等：教授会

学術活動：

所属学会：日本病理学会、日本骨代謝学会、日本栄養改善学会、日本唾液腺学会、コンピュータ利用教育学会（CIEC）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本唾液腺学会評議員

氏名 畑瀬 智恵美 職階 教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：

平成27年度 看護学概論（1年次前期、2単位30時間）、看護の基本技術論（1年次前期1単位30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次後期、1単位30時間）、フィジカルアセスメント（2年次前期、1単位30時間）、診療過程の援助技術（2年次前期、1単位30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次前期、1単位45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次後期、2単位90時間）

担当科目：

平成27年度 看護ゼミナールⅡ（2年次通年、1単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：平成27年度 教授会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：旭川厚生病院 看護院内研修「看護研究」の指導、札幌病院 看護研究の指導

氏名 佐々木 由紀子 職階 准教授

専門分野：成人看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：

平成26年度なし

平成27年度；チーム医療、成人看護援助論Ⅰ

担当科目：

平成26年度；看護を知る、看護ゼミナールⅠ

平成27年度；看護を知る、看護ゼミナールⅠ、成人看護学特論、看護ゼミナールⅡ

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院看護学科、北海道看護協会認定看護管理者教育課程

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、入試広報委員会、自己点検・評価委員会、学生担当教員、カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本環境感染学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、医療の質・安全学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：

北海道看護協会認定看護管理者教育運営委員会委員長、

北海道看護協会創立65周年記念誌担当委員会委員、

第48回日本看護学会—看護管理—学術集会準備委員会委員、

第29回日本看護歴史学会実行委員、  
社会福祉法人ノテ福祉会「感染症予防研修」講師、  
新札幌循環器病院看護部看護研究指導

氏名 松本 真由美 職階 准教授

専門分野：精神保健学 社会福祉学 発達心理学

教育活動：

責任科目：

平成26年度：心理学（1単位15時間）、人間関係論（1単位15時間）、発達心理学（1単位15時間）

平成27年度：看護学科；心理学（1単位15時間）、人間関係論（1単位15時間）、発達心理学（1単位15時間）、臨床心理学（1単位15時間）、リハビリテーション学科；心理学（1単位15時間）、発達心理学（1単位15時間）

担当科目：同上

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度：教授会、教務委員会、FD委員会（委員長）、学生担当教員（1年Dクラス）、茶道サークル顧問、第1回日本医療大学保健医療学部研究報告会（2015年3月30日）：発表「精神に障がいのある人々の政策決定過程への関与」

平成27年度：教務委員会、FD委員会（委員長）、ハラスメント防止対策委員会、学生相談対応教員、学生担当教員（2年CDクラス）、茶道サークル顧問、推薦入学者対象入学前学習課題担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本フォレンジック看護学会、北海道社会福祉学会（理事）、北海道地域福祉学会

科学研究費（研究資金）等の取得：平成27年度～29年度科学研究費基盤研究（C）

地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画に関する調査研究

社会活動：平成26年度 北海道社会福祉学会理事、交流分析士2級資格取得、日本精神保健福祉学会論文査読

平成27年度：北海道社会福祉学会理事、DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修受講 Aコース修了、WRAP研修会参加修了、日本精神保健福祉学会論文査読、シルバー新報誌（2015年8月28日）：リカバリー全国フォーラム特集：もっと社会参加を（掲載）、しんぶん赤旗紙（2015年9月11日）：リカバリー全国フォーラム特集；地方審議会当事者参加は3割（掲載）、宮城県議中嶋廉氏ブログ（2015年9月12日）：精神障害の当事者も精神保健福祉審議会の委員に！（掲載）

氏名 小島 悦子 職階 准教授

専門分野：がん看護、緩和ケア、看護技術

教育活動：

責任科目：

平成26年度 看護学概論（2単位30時間）、援助的人間関係論（1単位30時間）

平成27年度 看護学概論（2単位30時間）、援助的人間関係論（1単位30時間）、看護ゼミナールⅡ（1単位30時間）

担当科目：

平成26年度 看護を知る（1単位30時間）

平成27年度 生活援助技術Ⅰ（1単位30時間）、生活援助技術Ⅱ（1単位30時間）、生活援助技術Ⅲ（1単位30時間）、診療過程の援助技術（1単位30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（1単位45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2単位90時間）

非常勤講師：平成26年度 札幌保健医療大学（看護技術論Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 教授会、図書・学術振興委員会、FD委員会、研究費審査委員会

平成27年度 教授会、図書・学術振興委員会、FD委員会、研究費審査委員会

学科内：平成26・27年度 カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本緩和医療学会、日本がん看護学会、日本看護技術学会、日本死の臨床研究会、NPO法人ホスピスケア研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：平成26年度～平成28年度 基盤研究（C）認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発：研究分担者

社会活動：NPO法人ホスピスケア研究会札幌活動委員会世話人

市民と共に創るホスピスケアの会「ちえのわ」事業の企画・運営

日本死の臨床研究会札幌支部常任世話人

日本緩和医療学会教育・研修委員会ELNEC-J講師WG員

日本死の臨床研究会北海道支部201R年度春の研究会座長（2014年4月19日）

北海道がんセンター ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師（2014年9月18～19日）

ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成研修講師（2015年1月31日～2月1日）

札幌厚生病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師（2015年1月17～18日）

北海道看護協会「ELNEC-J高齢者プログラム研修会」講師（2015年8月1～2日）

氏名 森口 真衣 職階 准教授

専門分野：文献学、宗教学、インド思想史、アジア医学・医療史

教育活動：

責任科目：

平成26年度 倫理学（1単位15時間）、生命倫理（1単位15時間）

平成27年度 倫理学（看護学科1単位15時間）、倫理学（リハビリテーション学科1単位15時間）、  
生命倫理（看護学科1単位15時間）、生命倫理（リハビリテーション学科1単位15時間）、宗教  
と思想（1単位15時間）

担当科目：同上

非常勤講師：

平成26年度 札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、北海道薬科大学（文学）、苫小  
牧看護専門学校（哲学、生命倫理：分担）、北星学園大学（現代と宗教：分担）

平成27年度 札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、北海道薬科大学（文学と人間）、  
苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理：分担）北星学園大学（現代と宗教：分担）

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 教授会、学生委員会、研究倫理委員会、人権擁護委員会、入試広報委員会、規程集  
ワーキンググループ、平成27年度入試推薦入学者入学前学習課題担当（責任者）

平成27年度 教授会、学生委員会、研究倫理委員会、人権擁護委員会、入試広報委員会、看護学  
科オープンキャンパスワーキンググループ（責任者）、平成28年度入試推薦入学者入学前課題  
担当（責任者）

学術活動：

所属学会・研究会等：

平成26年度：日本宗教学会、日本精神病理学会、日本印度学仏教学会、日本医学哲学・倫理学  
会、日本生命倫理学会、日本医学教育学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本病跡学会、  
日本森田療法学会、インド思想史学会、仏教思想史学会、佛教文学会、日本説話・伝承学会、  
日本看護歴史学会、北大文学研究科宗教学研究会、北海道生命倫理研究会

平成27年度：日本宗教学会、日本精神病理学会、日本印度学仏教学会、日本医学哲学・倫理学  
会、日本生命倫理学会、日本医学教育学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本病跡学会、  
日本森田療法学会、インド思想史学会、仏教思想史学会、佛教文学会、日本説話・伝承学会、  
北大文学研究科宗教学研究会、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）

科学研究費（研究資金）の取得：

平成26年度：科研費（基盤研究C）「インド精神医学史における疾病概念の変遷および宗教的  
実践と精神療法の関連」研究代表者（平成24－28年度）

メンタルヘルス岡本記念財団研究活動助成「森田療法とマインドフルネス認知療法の比較に  
関する文献的研究」研究代表者（平成26年度）

日本医療大学学術助成費「多分野協同によるコミュニケーション能力養成プログラムの開発」  
共同研究者（平成26年度）

平成27年度：科研費（基盤研究C）「インド精神医学史における疾病概念の変遷および宗教的  
実践と精神療法の関連」研究代表者（平成24－28年度）

日本医療大学教育向上研究費「多分野協同によるコミュニケーション能力養成プログラムの  
開発（第2期）」共同研究者（平成27年度）

社会活動：

平成26年度：北大文学研究科若手研究者支援セミナー2014「アカデミックポストにたどりつくまで」話題提供者（2014年12月8日）

氏名 山田 敦士 職階 准教授

専門分野：言語学、音声学、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：

平成26年度 日本語表現（1単位30時間）

平成27年度 日本語表現（1単位30時間）、中国語（1年次、1単位30時間）、中国語（2年次、1単位30時間）

担当科目：同上

非常勤講師：

平成26年度：日本福祉リハビリテーション学院（言語学、音声学、言語障害評価学特論）、日本福祉看護・診療放射線学院（国語）、北星学園大学（中国語Ⅰ、中国語Ⅱ）

平成27年度：日本福祉リハビリテーション学院（言語学、音声学、英語、言語障害評価学特論）、日本福祉看護・診療放射線学院（国語）、北星学園大学（中国語Ⅰ、中国語Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 教授会、教務委員会、学生委員会、学生担当教員、カリキュラム検討会、規程集ワーキンググループ、入学前課題担当、バドミントン部顧問

平成27年度 教授会、教務委員会、学生委員会、学生担当教員、入学前課題担当、バドミントン部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

平成26年度：日本言語学会、日本中国語学会、中国人文学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、北海道民族学会、家畜資源研究会、看護歴史学会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト（共同研究員）、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター（研究協力者）

平成27年度：日本言語学会、日本中国語学会、中国人文学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、北海道民族学会、家畜資源研究会、社会言語科学会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト（代表）

科学研究費（研究資金）の取得：

平成26年度：科研費（基盤研究C）「漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究」

研究分担者（平成25－28年度）

科研費（研究活動スタート支援）「ワ族のリテラシーに関する調査研究」研究代表者（平成26－27年度）

科研費（基盤研究B）「交通路より見た西南中国・東南アジア大陸部地域の再検討」

研究協力者（平成26年度）

日本医療大学学術助成費「多分野協同によるコミュニケーション能力養成プログラムの開発」  
研究代表者

平成27年度：科研費（基盤研究B）「言語・文化調査に基づくタイ文化圏の少数民族の歴史の解明」  
研究分担者（平成27－29年度）

科研費（基盤研究C）「漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究」研究分担者（平成  
25－28年度）

科研費（研究活動スタート支援）「ワ族のリテラシーに関する調査研究」研究代表者（平成  
26－27年度）

日本医療大学教育向上研究費「多分野協同によるコミュニケーション能力養成プログラムの  
開発（第2期）」研究代表者

社会活動：平成26・27年度共通 日本中国語検定協会札幌会場運営補佐

氏名 伊藤 廣美 職階 講師

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

平成26・27年度 看護を知る、看護ゼミナールⅠ

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度教務委員会

平成26・27年度 就職進路対策委員会、自己点検・評価委員会、学生担当教員、実習検討会

学術活動：

所属学会：日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護診断学会、日本  
遠隔医療学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：瑞宝単光章（2014年）

氏名 藤長 すが子 職階 講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：

平成26・27年度 生活援助技術Ⅰ（1単位30時間）、生活援助技術Ⅲ（1単位30時間）、

担当科目：

平成26年度 看護を知る（平成26年度、1単位30時間）、看護の基本技術論（1単位30時間）、生

活援助技術Ⅱ（1単位30時間）、ゼミナールⅡ（1単位30時間）

平成27年度 看護の基本技術論(1単位30時間)、生活援助技術Ⅱ(1単位30時間)、ゼミナールⅡ(1単位30時間)、フィジカルアセスメント（1単位30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（1単位45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2単位90時間）

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 就職・進路検討委員会、実習検討会

平成27年度 就職・進路検討委員会

学術活動：

所属学会：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会

社会活動：

平成26年度 北海道看護教育施設協議会役員、北海道実習指導者講習会特定分野指導案作成講義

平成27年度 北海道実習指導者講習会特定分野指導案作成講義

氏名 滋野 和恵 職階 講師

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：

担当科目：

平成26年度：看護を知る（1単位30時間）、看護ゼミナールⅠ（1単位30時間）

平成27年度：看護を知る（1単位30時間）、看護ゼミナールⅠ（1単位30時間）

非常勤講師：

平成26年度：専門学校日本福祉看護・診療放射線学院看護学科 研究の基礎（1単位30時間）

平成27年度：専門学校日本福祉看護・診療放射線学院看護学科 研究の基礎（1単位30時間）

学内委員会・学科内業務等：

平成26・27年度 入試広報委員会、図書学術委員会、学生副担当教員、カリキュラム検討会、庶務、オープンキャンパス担当G、看護学科1日体験入学G、看護を知る担当G

平成27年度 看護研究・同演習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST普及協会、日本フォレンジング学会、日本看護協会、日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）等の取得：平成26、27年度なし

社会活動：

平成26年度 なし

平成27年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会（主催北海道看護協会）演習助言者

氏名 福島 眞里 職階 講師



専門分野：母性看護 子育て支援 性教育 二分脊椎

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（1単位30時間）、看護ゼミナールⅠ（1単位30時間）

非常勤講師：無

学内委員会・学科内業務等：

平成26・27年度 学生委員会、就職・進路対策委員会、学生担当教員、カリキュラム検討会、実習検討会、看護ゼミナールⅠ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：

平成26年度 日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本二分脊椎研究会

平成27年度 日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：

平成27年度 北海道看護協会教育委員

氏名 岡田 尚美 職階 講師

専門分野：在宅看護、地域看護、公衆衛生看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

平成27年度 看護ゼミナールⅠ（1単位30時間）、看護を知る（1単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度：カリキュラム検討会

平成27年度：学生担当教員、FD委員会、カリキュラム検討会、看護研究・看護研究演習担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本子ども虐待防止学会、北海道公衆衛生学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費の取得：

平成27～29年度 科学研究費補助金（研究代表者：岡田尚美、基盤研究C、課題番号15K11675）

平成27～30年度 科学研究費補助金（研究代表者：上田泉、基盤研究C、15K11853、）

社会活動：

平成26・27年度 北海道看護協会主催 指導者のための看護研究－研究をクリティークしてみよう－研修会演習ファシリテーター

氏名 高儀 郁美 職階 講師

専門分野：成人看護学（慢性期）

教育活動：

責任科目：成人看護学特論

担当科目：看護を知る（1単位30時間）、ゼミナールⅠ（1単位30時間）、成人看護援助論Ⅰ（1単位30時間）、成人看護学特論（1単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス・高大連携ワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本死の臨床研究会、日本行動療法学会、日本家族看護学会、日本看護科学学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会会員

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

氏名 斉藤 リカ 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

平成26年度 看護を知る、看護ゼミナールⅠ

平成27年度 看護を知る、看護ゼミナールⅠ

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

平成26年度 学生担当教員、FD委員会

平成26年度 実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本生理人類学会、日本睡眠学会、日本プライマリ・ケア連合学会、高齢者ケアリング研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

氏名 萩田 真美 職階 助教

専門分野：家族看護学、成人看護学（慢性期）、基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

平成26年度 生活援助技術Ⅰ（1年次前期、1単位 実時間数32時間）

生活援助技術Ⅱ（1年次後期、1単位 実時間数18時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次後期、1単位 実時間数28時間）

平成27年度 生活援助技術Ⅰ（1年次前期、1単位 実時間数38時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次後期、1単位 実時間数12時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次後期、1単位 実時間数28時間）、診療過程の援助技術（2年次前期、1単位 実時間数32時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次前期、1単位 実時間数45時間）、看護ゼミナールⅡ（2年次通年、1単位 30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次後期、2単位 90時間）、フィジカルアセスメント（2年次前期、1単位 実時間数24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

平成26・27年度 庶務係

平成27年度 1日看護学学生体験グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本家族看護学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：

平成27年度 札幌国際プラザ外国語ボランティア

氏名 辻 幸美 職階 助手

専門分野：在宅看護領域 老年看護学

教育活動：

専任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス・ワーキンググループ、1日看護学学生体験グループ

学術活動：所属学会・研究会等：日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本在宅ケア学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、CNS 老人看護分野学修会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道医療大学主催生涯学習特別講演で、「ちょっと役立認知症看護について」を役員として開催。老年看護学会分科会老年看護学習会初級偏を役員として開催。

氏名 吉田 香 職階 助手

専門分野：基礎看護学、看護教育学

教育活動：

責任科目：平成27年度 なし

担当科目：看護学概論（1年次前期、必修科目、講義、2単位30時間）

援助的人間関係論（1年次後期、必修科目、講義、1単位30時間）

看護の基本技術論（1年次前期、必修科目、講義、1単位30時間）

生活援助技術Ⅰ（1年次前期、必修科目、演習、1単位30時間）

生活援助技術Ⅱ（1年次後期、必修科目、演習、1単位30時間）

生活援助技術Ⅲ（1年次後期、必修科目、演習、1単位30時間）

診療過程の援助技術（2年次前期、必修科目、演習、1単位30時間）

フィジカルアセスメント（2年次前期、必修科目、演習、1単位30時間）

基礎看護学実習Ⅰ（2年次前期、必修科目、実習、1単位45時間）

基礎看護学実習Ⅱ（2年次後期、必修科目、実習、2単位90時間）

看護ゼミナールⅡ（2年次通年、必修科目、演習、1単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス・ワーキンググループ、看護ゼミナールⅡ担当グループ、学科会議議事録担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、日本看護歴史学会、日本看護科学学会、北海道臨床倫理検討会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

氏名 合田 恵理香 職階 助手

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：担当科目なし

担当科目：担当科目なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

平成27年度 オープンキャンパス・ワーキンググループ、高大連携ワーキンググループ、看護ゼミナールⅢ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本クリティカルケア看護学会、日本看護歴史学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本看護歴史学会第29回学術集会実行委員

## 看護学科の学術業績

論文（著書，総説，原著，その他）：

### 著 書

山田敦士（2014）. 山地民にとっての文字：中国雲南省ワ族の事例から. クリスチャン・ダニエ  
ルス（編）. 東南アジア大陸部山地民の歴史と文化. 東京：言叢社，193-216.

上田泉，青柳道子，岩本幹子，岡田尚美，菊地ひろみ，佐々木雅彦，進藤ゆかり，竹生礼子，照  
井レナ，横山まどか（2015）. 在宅看護過程演習－アセスメント・統合・看護計画から実施・  
評価へ－. 東京：クオリティケア，56-57, 81-97

### 総 説

村松宰（2015）. 看護研究における統計解析の誤用について（解説），日本医療大学紀要，1，2-6.

岡田尚美（2015）. 母子の支援に携わる保健師および助産師の連携・協働に関する文献レビュー.  
北海道医療大学看護福祉学部学会誌，11（1），77-83.

### 原 著

傳野隆一（2014）. 終末期医療における尊厳死について.北海道生命倫理研究. 2,33-36.

中井夏子，岩田美智子，門間正子，中村美穂（2014）. 独立型救命救急センターに勤務する看護  
師のやりがいに関する基礎的研究. 札幌保健科学雑誌，3，43-49.

皆川ゆり子，神田直樹，門間正子，中井夏子，田口裕紀子，城丸瑞恵（2014）. クリティカルケ  
ア看護領域に従事する看護師のキャリア発達に関する実態調査－認定看護師，専門看護師，修  
士・博士に対する認識と資格および学位取得に必要と考える事項および情報源. 札幌保健科学  
雑誌，3，51-58.

中井夏子，門間正子（2014）. 北海道の救命救急センターに勤務する看護師の蓄積的疲労に関す  
る横断的調査. 日本臨床救急医学会雑誌，17（1），1-10.

中井夏子，多比良千晶，門間正子，井波久美子，細海加代子（2014）. 救命救急センターに  
配置転換した看護師の蓄積的疲労に関する実態調査. Journal of Regional Emergency and  
Disaster Medicine Research, 13, 21-26.

遠藤眞美，久保田有香，久保田潤平，村松宰，柿木保明（2014）. 高齢者のドライマウスのリス  
ク因子に関する研究－歯科外来受診高齢者における検討－ヘルスサイエンス・ヘルスケア，13  
（2）60-66.

久賀久美子，小島悦子，木津由美子，森川由紀（2014）. 月経随伴症状に対する温罨法の効果に  
ついて. 天使大学紀要14（2），117-124.

Moriguchi M（2014）. The concept of diseases and the *tri-doṣa* theory in the  
*Suśrutasamhitā*. Journal of Indian and Buddhist Studies, 63（3），1183-1190.

作宮洋子，伊藤廣美，金田豊子，上田順子，三上大季，守屋潔，大田哲生，住友和弘，羽田勝計，

- 吉田晃敏 (2014) . TV電話による通院患者・家族の自己健康管理促進支援の在り方に関する研究. 日本遠隔医療学会雑誌, 10 (2), 201-204.
- 山田敦士 (2015). 滄源ワ族自治県の碑文テキスト. 北海道民族学, 11, 75-83.
- 山田敦士 (2015). 叢書『知られざるアジアの言語文化』1-8号. 北海道民族学, 11, 100-103.
- 松本真由美 (2015) . 地方精神保健福祉審議会において活躍する当事者委員：大阪府堺市の場合. 北海道社会福祉研究, 35, 1-13.
- 松本真由美, 山田敦士, 森口眞衣, 小島悦子 (2015) . エゴグラムを用いたA大学看護学科1年次生の自我状態の分析. 日本医療大学紀要, 1, 15-23.
- 小島悦子, 森口眞衣, 山田敦士, 松本真由美 (2015) . A大学看護学科1年次生の日常生活スキルとコミュニケーション・スキルの特徴. 日本医療大学紀要, 1, 7-14.
- 林美枝子, 松永隆祐, 矢野智之, 飯島美抄子 (2015). 終末期の在宅療養や在宅死の意思決定に関する要因の研究：入通院患者に対する調査結果から. 日本医療大学紀要, 1, 24-37.
- 林美枝子, 小山満子, 滋野和恵, 松本真由美 (2015). 健康阻害要因としての性暴力における被害者支援の考察-北海道の事例から. 日本医療大学紀要, 1, 48-56.
- 松本真由美, 林美枝子, 小山満子, 滋野和恵 (2015). 性暴力被害者支援におけるSANE（性暴力被害者支援看護職）の重要性と課題-人権尊重の視点から-. 日本医療大学紀要, 1, 38-47.
- 滋野和恵, 前垣綾子 (2015). A大学学生のUPIからみた精神的健康度と生活習慣との関連-性別の比較-. 日本医療大学紀要, 1, 63-76.
- 牧野夏子, 伊藤美智子, 門間正子, 中村美穂 (2015). 救急看護師の首尾一貫感覚 (Sense of Coherence) の特徴とその関連要因. 日本臨床救急医学雑誌, 18 (3), 499-505.
- 神田直樹, 門間正子, 中井夏子, 皆川ゆり子, 田口裕紀子, 城丸瑞恵 (2015). クリティカルケア看護領域に勤務する看護師の認定看護師, 専門看護師, 修士・博士号取得に対する認識-勤務する施設の所在地域による比較. 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 22, 31-38.
- 林美枝子, 小山満子, 松本真由美 (2015). 性暴力被害者支援に関する看護師の認識-北海道の実習指導者養成講座に参加した看護師への調査から. 日本フォレンジック看護学会, 1 (2), 68-77.
- 山田敦士 (2015). 班洪ワ族の言語と文字. 饗餐. 23. 102-112.
- 山田敦士 (2016). パラウク・ワ語における共時的な語形成. 北海道言語文化研究, 14, 11-20.
- 山田敦士 (2016). 滄源ワ族自治県の碑文テキスト (2). 北海道民族学, 12, 75-83.
- 林美枝子 (2016). 在宅死の看取りにおける家族介護者の現状と看取り文化の構築に関する考察. 北海道民族学会, 12, 60-69.
- 松本真由美 (2016) . 政策決定過程における精神に障がいのある人々の参加. 日本医療大学紀要, 2, 2-11.
- 松本真由美, 小島悦子, 藤長すが子, 吉田香, 山田敦士, 森口眞衣 (2016) . A大学看護学科1年次生のコミュニケーション・スキルに関する研究-エゴグラム, 日常生活スキル尺度, ENDCORESによる分析-. 日本医療大学紀要, 2, 12-22.

藤長すが子, 小島悦子, 松本真由美, 森口眞衣, 山田敦士, 吉田香 (2016). A大学看護学科1年次生の日常生活スキルとコミュニケーション・スキルの特徴 (第2報). 日本医療大学紀要, 2, 51-57.

森口眞衣 (2015). 「生を支え続ける死」としての輪廻思想-古代インド思想における生死観-. 北海道生命倫理研究, 特集号, 15-28.

林美枝子 (2016). 特別養護老人ホームの看取り介護について-介護職の看取りにおける課題と介護力の向上に関する文献検討. 日本医療大学, 2, 38-50.

小山満子, 林美枝子, 松本真由美, 滋野和恵 (2016). ワシントンD.C.における性暴力被害者支援の実際と日本の現状. 日本医療大学紀要, 2, 23-32.

福島眞里, 門間正子, 合田恵理香, 高儀郁美, 佐々木由紀子, 原谷珠美 (2016). 看護学生1年生が在学中に希望する性教育に関する実態調査. 日本医療大学紀要, 2, 58-64.

辻幸美 (2016). 脳血管疾患を伴う高齢者の平均在院日数と認知症との関連. 日本医療大学紀要, 2, 33-37.

森口眞衣 (2016). 仏教と精神医学の接点について. 最新精神医学, 21 (1), 29-35.

岡田尚美 (2016). 分娩取扱医療機関の助産師が捉える保健師との連携. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 12 (1), 35-40.

辻幸美, 山田律子, 武田純子 (2016). グループホームで終末期を迎えた認知症高齢者の食事に関する家族の満足度と影響要因. 日本認知症ケア学会誌, 14 (4), 792-804.

その他:

傳野隆一 (2015). 平田教授の想いで. 平田教授業績集

傳野隆一 (2015). 巻頭言. 日本医療大学紀要. 創刊号

辻幸美, 萩野悦子, 山田律子, 武田純子. グループホームで最期を迎えた認知症高齢者の食事に関する家族の満足度と影響要因. 日本認知症ケア学会誌, 14, 229. 2015年

口 演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他):

特別講演

林美枝子. 語り継ぐ北海道の歴史と未来: 開拓地における女性の役割: インマヌエル村の萩野吟子の足跡を辿りながら. 日本看護歴史学会第29回学術集会. 2015年8月22日. 札幌

賀来亨. 歯周病と全身疾患: 2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座, 道民カレッジ連携講座, 健康スポーツコース. 2015年8月20日. 札幌

賀来亨. 歯から始まる健康長寿: 2015年度日本医療大学生涯学習公開講座. 2015年10月17日. 札幌

シンポジウム

松本真由美, 市川左千子, 矢部滋也, 伊藤順一郎. 指定発言者: 原田幾世. コーディネーター: 大

島巖, 宇田川健. リカバリー志向サービスへの転換～当事者参加による社会的意思決定PART3.  
リカバリー全国フォーラム2015. 第7回大会. 2015年8月22日. 東京.

Yamada A: Records by others in illiterate societies : a case in Wa of Yunnan, China.

International Symposium on Northern Languages and Cultures. 2015年1月25日. 札幌

山田敦士. 仮語的多音节单纯词初探. 「汉语复音化和复音词相关问题」国際研究会. 2015年1月31日. 札幌

#### 一般口演

小西香苗, 村松宰. 勤労女性における食事パターンとうつ症状について. 第68回日本栄養・食糧学会大会. 2014年4月16日. 横浜

村松宰, 遠藤眞美, 柿木保明. 自立高齢者における口腔機能とMNA - SFとの関係2年間のコホート調査から. 第68回日本栄養・食糧学会大会. 2014年4月16日. 横浜

山田敦士. ワ語における複音節化の傾向. 「漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究」プロジェクト研究例会. 2014年6月29日. 横須賀

小西香苗, 村松宰, 百武愛子. 勤労女性における共食と精神的健康度との関連. 第61回日本栄養改善学会. 2014年8月21日. 横浜

森口眞衣. 『スシュルタサンヒター』における疾病概念の特徴：構成との関係. 日本印度学仏教学会第65回学術大会. 2014年8月30日. 東京

松本真由美, 上野武治, 中村和彦. 政策決定過程への精神障害当事者の参画—地方精神保健福祉審議会に複数の当事者委員を配置する3政令市の特徴—. 日本精神障害者リハビリテーション学会第22回岩手大会. 2014年11月1日. 岩手

山田敦士. 研究者にとっての表記と話者にとっての表記 - 中国雲南省ワ族のリテラシー調査から. 北海道民族学会. 2014年11月15日. 帯広

萩田真美. 音声機能を喪失した喉頭摘出患者の家族の体験. 第34回 日本看護科学学会学術集会. 2014年11月30日

皆川ゆり子, 中井夏子, 門間正子, 神田直樹. クリティカルケア看護領域に勤務する看護師の職業的成熟度の実態および所在地域による比較. 第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 2014年5月24日. 名古屋

福島眞里. 二分脊椎症者が抱える社会的課題—排泄障害を有する二分脊椎症のライフストーリーから—. 第31回日本二分脊椎研究会. 2014年7月5日. 東京

森口眞衣, 大宮司信. 内観療法・森田療法と「仏教」. 第37回日本精神病理学会. 2014年10月5日. 東京

吉田祐子, 中井夏子, 小川謙, 門間正子. 北海道の地方都市における救急看護師の職務経験の構造. 第16回日本救急看護学会学術集会. 2014年10月10日. 大阪

森口眞衣, 大宮司信. 精神療法と「仏教」の関係について. 第32回日本森田療法学会. 2014年11



- 月9日. 東京
- 村松宰, 遠藤眞美, 柿木保明. 自立高齢者におけるドライマウスのリスク要因～主に服薬状況からの分析～. 第79回日本民族衛生学会総会. 2014年11月21日. 筑波
- 松本真由美, 林美枝子, 小山満子, 滋野和恵. わが国の性暴力被害の実際と被害者支援体制の充実に向けて. 北海道社会福祉学会第53回大会. 2015年1月31日. 札幌
- 山田敦士. ワ族におけるテキストとリテラシー. 「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」プロジェクト研究例会. 2015年5月23日. 東京
- 山田敦士. ワ語（中国雲南省）における語形成とレトリック. 第71回札幌学院大学言語学談話会. 2015年6月11日. 札幌
- 原谷珠美, 佐々木由紀子, 佐々木聖子: サービス付き高齢者向け住宅入居者の期待と終末に向けた準備性に関する研究. 日本老年看護学会第20回学術集会. 2015年6月12日. 横浜
- 山田敦士. ワ語における反復現象. 「漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究」プロジェクト研究例会. 2015年6月13日. 富山
- 春名純平, 城丸瑞恵, 中田みぎわ, 門間正子. 救急看護師がOncologic Emergency患者と家族との関わりで抱く困難—救急看護師へのインタビューを通して—. 第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 2015年6月28日. 福岡
- 澄川真珠子, 城丸瑞恵, 大塚知子, 船木沙織, 中田みぎわ, 牧野夏子, 門間正子, 佐藤公美子, 萩原直美. 看護大学生および看護師における看護史に対する知識, 経験, 関心と看護史教育内容の検討. 日本看護歴史学会第29回学術集会. 2015年8月22日. 札幌
- 合田恵理香, 城丸瑞恵, 仲田みぎわ: 文献概観からみた日本の看護における音楽療法の変遷. 日本看護歴史学会第29回学術集会. 2015年8月22日-23日. 札幌
- 小山満子, 林美枝子, 松本真由美, 滋野和恵. アメリカ合衆国東部における性被害者支援の課題—支援者への聞き取り調査を通して—. 日本フォレンジック看護学会第3回大会. 2015年9月3日. 秋田
- 森口眞衣. インド医学書における治療と宗教の関係—病の位置づけと取り扱い—. 日本宗教学会第74回学術大会. 2015年9月6日. 東京
- 山田敦士. 滄源ワ族自治区の文字使用状況: 無文字から多文字併存へ. 社会言語科学学会大会第36回大会. 2015年9月6日. 京都
- 森口眞衣. インド医学書における治病の実践—社会的実践の歴史と展望—. 日本佛教学会第85回学術大会. 2015年9月8日. 東京
- 小西香苗, 村松宰. 勤労女性における世帯収入と食品摂取状況との関連について. 第62回日本栄養改善学会. 2015年9月24日. 福岡
- 勝野由美子, 山口敦子, 石黒利佳, 岩瀬彩奈, 川合佑香, 児玉悠月, 小松佳奈, 清水彬可, 高城美里杏, 深貝友香梨, 賀来亨. 空腹時, 満腹時の味覚の検討. 第62回日本栄養改善学会. 2015年9月24日. 福岡
- 原谷珠美, 佐々木由紀子. サービス付き高齢者向け住宅入居者の終末に向けた準備性. 第46回日

- 本看護学会—在宅看護—学術集会, 2015年10月2日. 愛知
- Minegishi M, Osada T, Badenoch N, Shimizu M, Yamada A, ITO Yuma. A Survey of Recent Austroasiatic Studies. 「アジア地理言語学研究」プロジェクト例会. 2015年10月4日. 東京
- 村松真澄, 守屋信吾, 村松宰, 介護保険施設の看護管理者への口腔ケアマネジメント研修の効果検証, 第74回日本公衆衛生学会総会. 2015年10月29日. 長崎
- 牧野夏子, 城丸瑞恵, 齋藤重幸, 門間正子. 北海道・東北地域の救命救急センターに勤務する医療職者の疲労に関する実態調査. 第95回北海道医学大会救急医学分科会. 2015年11月7日. 札幌
- 佐々木由紀子, 原谷珠美. サービス付き高齢者向け住宅に勤務する介護職員の終末・看取りに向けた準備性. 第46回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会, 2015年11月6日. 富山
- 村松宰, 村松真澄, 守屋信吾. 地域自立高齢者の Oral Assessment Guide (OAG) とその要因について. 第80回日本民族衛生学会総会. 2015年11月13日. 弘前
- 山田敦士. ワ語における多音節単純語の分析. 日本言語学会第151回大会. 2015年11月28日. 名古屋
- 松本真由美. 地方精神保健福祉審議会への当事者委員参加に関する全国調査. 日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会. 2015年12月5日. 高知
- 伊藤廣美, 栗屋敏雄, 服部ユカリ. 在宅でオピオイド鎮痛薬を使用しているがん患者の疼痛評価と関連要因について 成人と高齢者の比較. 第29回日本老年学会総会合同大会. 60-61, 2015年. 横浜
- 小濱由紀子, 青木美香, 伊藤廣美, 名塚優子, 野中浩美, 森明恵. 看護師の呼吸への援助行為における判断の現状. 第46回日本看護学会 看護管理学術集会. 60-61, 2015年. 福岡
- 高儀郁美. 成人看護学演習において模擬患者役を演じた看護師インストラクターの体験. 第35回日本看護科学学会学術集会. 2015年. 広島
- 賀来亨. プレゼンテーションソフトを使用したタブレット端末による双方向性授業の検討. 日本医療大学保健医療学部研究報告会. 2016年3月30日. 札幌

## 国際学会

- Endoh M, Muramatsu T, Kakinoki Y. The relationship between dry mouth condition and medication among dependent Japanese elderly. 22nd IADH Congress. 2014. 10. 2-4, Berlin
- Hayashi M. A Case Study of Family Caregivers of Terminal Care – Home Treatment and Their Patients under the Comprehensive Local Care System and the Possibility of Reviving the Culture of “mitori” in Japan. 2014 Annual Conference of the East Asian Anthropological Association, 2014.11.1, Seoul
- Saito R. Issues regarding gerontological sleep education for nursing students in Japan. The 18<sup>th</sup> East Asia Forum of Nursing Scholars. 2015. 02. 5-6, Taipei
- Konishi K, Muramatsu T. Association of Japanese dietary pattern and depressive symptoms

- among Japanese female employees. ACN21, 2015. 05. 18, Yokohama
- Hayashi M. A case study of family caregivers of terminal care home treatment under the comprehensive local care system and about disseminating information through the care culture homepage “Mitori – net” in Japan. 2015 Annual Conference of the East Asian Anthropological Association, 2015. 10. 1, Taipei
- Saito R. Literature review; Aging of nurse population in Japan. International Association of Gerontology and Geriatrics. 2015. 10. 19 – 22, Chiang Mai
- Matsumoto M, Nakamura K. A survey on the participation of mentally – disabled council members in the Local Mental Health Welfare Councils in Japan. World Association for Psychosocial Rehabilitation. 8th, 2015.11.3, Seoul
- Tsuji Y, Yamada R. Care considered good by families of elderly people with dementia living in group homes and receiving end – of – life care and care that families would like to prioritize in the future. 19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars, 309. 2016. 03. 14 – 15, Chiba

## 示 説

- 村松真澄, 守屋信吾, 村松宰. 介護老人福祉施設の口腔ケアに関する現状と課題, グループワークの結果から. 第73回日本公衆衛生学会総会. 2014年10月26日. 宇都宮
- 和泉比佐子, 岡田尚美, 松原三智子, 佐伯和子, 藺牟田洋美, 森満. 青壮年期のメタボリックシンドローム予備群を対象とした介入プログラムの評価. 第73回日本公衆衛生学会総会. 2014年10月. 宇都宮
- 小島悦子, 藤長すが子, 岡田尚美. 清拭ケアが身体に与える効果・影響に関する文献レビュー. 日本看護技術学会第14回学術集会. 2015年10月17 – 18日. 松山
- 合田恵里香, 城丸瑞恵, 中田みぎわ. ICUにおけるBGMの看護師への影響に対する看護師の実感. 第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2015年6月27 – 28日, 福岡
- Fukushima M. Infant Care Support for Mothers Provided by University Nursing Faculty Members in Hokkaido. 第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会. 2015年7月22日. 横浜
- 春名純平, 城丸瑞恵, 中田みぎわ, 門間正子. 救急看護師がOncologic Emergency患者との関わりで抱く困難と要因:看護師の知識・経験に着目して. 第17回日本救急看護学会学術集会. 2015年10月17日. 佐賀
- 岡田尚美. 病院と診療所に所属する助産師が捉える保健師との連携. 第35回日本看護科学学会学術集会. 2015年12月. 広島
- Gohda E, Shiromaru M, Nakata M : BGM Use for Passive Music Therapy as a Nursing Approach in the ICU, 19th EAFONS, 2016.3.14 – 15, Chiba
- Haruna J, Shiromaru M, Nakada M, Momma M. Difficulties Faced by Nurses Dealing with

Oncologic Emergencies at Emergency Centers. The 18th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2015.02.5. Taipei

Makino N, Shiromaru M, Saitoh S, Momma M. Aspects of Work That Cause Fatigue to Nurses Working in Emergency and Critical Care: Differences between Those with Less than Five Years of Nursing and Those with Longer Experience. The 19th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2016.03.15, Chiba

Haruna J, Shiromaru M, Minagawa Y, Uchida H, Makino N, Momma M, Kanda N, Taguchi Y, Orita H, Tsugawa K. Difficulties Experienced by Nurses Engaged in Emergency Care in the Provinces of Hokkaido. The 19<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars. 2016.03.15, Chiba

Kawamura M, Yamada F, Ishioka A, Kojima E, Tamura S, Shiraishi N, Nishimura K, Narita K, Takigawa C. Providing and sharing information and consultation for cancer care on city streets. 14<sup>th</sup> World Congress of the European Association for Palliative Care. 2015.05.8, Copenhagen

その他：

傳野隆一. 新札幌豊和会病院院内研修. 2014年12月19日. 札幌

傳野隆一. 日本医療大学生涯学習講座. 2015年2月14日. 札幌

傳野隆一. 私大協会道支部 事務局長月例研究会 2015年6月23日. 札幌

傳野隆一. 日本医療大学 認知症研究所発足式 2015年10月3日. 札幌

#### 〔リハビリテーション学科の概要〕

日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科（以下、「リハ学科」という。）は、日本医療大学の開学1年後の平成27年4月1日に設置された。リハ学科は、理学療法学専攻と作業療法学専攻の2専攻で構成され、入学者定員はそれぞれ40人、計80人の学科である。

リハ学科の教育目的は、本学の建学の精神「ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる人間力」および教育理念「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」を基盤に、「幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」を掲げている。

また、建学の精神、教育理念、教育目的を具現化するために、以下のような教育目標を定め養成する人材像を描いている。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践ができる
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる

5. 問題解決に向けた科学的思考能力と主体的学習能力で自己成長ができる  
本学科の入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のとおりである。

1. リハビリテーションチームの一員として他者との連携・協調を保てる人
2. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
3. 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやり遂げる人

理学療法学専攻（以下、「PT専攻」という。）が求める人物像は、上記1～3に加えて以下のとおりである。

- 1) 理学療法士になる意志が強く、必要な情報を自ら集めている人
- 2) 支援を必要とする人に積極的に関わることができる人
- 3) ヒトの運動や動作のメカニズムに関心を持っている人

作業療法学専攻（以下、「OT専攻」という。）が求める人物像は、学科の入学受入れ方針に加えて

- 1) 作業療法に関心があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、行動できる人
- 2) 「気配り、目配り、思いやり」を持って人との関わりを大切にできる人
- 3) 専門的な視点から、生活支援が必要な人を支えたいと思う人

「入学受入れ方針」に従い入学を許可した学生に対し、学科の教育目的・教育目標に沿った次の方針で教育を展開する教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）。

1. 人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成
3. 科学的思考を基盤とした実践能力の育成
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成
5. 問題解決に向けた科学的思考能力、主体的学修能力の育成

本学科の教育課程修了時に、以下の態度や能力を修得している学生に学位を授与する（卒業認定・学位授与方針、ディプロマ・ポリシー）。

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. リハビリテーションの対象者を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、理学療法・作業療法を実践する能力
6. エビデンスに基づいた理学療法・作業療法を安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

## リハビリテーション学科の現状

平成27年4月入学者は、PT専攻38人、OT専攻は15人であった。リハ学科の一期生は、文部科学省から学科設置の認可を待って学生募集となったため、広報が遅れ、一般入試と特別入試を実施したにも関わらず、両専攻ともに定員を充足できなかった。OT専攻の定員割れは、本学のみならず、

本州の養成校では以前から起きており、学科や専攻を閉鎖する養成校も少なくない。今年度は、教員の協力を得て、積極的に入試説明会や高校訪問、出前講義等を行った。また、オープンキャンパス参加者へのサービスの向上を図り、受験生獲得に努力をした。その結果、平成28年度入学者は、PT専攻42人、OT専攻26人と、若干の改善が見られた。

学生生活を充実したものとするための支援については、学担をPT専攻には2人、OT専攻には1人配置し各専攻代表と協働し、細やかな学習・生活支援を行っている。また、チューター制度を設け、学生と学生間、学生と教員間の絆を深める機会とした。平成27年度は、黄金週間明けの5月中旬に、学生と教員との交流会を行い、1年次は専任教員の開講科目が少なく日頃疎遠な教員と親しくなるための行事を企画実行した。

リハ学科は、専門学校日本福祉リハビリテーション学院を前身としており、恵み野キャンパスは、2、3、4年生の理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の専門学校生とキャンパスを共有している。先輩がいない学部生は、専門学校生と部活や、学院祭、専門学校の体育祭などの行事に参加し交流を深めており、学生、社会人、医療専門職に成長するための素養を培っている。

リハ学科学学生53人に対し、教員はPT専攻5人、OT専攻4人の計9人であった。教員は、学年進行にともない着任することが決定しており、平成28年度は4人着任される予定である。職階は、教授5人（PT専攻3人、OT専攻2人）、准教授1人（OT専攻1人）、講師2人（PT専攻2人）、助教1人（OT専攻1人）であった。年齢構成は、60歳代6人（教授5人、准教授1人）、40歳代2人（講師1人、助教1人）、30歳代1人（講師1人）であり、高齢の教員が多い。これは、大学設置申請時に、職階に相応しい教員候補者を採用しなければならず、新設大学では、教授に他大学退職者に依存しなければならないということが理由である。来年度以降、教員の平均年齢は下がる予定である。残念ながら前期終了時にOT専攻の教授1人から退職願が提出され、平成27年度末の退職が承認された。また、平成29年度着任予定であったPT専攻の講師予定者が着任を辞退した。今後、それぞれの後任教員の補充を急がなければならない。（資料、職階別教員構成表2-8-①-e（平成27年度）。年齢構成表2-8-①-f（平成27年度））

研究活動については、学科設置1年目ということもあり活発とはいえない現状である。学生の指導に費やされる時間が多いこと、専門分野の教員が少ないこと、専門学校から継承した研究機器の老朽化や機器そのものの不足などが上げられる。それでも、外部資金獲得教員が9人中4人おり、それなりの成果を上げている。各教員が研究テーマを持ち、その分野の専門家と呼ばれるには時間を要する状況にある。本学の認知症研究所には、PT専攻の教授が1人参画している。また、他大学と共同研究を行っている教員もいる。

社会貢献は、学科が所在する恵庭市の教育委員会社会教育課が主宰する長寿大学の運営委員会に教員を派遣している。個人的な社会貢献や、専門職育成に尽力している教員も多数いる。

表2-8-①-e. 平成27年度 リハビリテーション学科教員数

教 授	准 教 授	講 師	助 教	計	非 常 勤 講 師
5 (4)	1	2 (1)	1 (1)	9 (6)	15 (10)

単位は人 ( ) 内は男性

表2-8-①-f. 平成27年度 専任教員の年齢構成

	66～70歳	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	計
教 授	1	3	1						5
准教授	1								1
講 師					1			1	2
助 教						1			1
計	2	3	1	0	1	1	0	1	9

単位は人

リハビリテーション学科教員の教育・研究・社会活動（平成27年度）

氏名 乾 公美 職階 リハビリテーション学科長、教授

専門分野：運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：札幌医科大学（義肢装具学）、山形県立保健医療大学（PNF）、日本福祉リハビリテーション学院（PNF）、札幌リハビリテーション専門学校（PNF）

学内委員会・学科内業務等：リハビリテーション学科長、教授会、教務委員会、入試広報委員会、自己点検評価委員会（委員長）、国試対策委員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、日本PNF学会（理事）、日本体力医学会、日本生理学会、北海道リハビリテーション学会（理事）  
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道PNF研究会を主宰し、道内のPT、OTにPNF技術を指導、北海道理学療法士会表彰審査委員会委員、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック理事

氏名 高橋 光彦 職階 教授

専門分野：運動療法学、物理療法学、循環器系理学療法学、運動学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：日本福祉リハビリテーション学院（内部障害学）、北海道柔道整復師専門学校（リハビリテーション医学、運動学）

学内委員会・学科内業務等：理学療法専攻長、教授会、教務委員、学生委員、入試広報委員、学生担当教員、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、学生団体サークル「サッカーサークル」「動画作成」顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本体力医学会、北海道リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）等の取得：厚労省科学研究費（難治性疾患等克服研究事業）

社会活動：北海道体力医学会理事、日本医療大学主催生涯学習「手足を動かし元気に過ごす」平成27年11月月寒公民館

顕彰：第27回「理学療法ジャーナル賞」準入賞：論文名、パーキンソン病の姿勢反射障害、すくみ足に対するクロスオーバーデザイン・矛盾性運動を利用した反復ステップ運動の効果、梅原圭二、高橋光彦

氏名 佐藤 秀紀 職階 教授

専門分野：リハビリテーション学、保健福祉学、老年社会科学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論（1年次後期、必修、2単位、30時間）

担当科目：同上

学内委員会・学科内業務等：教授会、研究倫理委員会（委員長）、FD委員会、自己点検・評価委員会、研究費審査委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（理事、学術誌編集委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、日本老年社会学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

氏名 坪田貞子 職階 教授

専門分野：生体力学、上肢機能障害学

教育活動：

責任科目：作業療法概論

担当科目：なし

非常勤講師：北海道文教大学（身体障害作業療法演習 面接技法、頸髄損傷OT治療学）

北海道リハビリテーション大学校（義肢装具学・ハンドセラピー）

札幌リハビリテーション専門学校（運動器治療学・ハンドセラピー）



日本福祉リハビリテーション学院（運動器治療学・ハンドセラピー）

学内委員会・学科内業務等：OT専攻長、教授会、入試広報委員会、ハラスメント防止委員会、研究費審査委員会、臨床実習運営委員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：国際ハンドセラピー学会、日本作業療法学会、日本義肢装具学会、北海道作業療法学会、北海道リハビリテーション学会、日本手の外科学会、北海道ハンドセラピー研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会（相談役）、北海道リハビリテーション学会 評議委員、北海道作業療法士養成校臨床実習連絡会議幹事

氏名：早川 宏子 職階 准教授

専門分野：地域作業療法学、日常生活活動学、職業関連活動学、福祉用具、住環境整備

教育活動：

責任科目：基礎作業学演習（基礎作業分析1単位30時間）

基礎作業学演習（応用作業分析1単位30時間）

作業療法セミナー I（1単位30時間）

担当科目：同上

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、図書・学術振興委員会委員会、就職・進路対策委員会、人権擁護委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本作業療法士協会監事、日本作業療法士協会生涯教育講座福祉用具専門士コース講師、杉並区障害者介護給付等審査会委員

氏名 石橋 晃仁 職階 講師

専門分野：神経系理学療法学

教育活動：

責任科目：理学療法セミナー I（1単位30時間）

担当科目：同上

非常勤講師：日本福祉リハビリテーション学院（運動学演習、神経障害学、卒業研究 I・II、神経障害理学療法学 II、高次脳機能障害学）

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、就職・進路対策委員会、ハラスメント防止委員会、理学療法学専攻1年生学生担当教員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、医療体育研究会  
科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：公益社団法人北海道理学療法士会社会局介護予防・健康増進支援部長

札幌市理学療法赤十字奉仕団 副委員長  
全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事  
第50回日本理学療法学会大会 査読委員  
第66回北海道理学療法士学会大会 査読委員、ポスター演題座長  
いきいき福祉・健康フェア2015アドバイザー  
札幌刑務所高齢・障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」講師  
大谷地パークアベニュー団地いきいきサロン体操指導 講師  
北海道理学療法士会第3回介護予防推進リーダー導入研修 講師  
日本医療大学生涯学習講座「健康寿命を延ばす簡単体操」 講師

氏名：清田 直恵 職階 講師

専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：解剖学演習（骨・筋）（2単位、60時間）  
機能解剖学（1単位、30時間）

担当科目：同上

学内委員会・学科内業務等：FD委員、図書・学術振興委員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：Society for Neuroscience、日本生理人類学会（評議員）、日本健康行動科学会（編集委員）、日本神経生理学会、日本理学療法士協会

科学研究費等研究資金の取得：

清田直恵：立位時の床傾斜による姿勢筋緊張の抑制と高齢者におけるトレーニング効果の検討。

文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）（代表者）

藤原勝夫、前田薫、外山寛、国田賢治、清田岳臣、清田直恵：高齢者における足関節運動に限定した動的姿勢制御に対する下腿筋力トレーニング効果。文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）（一般）（研究分担者）

藤原勝夫、清田直恵：足・膝・股関節の周囲の皮膚伸張刺激に伴う立位姿勢応答。文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（研究分担者）

社会活動：日本健康行動科学会編集委員会委員

氏名 合田 央志 職階 助教

専門分野：老年期作業療法学、福祉用具学、日常生活活動学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：作業療法概論演習（1単位15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員、学生担当教員（1年生）、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会 学会評議委員。全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事

#### リハビリテーション学科学術業績

論文（著書，総説，原著，その他）：

著 書

佐藤秀紀（2016）.保健福祉学，当事者主体のシステム科学の構築と実践．第6章2節．リハビリテーション．北大路書房．

原 著

梅原圭二、高橋光彦（2015）. パーキンソン病の姿勢反射障害、すくみ足に対するクロスオーバーデザイン・矛盾性運動を利用した反復ステップ運動の効果. PTジャーナル, 49（4）. 365-373.

Naka M, Fujiwara K, Kiyota N . (2015). Postural responses to various frequencies of vibration of the triceps surae and forefoot sole during quiet standing. Perception. 44（1）. 39-51

Fujiwara K, Kiyota N, Maekawa M et al. (2015). Postural control during transient floor translation while standing with the leg and trunk fixed. Neuroscience Letters, 594, 93-98

Goda H, Hatta T, Kishigami H, Suzuki A, Ikeda T. (2015) . Does a Novel - Developed Product of Wheelchair Incorporating Pelvic Support Prevent Forward Head Posture during Prolonged Sitting? *PLoS One*, 10（11）, e0142617.doi:10.1371/journal.pone.0142617

Sawada N, Hatta T, Kishigami H, Shimizu M, Yoda T, Goda H. (2015) . The effect of a newly developed wheelchair with thoracic and pelvic support on cervical movement and muscle activity in healthy elderly women. *European Geriatric Medicine*, 6, 286-290

八田達夫, 岸上博俊, 合田央志, 澤田紀子（2015）. ABS車いすは片麻痺患者の座位姿勢を改善するか?予備的研究. *Rehabilitation Engineering*, 30（1）. 28-31

藤木直人、矢部一郎、佐々木秀直、森若文雄、津坂和文、高橋光彦、竹内徳男、松本昭久、丸尾

- 泰則、川島 淳、橋本修二 (2016). 平成27年度の北海道地区スモン検診結果、スモンに関する調査研究平成27年度総括・分担研究報告書. 48-51
- 高橋光彦、石橋晃仁、藤木直人 (2016). 平成27年度の北海道地区スモン検診結果、スモンに関する調査研究平成27年度総括・分担研究報告書. 189-190
- 藤木直人、稲垣恵子、阿部笑子、高橋敦子、近谷ひろみ、矢部一郎、森若文雄、津坂和文、高橋光彦、竹内徳男 (2016). 平成27年度の北海道地区スモン検診結果、スモンに関する調査研究平成27年度総括・分担研究報告書. 225-230
- 玉珍、及川直樹、千見寺貴子、青木光広、坪田貞子 (2016). 手内筋筋力測定 女性ピアノ演奏者と非演奏者との比較. 臨床整形外科. 51-4. 853-58
- Fujiwara K, Irei M, Kiyota N et al. (2016). Event-related brain potential and postural muscle activity during standing on an oscillating table while the knee, hip, and trunk are fixed. Journal of Physiological Anthropology. 35 (6)
- 高橋光彦、石橋晃仁、乾公美 (2016). 連続First Stepが身体に与える影響について. 日本医療大学紀要, 2, 65-68
- 西山徹、向井康詞、高橋光彦、乾公美 (2016). 横斜面歩行時の下肢筋活動. 日本医療大学紀要, 2, 69-72

#### 研究資料

- 国田賢治、藤原勝夫、清田岳臣、阿南浩司、清田直恵、矢口智恵. (2016) 卓球における背屈 - 掌屈テイクバック動作の有無によるフォアハンドストロークでの打球の速度の差異. Health and Behavior Sciences. 14 (2) 93-98

#### その他

- 合田央志. (2015). 頭部前方位姿勢に対する骨盤サポート付き車いすの影響：持続的座りと嚙下機能への効果. doctoral theses. <http://hdl.handle.net/2115/61747>

口 演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他) :

#### 特別講演

- 坪田貞子. 北海道ハンドセラピィ研究会 100回記念講演「ハンドセラピィの歴史と今後に期待すること」2015年5月22日.
- 坪田貞子. 札幌モーニングロータリークラブ Morning speech「作業療法のしごと - 日本と海外事情」2015年6月17日.

#### 一般口演

- 金子翔拓, 坪田貞子. 上腕骨外側上顆炎に対する Horizontal flexion test の感度と特異度 ~患者と健常者 (テニス群と非テニス群) による検討~. 第48回日本作業療法学会. 2014年6月19日.

## 横浜

清田直恵、藤原勝夫. 一過性水平後方床移動後の床傾斜外乱に伴う下肢、体幹および上肢帯筋活動と随伴陰性変動の適応的变化. 日本健康行動科学会第14回学術大会. 2015年9月19日 - 20日. 大阪

前川真姫、藤原勝夫、矢口智恵、清田直恵. 注意の切り替えが明確に存在する課題での随伴陰性変動. 日本健康行動科学会第14回学術大会. 2015年9月19日 - 20日. 大阪

大川浩子、金子翔拓、清水麻衣子、坪田貞子. クリニカルクラークシップに向けたOSCE導入の試み. 第45回北海道作業療法学会. 2014年10月12日. 札幌

金子翔拓、坪田貞子. ピアノ経験者と未経験者の母指・小指同時自動外転時の手関節尺屈角度の比較. 第45回北海道作業療法学会. 2014年10月12日. 札幌

金子翔拓、西本亮、坪田貞子. de Quervain 病症例における母指・小指同時自動外転時の手関節尺屈角度の検討. 第27回日本ハンドセラピィ学会. 2015年4月18日. 東京

金子翔拓、坪田貞子. ピアノ経験者の母指および手関節運動の特性. 第49回日本作業療法学会. 2015年6月19日 - 6月21日. 神戸

高橋光彦、西山徹、石橋晃仁、乾公美: スモン患者の骨・関節系の問題点とリハビリテーションアプローチについて. 第70回日本体力医学大会. 2015年9月18日 - 20日. 和歌山

金子翔拓、坪田貞子: de Quervain 病改善症例における母指・小指同時自動外転時の手関節尺屈角度. 第46回北海道作業療法学会. 2015年10月3日. 札幌

金子翔拓、中山実咲、坪田貞子: 自動車運転時のハンドル操作時に症状を増悪させる手根管症候群を経験して. 第46回北海道作業療法学会. 2015年10月3日. 札幌

伊藤良祐、渡邊佳織、奥寺雄毅、石橋晃仁: 脳卒中片麻痺患者に対する Multi - Target Stepping Test の有用性の検討 第3報 - ターゲット踏み外しに着目して -. 第66回北海道理学療法士学術大会. 2015年10月31日 - 11月1日. 旭川

合田央志、八田達夫、岸上博俊. 高齢障害者の頭頸部のアライメントと上肢の屈曲運動に対する骨盤サポート付き車いすの効果. 第30回日本リハビリテーション工学カンファレンス. 平成27年11月13日 - 15日. 那覇

## 国際学会

Kaneko S, Tsubota S. Sensitivity and specificity of the horizontal flexion test for lateral epicondylitis between patients and non - patients (tennis players and non - tennis players) . 16<sup>th</sup> World federation Occupational therapy. 2014. 6. Yokohama

Kaneko S, Tsubota S, Chikenji T, Ikemoto Y, Saito Y, Osanami Y, Uchiyama E. Effect Of The Horizontal Extension Technique On The Cross - sectional Area Of The Carpal Tunnel. 60th ORS. 2014. 3. New Orleans

Naka M, Fujiwara K, Kiyota N. Postural responses to various frequencies of vibration of the triceps surae and forefoot sole during quiet standing. Neuroscience 2015. 2015.10.17 - 21.

Chicago

Fujiwara K, Kiyota N, Irei M, Yaguchi C, Toyama H. Effects of lower leg muscle and balance training on periodic floor oscillation task with fixing the knee, hip and trunk in the elderly. Neuroscience 2015. 2015.10.17 – 21. Chicago

Anan K, Fujiwara K, Yaguchi C, Kiyota N. Effect of time pressure on attentional shift and anticipatory postural control during unilateral shoulder abduction reactions in an oddball – like paradigm. Neuroscience 2015. 2015.10.17 – 21. Chicago

## 科学研究費助成事業

文部科学省科学研究費補助金等の競争的外部資金の応募・取得状況

	応募	取得
平成26年	8件	3件
平成27年	10件	1件

－ 競争的外部資金に関する採択実績の開示について －

文部科学省科学研究費学術研究助成基金・助成金（研究代表者）

NO.	採択区分	研究代表者名	研究期間	研究課題名
1	基盤研究（C）	松本真由美	平成27年～29年	地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画に関する調査研究
2	基盤研究（C）	森口 真衣	平成24年～28年	インド精神医学史における疾病概念の変遷および宗教的実践と精神療法の関連
3	研究活動 スタート支援	山田 敦士	平成26年～27年	ワ族のリテラシーに関する調査研究
4	基盤研究（C）	岡田 尚美	平成27年～29年	継続的な支援が必要な家族のための助産師と保健師の連携指針の開発
5	若手研究（B）	清田 直恵	平成25年～27年	立位時の床傾斜による姿勢筋緊張の抑制と高齢者におけるトレーニング効果の検討

文部科学省科学研究費学術研究助成基金・助成金（研究分担者）

NO.	採択区分	研究代表者・分担者	研究課題名
1	基盤研究（C）	昭和女子大学 看護学科 教授 小西 香苗 村松 宰	世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状況に与える影響－栄養疫学的検討
2	基盤研究（C）	札幌市立大学 教授 川村三希子 看護学科 准教授 小島 悦子	認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発
3	基盤研究（B） （海外学術調査）	東京外国語大学 名誉教授 新谷 忠彦 看護学科 准教授 山田 敦士	言語・文化調査に基づくタイ文化圏の少数民族の歴史の解明
4	基盤研究（C）	北海道大学 准教授 松江 崇 看護学科 准教授 山田 敦士	漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究
5	基盤研究（C）	札幌医科大学・看護学第三講座 准教授 上田 泉 看護学科 講師 岡田 尚美	子どもの虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム
6	基盤研究（B）	金沢学院大学 教授 藤原 勝夫 リハビリテーション学科 講師 清田 直恵	高齢者における足関節運動に限定した動的姿勢制御に対する下腿筋力トレーニング効果
7	挑戦的萌芽研究	金沢学院大学 教授 藤原 勝夫 リハビリテーション学科 講師 清田 直恵	足・膝・股関節の周囲の皮膚伸張刺激に伴う立位姿勢応答
8	基盤研究（C）	千葉県立保健医療大学 講師 小阪美智代 看護学科 助手 高田麻依子	経口抗がん剤治療を受ける患者に対する対処の柔軟性を高める看護支援モデルの構築

厚生労働行政推進調査事業

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））

スモンに関する調査研究

研究代表者 「スモンに関する調査研究班」研究代表者 小長谷 正明

研究分担者 リハビリテーション学科 教授 高橋 光彦

2-8-② 教員の採用・昇任等教員評価、研修、FD（Faculty Development）をはじめとする教員の資質・能力向上の取り組み

教員の採用・昇任等教員の評価については、教員選考委員会が担っているが、現在文部科学省の指導下であり、退職者があった場合、後任者を文部科学省に推薦し、適否を仰いでいる（教員選考委員会規程）。また、採用や昇任については、日本医療大学教員任用規定により、各職階の資格や要件が定められているが、前述の理由でまだ適用されていない。

教員の資質・能力向上についての企画・運営は、FD委員会が担っている。FD委員会は、FD委員会規程により、教育課程・体制の点検・評価および改善方法の計画に関する事項、講義および演

習・実習に対する学生の授業評価項目の改善ならびに実施方法の計画に関する事項、授業法の開発と改善に対する具体的計画に関する事項、教員研修プログラムの開発および研修方法の計画に関する事項、その他本学におけるFDに関する事項について審議し必要な業務を行う。授業法の開発と改善に対する具体的計画に関する事項、教員研修プログラムの開発および研修方法の計画に関する事項については、平成26年度は、カリキュラムについての研修会と外部講師を招いて「オープンエデュケーションと未来の学び」のタイトルで講演会を開催した。平成27年度は、研究倫理や統計手法についての学習会を開催した（FD委員会活動報告、p.111）。

教員評価制度の実施状況および結果の活用状況については、平成27年度に自己点検評価委員会において「教員の自己点検評価表」を作成し、教授会で承認を受け平成28年から実施されることになった（表2-8-②-a、教員の自己点検評価表）。

### 2-8-③ 教養教育実践のための体制の整備

本学開学時に基礎教育科目教員は、看護学科に所属し、看護学科教員として学生指導を行っている。平成27年度にリハビリテーション学科が設置されたが、基礎教育科目教員の配置は継続され看護学科に配属されている。基礎教育科目教員を学科に配属することは、学生と基礎教育科目教員との交流の機会を増やし意思の疎通や教養科目の履修に有益である。

## 2-9 教育環境の整備

### 2-9-①-1 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

本学開学前に文部科学省に設置認可を申請し、校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境等について大学設置基準を満たした故に開学が認可されたと考える。平成26年度開学時には、看護学科のみで真栄キャンパスでの開設であったが、平成27年度にリハビリテーション学科が恵庭市恵み野に開設され、2つのキャンパスとなった。大学の校地、校舎、設備の状況は、次のとおりである。

#### (1) 校地

(真栄キャンパス)

本学保健医療学部看護学科は、北海道札幌市清田区真栄434番地1にあり、JR札幌駅から15kmの位置にある。この校地面積は37,713㎡（校舎敷地：20,945.43㎡、運動場用地：13,710㎡（借地）、駐車場3,058㎡（借地））を有し、講堂、体育館および研究棟（10,810.41㎡）を保有している。



①校地内訳

	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	備 考
校 地 等	校舎敷地	0 m <sup>2</sup>	20,945 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	20,945 m <sup>2</sup>	日本福祉看護・診療放射線学院と共用、収定400人 (借用地) 運動場、20年 13,710m <sup>2</sup> 駐車場、1年自動 更新、3,058m <sup>2</sup>
	運動場用地	13,710 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13,710 m <sup>2</sup>	
	小 計	13,710 m <sup>2</sup>	20,945 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	34,655 m <sup>2</sup>	
	そ の 他	3,058 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	3,058 m <sup>2</sup>	
	合 計	16,768 m <sup>2</sup>	20,945 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	37,713 m <sup>2</sup>	

(恵み野キャンパス)

本学保健医療学部リハビリテーション学科は北海道恵庭市恵み野西6丁目17-3にあり、JR札幌駅から25kmの位置にある。この校地面積は8,886m<sup>2</sup>を有し、校舎は1号館（主に講義室、実習室、事務局）、2号館（主に演習室、研究室、食堂）および講堂を保有している。運動場は、北海道札幌市清田区真栄434番地1（本学との距離:15km）に所在する運動場（13,710m<sup>2</sup>）を日本医療大学保健医療学部看護学科と共用する。

②校地内訳

	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	備 考
校 地 等	校舎敷地	8,886 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	8,886 m <sup>2</sup>	日本福祉リハビリテーション学院と共用 (借用地) 運動場、20年 13,710m <sup>2</sup>
	運動場用地	0 m <sup>2</sup>	13,710 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13,710 m <sup>2</sup>	
	小 計	8,886 m <sup>2</sup>	13,710 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	22,596 m <sup>2</sup>	
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
	合 計	8,886 m <sup>2</sup>	13,710 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	22,596 m <sup>2</sup>	

(2) 真栄キャンパス校舎

①講義室、実習室

講義室等は、本法人設置の専門学校日本福祉看護・診療放射線学院看護学科の建物を転用するため、大学の学年進行中は、使用にあたっては、振り分けを明確にし、それぞれの学生の学修に支障のないよう時間割編成に配慮している。入学定員80人、収容定員320人の学生を収容する大講義室（つしま記念ホール）をはじめとして、講義室11室、演習室8室、看護実習室2室を用意し、看護実習室については、基礎・成人看護実習室1室（504.00m<sup>2</sup>）ベッド数26台、母性・小児および地域・老年・精神看護実習室1室（378.00m<sup>2</sup>）ベッド数2台、沐浴槽6台および入浴介助用浴槽を備えている。

## ②教室等内訳

教室等	講義室	演習室	実習室	情報処理室	語学学習室
	11室	8室	2室	1室	情報処理室と共用
専任教員研究室	学部等の名称			室数	
	保健医療学部看護学科			25室	

## ③学年進行中の講義室などの運用

学年進行中の講義室、演習室、実習室などの使用にあたっては、下記のとおり運用することによって共用期間は問題が生じないように配慮している。

区分	年度	26	27	28	29	計	備考
大 学	講義室	6	7	8	11	11	
	演習室	8	8	8	8	8	
	実習室	2	2	2	2	2	専門学校と共用
	情報処理室	1	1	1	1	1	専門学校と共用
	自習室	1	1	1	1	1	
	食堂	1	1	1	1	1	専門学校と共用
	体育館	1	1	1	1	1	専門学校と共用

区分	年度	26	27	28	29	計	備考	
専 門 学 校	講義室	5	4	3	0	0		
	演習室	2	2	2	0	0		
	実習室	2	2	2	0	0	大学と共用	
	情報処理室	1	1	1	0	0	大学と共用	
	自習室	空教室使用					0	
	食堂	1	1	1	0	0	大学と共用	
	体育館	1	1	1	0	0	大学と共用	

## ④教員研究室

専任教員が、学生への教育・指導を円滑に行うため、研究棟を増設し、専任教員の研究室24室(643.50㎡)、助手用室および共同研究室を1室(51㎡)整備している。教員研究室には数人の学生ゼミナールが実践できるようミーティングテーブルを設置し、また、教員の蔵書を保管するための書棚およびパソコンなどを配置している。

## 【研究室】

室	面積	室	備 考
学 長 室	29.14㎡	1	
学 部 長 室	27.00㎡	1	
研 究 室	40.56㎡	2	教授+助教
研 究 室	25.50㎡	21	教授、准教授、講師、助教
共同研究室	51.00㎡	1	助手
非常勤講師	24.00㎡	1	
計		27	

## 【研究室の標準備品】

	標 準 備 品	数量
情 報 機 器	パソコン・プリンター・電話器	各1
机 ・ イ ス	両袖机・OAチェア	各1
テ ー ブ ル	ミーティングテーブル・ミーティングチェア	6人用
保 管 庫	収納キャビネット（上下1700×400×880）	1式
書 架	セルビング（単式7段6連）（約3,000冊収納）	1式
冷 暖 房	エア・コンディショナー	1式
そ の 他	ロッカー、ごみ箱	各1

### ⑤講堂、体育館、パソコン教室（CALL含む）および学生食堂の共用

この他、転用する施設として、講堂、体育館、パソコン教室および学生食堂などがある。特に、パソコン教室はリニューアルし、外国語能力の向上に加え、特に英語については単なる英語力ではなく、コミュニケーションツールとして活用できる英語力のスキルアップを図るために「CALLシステム」を導入して学生が自学自習できるようにした。

この教室は、パソコン教室を語学教室および視聴覚教室を兼ねたものとして設置している。

### (3) 恵み野キャンパス校舎

#### ①講義室、実習室

講義室等は、本法人が設置している専門学校日本福祉リハビリテーション学院の建物を転用するため、大学の学年進行中は、使用にあたっては、振り分けを明確にし、それぞれの学生の学修に支障のないよう時間割編成に配慮している。

入学定員80人の学生を収容する大講義室をはじめとして、講義室11室、演習室11室、実習室10室を備えている。

この他、転用する施設として、講堂（体育館）、パソコン教室および学生食堂などがある。特に、食堂は、言語聴覚学科（平成27年4月から募集停止）の教室を順次食堂に改修し、転用している。

②教室等内訳

教室等	講義室	演習室	実習室	情報処理室	語学学習室
	22室	19室	12室	2室	情報処理室と共用
専任教員研究室	学部等の名称			室数	
	保健医療学部リハビリテーション学科			15室	

③学年進行中の講義室などの運用

学年進行中の講義室、演習室、実習室などの使用にあたっては、下記のとおり運用することによって共用期間は問題が生じないように配慮する。

区分	年度	27	28	29	30	計	備考
大 学	講義室	4	6	8	10	10	
	大教室	1	1	1	1	1	専門学校と共用
	演習室	6	6	6	11	11	
	実習室	10	10	10	10	10	専門学校と共用
	情報処理室	1	1	1	1	1	専門学校と共用
	自習室	1	1	1	2	2	
	食堂	1	1	1	1	1	専門学校と共用
	体育館	1	1	1	1	10	専門学校と共用

単位は室

区分	年度	27	28	29	30	計	備考
専 門 学 校	講義室	5	4	3	0	0	
	大教室	1	1	1	1	0	大学と共用
	演習室	空演習室使用	0	2	0	0	
	実習室	10	10	10	10	0	大学と共用
	情報処理室	1	1	1	1	0	大学と共用
	自習室	空教室使用	0	1	0	0	
	食堂	1	1	1	1	0	大学と共用
	体育館	1	1	1	1	0	大学と共用

単位は室

④教員研究室の整備計画

研究室は、本法人が設置している専門学校日本福祉リハビリテーション学院の建物を転用し、専任教員が、学生への教育・指導を円滑に行うための十分な研究室を確保している。研究室には数人の学生ゼミナールが実践できるようミーティングテーブルを設置し、また、教員の蔵書を保管するための書棚およびパソコンなどを配置している。

[研究室等]

室	面積	室	備考
研究室	15.75㎡～22.79㎡	12	教授、准教授、講師、助教
共同研究室	50.05㎡～81.00㎡	3	教授、准教授、講師、助教
非常勤講師室	30.81㎡	1	
計		16	

[研究室の標準装備]

標準備品		数量
情報機器	パソコン・プリンター・電話器	各1
机・イス	両袖机・OAチェア	各1
テーブル	ミーティングテーブル・ミーティングチェア	4人用
保管庫	収納キャビネット	1式
書架	セルビング	1式
その他	ロッカー、ごみ箱	各1

(4) 備品類

両学科とも、看護学科は保健師・看護師指定学校、リハビリテーション学科は理学療法士または作業療法士養成施設として必要な実験実習室および備品を設置している。

真栄キャンパスの教育用器具機械は比較的新しく、恵み野キャンパスについては、前身の専門学校日本リハビリテーション学院の教育用備品を踏襲するため、古い機器を散見することができる。また、研究機器の老朽化や不足備品がある。

(5) 施設・設備等の維持管理および安全確保の責任体制

①外構、建築、設備および室内環境

施設・設備の維持管理および給排水衛生設備、電気設備、冷暖房・空調設備の管理は学生支援グループ担当課長が統括している。

維持管理には、日常管理、定期管理、劣化診断、補習、修理、更新などがあり、受電設備、電話設備、空調設備、給排水衛生設備、防災設備、昇降機設備などについては、それぞれの専門業者と保守契約を締結し、維持管理を行っている。

②防犯・防火対策

防火対策は消防法による防火管理者を専任し、消防設備については、設置および点検を防火専門業者に委託している。なお、防火管理者が消防署と密接な連携をとりながら防火対策に努めている。また、防犯対策としては夜間、守衛が常駐し防火対策と同様に24時間体制で警備専門会社に委託している。

③廃棄物等

廃棄物等の処理は札幌市の指導により毎年度6月に年間廃棄物処理計画および結果報告を行っており、またごみ収集については、市指定業者と契約している。さらに個人情報等に係わる廃棄物については、直接、専門業者と契約し、年2～3回の割合で焼却処分している。

(6) 平成27年度の点検・評価

施設については、看護棟ボイラーの大幅なエンジン取替工事、放射線棟2、3、4階のベランダ壁改修工事を行い設備保全、維持管理を行った。

2-9-①-2 実習施設

実習施設については、設置申請時に登録した実習施設に加え教育上必要な施設を追加申請している。リハビリテーション学科は、実習施設側の都合による本学実習の拒否や、実習経費軽減のため学生の実家等から通勤できる実習施設要件を満たした施設の開拓等で平成27年度中に内諾を得、平成28年度に文部科学省に対し臨床実習施設認可申請を行なう予定である。

2-9-①-3 図書館

大学において図書館は重要な部署である。本学の図書館の平成26・27年度の概要は以下のとおりである。なお、平成27年度に併設した恵み野キャンパスの図書室には、当初司書が不在で事務職員が代行をしていたが、後期に臨時司書を採用した。司書の数は、常勤1人、臨時1人の2人で両キャンパスの図書館を運営している。(表2-9-①-b～表2-9-①-k)

平成26年度 附属図書館の概要と利用状況

1. 概要

1) 施設規模

真栄キャンパス本館 延べ床面積 328㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料所蔵数（平成27年3月31日現在） (表2-9-①-b)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数	
	和書 (冊)	洋書 (冊)	視聴覚 (冊)	計 (冊)	和雑誌 (冊)	洋雑誌 (冊)
真栄キャンパス本館	14,238	336	397	14,971	344	15

3) 年度受入状況（平成27年3月31日現在） (表2-9-①-c)

区分		和	洋	計	
真栄キャンパス本館	図書 (冊)	購入	6,080	336	6,416
		寄贈	6	0	6
		計	6,086	336	6,422
	雑誌 (種)	購入	55	10	65
		寄贈	0	0	0
		計	55	10	65

## 2. 利用状況

### 1) 開館日時・休館日 (表2-9-①-d)

開館時間	平日：9：00～19：00 学生の長期休暇期間中、平日 9：00～17：00
休館日	土曜日、日曜、祝日、年末年始、学校閉鎖期間

### 2) 利用資格

- ①本学学生および教職員
- ②本法人の専門学校生および教職員
- ③北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属者
- ④つしま医療福祉グループの職員

### 3) 貸出冊数・期間 (表2-9-①-e)

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生	5冊	図書：2週間
教職員	無制限	図書：2週間 雑誌：1週間

### 4) 年間利用者数・貸出冊数等 (平成27年3月31日現在) (表2-9-①-f)

図書館の名称	開館日数 (日)	入館者数 (人)	貸出人数 (人)	貸出冊数 (冊)	ILL件数	
					受付	依頼
真栄キャンパス本館	235	17,225	1,727	4,175	0	80

ILL：Inter - Library Loan (相互貸借)

## 平成27年度 附属図書館の概要と利用状況

### 1. 概要

#### 1) 施設規模

真栄キャンパス本館 延べ床面積328㎡

恵み野キャンパス分館 延べ床面積206.61㎡

### 2) 図書・雑誌・視聴覚資料所蔵数 (平成28年3月31日現在) (表2-9-①-g)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数	
	和書 (冊)	洋書 (冊)	視聴覚 (冊)	計 (冊)	和雑誌 (種)	洋雑誌 (種)
真栄キャンパス本館	14,609	339	433	15,381	398	24
恵み野キャンパス分館	7,957	164	61	8,182	1,375	644
合計	22,566	503	494	23,563	1,773	668

## 3) 年度受入状況（平成28年3月31日現在）

（表2-9-①-h）

区 分			和	洋	計
真栄キャンパス本館	図 書 (冊)	購 入	353	3	356
		寄 贈	18	0	18
		計	371	3	374
	雑 誌 (種)	購 入	54	9	63
		寄 贈	0	0	0
		計	54	9	63
恵み野キャンパス分館	図 書 (冊)	購 入	233	78	311
		寄 贈	273	0	273
		計	506	78	584
	雑 誌 (種)	購 入	45	29	74
		寄 贈	0	0	0
		計	45	29	74

## 2. 利用状況

## 1) 開館日時・休館日

（表2-9-①-i）

開館時間	平 日：9：00～19：00 土曜日：9：00～12：00 学生の長期休暇期間中、平 日：9：00～17：00
休 館 日	日曜、祝日、年末年始、学校閉鎖期間

## 2) 利用資格

平成26年度と同じ

## 3) 貸出冊数・期間

（表2-9-①-j）

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生	5 冊	図 書：2週間
教職員	無制限	図 書：2週間 雑 誌：1週間

## 4) 年間利用者数・貸出冊数等（平成28年3月31日現在）

（表2-9-①-k）

図書館の名称	開館日数 (日)	入館者数 (人)	貸出人数 (人)	貸出冊数 (冊)	ILL件数	
					受 付	依 頼
真栄キャンパス本館	241	15,417	1,973	4,740	0	81
恵み野キャンパス分館	241	-	442	1,941	0	13
合 計	-	-	2,415	6,681	0	94

ILL：Inter - Library Loan（相互貸借）



## 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

本学は、平成26年度開設の看護学科が真栄キャンパスに、平成27年開設のリハビリテーション学科が恵み野キャンパスにあり、基礎教育科目であっても合同で受講することはない。定員が80人である看護学科の演習科目は、2グループに分け行っている。リハビリテーション学科の専門基礎教育科目の演習は、両専攻合同で行っており学生数が50人を超えているが、複数の教員で対応し教育効果の向上に努めている。

## 3 経営・管理と財務

### 3-1 経営の規律と誠実性

学校法人日本医療大学は、「学校法人日本医療大学寄付行為」第3条において、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、大学および専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする」と法人の目的を明確に定めている。

また、管理運営面については、後述のとおり諸規程等に則り適切に運営されている。

法人全体の管理運営は、「学校法人日本医療大学寄附行為」および関連の諸規程に基づいている。

教学についての管理運営は、「日本医療大学学則」および関連諸規程に基づいている。事務局の管理運営は、「学校法人日本医療大学事務組織規程」および関連規程に基づいている。

また、各委員会の委員長については、職指定以外の委員長は学長が任命することになっている。

教授会については、「日本医療大学教授会規程」に基づき運営されており、規程では原則月1回の開催とされているが、本学は開学後日が浅いことから月2回のペースで開催されている。開催日時、議案等は表3-1-a、表3-1-bのとおりである。

表3-1-a

平成26年度教授会の内容

回	開催年月日	審議事項・報告事項
1	平成26年04月09日	[審議事項] ① 入学前の既修得単位の認定について ② 平成26年度各種委員会について ③ 平成26年度学年暦について ④ 教授会日程について ⑤ 平成26年度広報日程について [報告事項] ① 平成26年度教授会構成員について ② 平成27年度入試科目について

2	平成26年04月23日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度入試科目について</p> <p>② 学生委員会の年間事業案と仕事の役割分担案</p> <p>③ 学生生活に関するアンケート調査</p> <p>④ 日本医療大学における学生相談室設置について</p> <p>⑤ 日本医療大学学内団体規程</p> <p>⑥ 日本医療大学学友会則</p> <p>[報告事項]</p> <p>① バスの運行状況について</p> <p>② リハビリテーション学科の増設について</p>
3	平成26年05月14日	<p>[審議事項]</p> <p>① 履修規程の改正について</p> <p>② 学内団体顧問に関する規程について</p> <p>③ 学生団体設立（継続）申請書について</p> <p>④ 学生アンケート「学生の現状」「学生自身について」の調査結果とその対応策について</p> <p>⑤ 学生の課外活動、海外研修及び留学、国際交流に関する活動計画案について</p> <p>⑥ ニュースレター「あずまし」発行案について</p>
4	平成26年05月22日	<p>[審議事項]</p> <p>① 大学の学部の学科設置認可申請について</p> <p>② 学則の改正について</p>
5	平成26年05月28日	<p>[審議事項]</p> <p>① FD委員会年間事業について</p> <p>② 授業評価アンケートについて</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成26年度前期の実習指導教員について</p> <p>② 履修登録について</p>
6	平成26年06月25日	<p>[審議事項]</p> <p>① 保護者懇談会の実施について</p>
7	平成26年07月09日	<p>[審議事項]</p> <p>① 定期試験の実施について</p> <p>② オープンキャンパスの開催について</p> <p>③ 平成26年度就職・進路対策委員会の活動計画について</p> <p>④ 研究費に関する規程の改正について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① リハビリテーション学科申請進捗状況について</p> <p>② 広報室関係</p>
8	平成26年07月23日	<p>[審議事項]</p> <p>① 定期試験の実施と補助監督について</p> <p>② 情報管理指針について</p> <p>③ 教員研修会について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 学内社会実験「自由文庫」の実施状況について</p>

9	平成26年08月27日	<p>[審議事項]</p> <p>① 研究倫理審査委員会の設置について</p> <p>② 平成27年度入学試験問題作成者について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 前期定期試験合否判定について</p> <p>② オープンエデュケーション講演会について</p>
10	平成26年09月24日	<p>[審議事項]</p> <p>① 情報管理指針について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 特別講師委嘱について</p> <p>② 実習指導教員委嘱について</p> <p>③ 学生相談室の開設について</p> <p>④ 体育祭・球技大会について</p> <p>⑤ 学生による授業評価アンケートの送付について</p> <p>⑥ 講演会案内送付について</p>
11	平成26年10月08日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度推薦入学試験実施要領、小論文試験監督要領の検討について</p>
12	平成26年10月22日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度学年暦について</p>
13	平成26年11月26日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度入学生履修規程の改正について</p> <p>② 学生委員会12月のプログラムについて</p> <p>③ 学友会・学内団体室使用心得について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度推薦入学試験の出願状況について</p> <p>② 学術助成費および教育向上研究費の配分について</p> <p>③ リハビリテーション学科の設置認可について</p> <p>④ 診療放射線学科の認可申請について</p>
14	平成26年12月02日	<p>[審議事項]</p> <p>① 推薦入学試験合否判定について</p>
15	平成26年12月10日	<p>[審議事項]</p> <p>① リハビリテーション学科推薦入学試験実施計画について</p>
16	平成26年12月24日	<p>[審議事項]</p> <p>① リハビリテーション学科推薦入学試験合否判定について</p> <p>② 進級等に関する履修規程の改正案の再検討</p> <p>③ 定期試験受験資格者一覧について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 定期試験の時間割及び試験監督について</p> <p>② 「学生委員会セミナー」開催のお知らせ</p> <p>③ 日本医療大学学友会則の一部改正について</p>
17	平成27年01月14日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度一般入学試験実施要領、試験監督要領の検討について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 一般入学試験前期出願状況について</p>

18	平成27年01月28日	<p>[審議事項]</p> <p>① 新入生・在校生オリエンテーションについて</p> <p>② 進級等に関する履修規程の改正について</p> <p>③ 平成27年度入学生履修規程の改正について</p> <p>④ 平成26年度入学生の進級要件に対する申し合わせ事項</p> <p>⑤ 履修規程</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 2015年度学生委員会関連事業計画について</p> <p>② 入学式について</p>
19	平成27年02月05日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度入学試験合否について</p> <p>② 平成27年度一般入学試験・後期実施計画について</p> <p>③ 平成28年度入学試験日程について</p>
20	平成27年02月25日	<p>[審議事項]</p> <p>① 進級判定について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 学生相談室報告書について</p> <p>② 世界と日本Ⅱ J I C A 訪問について</p> <p>③ 2015年度事業報告について（就職・進路対策委員会）</p>
21	平成27年03月10日	<p>[審議事項]</p> <p>① 平成27年度一般入学試験（後期）合否判定について</p> <p>② 進級判定について</p> <p>③ 日本医療大学学則の改正について</p> <p>④ 日本医療大学学生顕彰要項について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 「学生による授業評価アンケート」について</p>
22	平成27年03月25日	<p>[審議事項]</p> <p>① 日本医療大学学則の改正について</p> <p>② 日本医療大学学生顕彰要項について</p> <p>③ 学則下位規程の改正について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度非常勤講師の委嘱及び担当科目について</p> <p>② 平成27年度各種委員会構成について</p> <p>③ 特別入学試験要項について</p> <p>④ 平成27年度構成員について</p> <p>⑤ 平成27年度組織変更について</p>
23	平成27年03月30日	<p>[審議事項]</p> <p>① 特別入学試験合否判定について</p>

表3-1-b

## 平成27年度教授会の内容

回	開催年月日	意見を求める事項・報告事項
1	平成27年04月08日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度教授会開催日程について</p> <p>② 運営協議会の設置について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 「学生委員会からのお知らせ」2015-1について</p> <p>② 今年20歳になる学生のための年金セミナーについて</p> <p>③ 新入生歓迎会、第1回学友会総会について</p>
2	平成27年04月22日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度学生の入学と生活に関するアンケート調査の実施について</p> <p>② 平成27年度第1回オープンキャンパスの実施日変更について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 安心・安全週間の実施について</p>
3	平成27年05月13日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 入学前の既修得単位の認定について</p> <p>② 平成27年度第1回オープンキャンパスの概要について</p> <p>③ 平成27年度学術助成費および教育向上研究費の配当について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度非常勤講師の委嘱及び担当科目について</p> <p>② 平成28年度入学試験科目の英語について</p> <p>③ 日本医療大学主催生涯学習講座について</p> <p>④ 平成26年度日本医療大学事業報告について</p>
4	平成27年05月27日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成28年度日本医療大学学生募集要項について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度学生の入学と生活に関するアンケート調査の結果報告について</p> <p>② 第2回日本医療大学体育大会の開催について</p> <p>③ FD委員会年間事業と学生による授業アンケートについて</p> <p>④ 履修登録について</p> <p>⑤ 実習指導教員の指導料の変更について</p>
5	平成27年06月10日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 日本医療大学職業紹介業務運営規程並びに日本医療大学職業紹介業務に係る個人情報適正管理規程について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度学術助成費および教育向上研究費について</p> <p>② 入学試験問題の公表について</p>

6	平成27年06月24日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度休学許可について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度特別講師の委嘱および担当科目について</p> <p>② 平成27年度実習指導教員の委嘱および担当科目について</p> <p>③ ナーシングセレモニー「2015年の誓い」の実施について</p> <p>④ リハビリテーション学科の学生相談室開室について</p> <p>⑤ 2016年5月申請で認可された学内団体について</p>
7	平成27年07月08日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 定期試験の実施について</p> <p>② 平成27年度第2回、第3回のオープンキャンパスの概要について</p> <p>③ 平成28年度入学試験問題作成者について</p> <p>④ 面接試験D評価の基準について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 定期試験時間割及び試験監督について</p> <p>② 平成27年度第1回オープンキャンパスの結果について</p> <p>③ 教員研修会の実施について</p> <p>④ 学校法人日本医療大学後援会奨学金制度について</p> <p>⑤ 学生による授業アンケート【実習用】について</p>
8	平成27年07月22日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 前期定期試験受験者について</p> <p>② 研究倫理委員会規程、申請の手引き、様式の追加・変更について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 第2回日医祭の準備経過について</p>
9	平成27年08月26日	<p>[報告事項]</p> <p>① 前期定期試験における追試験について</p> <p>② 第2回日医祭について</p> <p>③ 平成27年度第2回オープンキャンパスの結果について</p> <p>④ 保護者懇談会の開催について</p> <p>⑤ 平成26年度入学試験結果について</p> <p>⑥ 平成27年度入学試験結果について</p>
10	平成27年09月09日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度第4回オープンキャンパスの概要について</p> <p>② 平成28年度推薦入学試験実施計画について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 前期定期試験の成績について</p> <p>② 平成27年度第3回オープンキャンパスの結果について</p> <p>③ 診療放射線学科の設置について</p>

11	平成27年10月14日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 大学紀要投稿規程ならびに紀要執筆要領の改正について</p> <p>② 平成28年度オープンキャンパスの日程について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 後期履修登録について</p> <p>② 実習指導教員委嘱及び担当科目について</p> <p>③ 保護者懇談会での学生委員会からのお知らせ</p> <p>④ 9月末締切の学内団体の新設について</p> <p>⑤ 「命」を学ぶイベントの開催について</p> <p>⑥ 第2回日医祭の実施報告</p> <p>⑦ 日本医療大学認知症研究所の発足について</p> <p>⑧ 医療系大学における専門職連携教育について</p> <p>⑨ 日本医療大学生涯学習講座について</p>
12	平成27年10月28日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度休学許可について</p> <p>② 平成28年度学年暦について</p>
13	平成27年11月11日	<p>[報告事項]</p> <p>① 平成27年度第4回オープンキャンパスについて</p> <p>② 平成28年度推薦入学試験の出願状況について</p>
14	平成27年11月18日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成28年度推薦入学試験の合否判定について</p>
15	平成27年11月25日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成27年度休学許可について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 実習指導教員取消者および担当科目について</p> <p>② 実習指導教員委嘱および担当科目について</p>
16	平成27年12月09日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 大学認証評価機関について</p> <p>② 保健医療学部看護学科実習施設の変更について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 2016年1月～2月の学生委員会プログラムについて</p> <p>② 12月15日の講演会と「学生委員会からのお知らせ」の配付について</p>
17	平成28年01月13日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成28年度一般入学試験（前期）実施計画について</p> <p>② 平成28年度新生オリエンテーションについて</p>
18	平成28年01月27日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 履修規程の追試験等に関する申し合わせ事項について</p> <p>② 看護学科およびリハビリテーション学科定期試験時間割について</p> <p>③ 保健医療学部研究発表会・発表実施要領（案）について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 日本医療大学における競争的資金に係る間接経費の取扱方針</p>

19	平成28年02月10日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成28年度一般入学試験（前期）の合否判定について</p> <p>② 平成28年度一般入学試験（後期）の実施計画について</p> <p>③ 平成28年度看護学科における教育課程の変更について</p> <p>④ 日本医療大学履修規程の改正について</p> <p>⑤ 教員の自己点検・自己評価制度について</p> <p>⑥ 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく方針、規程の制定、廃止について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 学生委員会セミナー終了報告について</p> <p>② 春季休暇中の第2回学生スタディ・ツアーについて</p>
20	平成28年03月09日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成28年度一般入学試験（後期）の合否判定について</p> <p>② 進級判定について</p> <p>③ 平成29年度入学試験について</p> <p>④ 平成28年度オープンキャンパスについて</p> <p>⑤ 平成28年度キャンパスツアー（仮称）の実施について</p> <p>⑥ 履修規程の改正について</p> <p>⑦ 保健医療学部看護学科実習施設の変更について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく方針、規程の制定、廃止について</p> <p>② 平成28年度一般入学試験（前期）の手續状況について</p> <p>③ 第2回春季休暇期間スタディ・ツアーの実施計画について</p> <p>④ 2015年度学生相談室活動報告について</p>
21	平成28年03月14日 (持ち回り)	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 平成29年度入学試験について</p>
22	平成28年03月23日	<p>[意見を求める事項]</p> <p>① 仮進級の可否について</p> <p>② 履修規程改正について</p> <p>③ 休学について</p> <p>④ 日本医療大学学則の変更について</p> <p>⑤ 入試広報委員会規程の変更について</p> <p>⑥ 図書館長の任命について</p> <p>⑦ 平成28年度教授会開催日程について</p> <p>⑧ 退学について</p> <p>[報告事項]</p> <p>① 留年について</p> <p>② 非常勤講師一覧（最終版）について</p> <p>③ 特別講師委嘱について</p> <p>④ 災害時行動マニュアルの作成と配付について</p> <p>⑤ 日本医療大学年度別学生顕彰について</p> <p>⑥ 学生募集対策委員会の設置について</p> <p>⑦ 平成28年度各委員会構成メンバーと委員長について</p> <p>⑧ 平成28年度教職員体制について</p> <p>⑨ 学校法人日本医療大学組織規程の改正について</p>



### 3-2 理事会の機能

理事会は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第19条第2項で規定するとおり、法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督している。理事会の開催は表3-2-a、表3-2-bのとおりである。

評議員会については、「学校法人日本医療大学寄附行為」において、理事長は「学校法人日本医療大学寄附行為」第24条に掲げる事項についてあらかじめ評議員会に意見を聞かなければならないと規定されており、評議員会の開催は表3-2-a、表3-2-bのとおりである。

法人の役員については、「学校法人日本医療大学寄附行為」第6条に規定されており、理事6人、監事2人となっている。

評議員については、「学校法人日本医療大学寄附行為」第22条第2項に規定されており、13人となっている。

大学の役職者については、「学校法人日本医療大学組織規程」第4条により、学長は理事会の議を経て、理事長が任命し、学部長は現在学長が兼務しているが、学長の推薦を受け、理事長が任命することとなっている。学科長および図書館長は学長が選任し、理事長が任命することとなっている。

表3-2-a

平成26年度開催 理事会および評議員会

開催会議	開催日時	出席者数（書面表決） ／定員数（名）	
		理事	監事
理事会	平成26年 4月 1日（火） 11：00～11：30	4（0） / 6	0/2
評議員会	平成26年 5月20日（火） 15：00～15：30	12（1） /13	2/2
理事会	平成26年 5月20日（火） 15：40～16：30	5（1） / 6	2/2
評議員会	平成26年 5月20日（火） 16：35～17：00	12（1） /13	2/2
評議員会	平成26年 9月24日（水） 13：30～14：20	12（0） /13	2/2
理事会	平成26年 9月24日（水） 14：30～15：30	5（0） / 6	2/2
評議員会	平成26年12月15日（月） 15：00～15：45	12（1） /13	2/2
理事会	平成26年12月15日（月） 15：55～17：00	6（-） / 6	2/2
評議員会	平成27年 3月 2日（月） 14：00～15：00	12（1） /13	2/2
理事会	平成27年 3月 2日（月） 15：10～16：15	5（1） / 6	2/2
評議員会	平成27年 3月23日（月） 13：30～14：50	12（1） /13	2/2
理事会	平成27年 3月23日（月） 15：00～16：15	5（1） / 6	1/2
理事会	平成27年 3月27日（金） 14：00～14：20	4（0） / 6	0/2

表3-2-b

## 平成27年度開催 理事会および評議員会

開催会議	開催日時	出席者数（書面表決） ／定員数（人）	
		理 事	監 事
評 議 員 会	平成27年 5月20日（水） 15：00～15：30	11（2）／13	2/2
理 事 会	平成27年 5月20日（水） 15：35～16：30	5（1）／6	2/2
評 議 員 会	平成27年 5月20日（水） 16：40～17：00	11（2）／13	2/2
評 議 員 会	平成27年 9月25日（金） 13：30～14：40	12（1）／13	2/2
理 事 会	平成27年 9月25日（金） 14：50～16：15	5（1）／6	2/2
評 議 員 会	平成27年12月18日（金） 15：00～15：40	11（2）／13	2/2
理 事 会	平成27年12月18日（金） 15：50～16：50	5（1）／6	2/2
評 議 員 会	平成28年 3月28日（月） 14：00～14：25	11（2）／13	2/2
理 事 会	平成28年 3月28日（月） 14：30～15：30	5（1）／6	2/2
評 議 員 会	平成28年 3月28日（月） 15：40～16：20	11（2）／13	2/2
理 事 会	平成28年 3月28日（月） 16：30～17：00	5（1）／6	2/2
理 事 会	平成28年 4月 1日（金） 09：30～09：55	5（1）／6	2/2

## 3-3 大学の意思決定の仕組みおよび学長のリーダーシップ

本学は、学則で大学の組織、教職員組織、教授会について規定しているほか、学則に係る規定・細則や各委員会の規程に基づき、教育研究に関する事項を審議している。主たる審議機関である教授会とともに、運営協議会を審議機関として置くことにより、大学運営の円滑化を図っている。

## 運営協議会

「学校法人日本医療大学組織規程」第5条に基づき、本学に運営協議会を置いている。協議会は学長のガバナンスの強化、本学の意思決定および本学運営の円滑化を図ることを目的としている。議長である学長の下、学科長、事務局長などの大学行政管理職階をもって構成される。大学の管理運営に関する事項や教育研究に関わる重要事項のほか、教授会での審議および報告事項、学科間または各部門間の調整に関する事項などを審議する。毎月2回、定期的で開催される。

## 教授会

本学は、「学校教育法」第93条第1項に規定される教授会として、学長、学科長、専任の教授・准教授を構成員として教授会を設置している。

教授会は毎月2回、定期的で開催される。

教授会の審議事項は、「日本医療大学教授会規程」第3条に規定されている。

## 委員会

「日本医療大学学則」第45条により、大学運営に必要な委員会を設置しており、それぞれの規程に従って適切に運営されている。

### 3-4 コミュニケーションとガバナンス

本学の管理運営機関としては、学長の統轄の下に、運営協議会と教授会を必置機関として設置し、その組織は、学部・学科を基本に構成されている。組織は、本学の事務局と連動し、大学運営に規定する任務に基づき適正に機能している。

学長が理事となり法人の意思決定に教学部門の意見が反映される体制を構築している。また、理事会が決定した法人の経営方針に基づき、法人の方向性を共有し責任と権限をもって業務を執行するための執行役員に学長が選任されている。

理事長は「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき法人を代表し、法人の運営全般にわたり、リーダーシップを発揮している。建学の精神および自らの教育理念に基づき、教職員をリードし、理事会を中心として法人全体の管理運営を適切に行っている。

監事は、法人に係る業務全般および財産などの状況について、法人の内部監査室の支援を受けて適時・適切に監査を行い、理事会および評議員会に報告している。

理事会は事業計画、予算、決算の決議を行い、理事の職務の執行を監督している。

評議委員会は「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき適切に運営されている。

学長は理事会に出席し、法人の管理運営に参画するとともに、教授会を適切に運営し、本学の管理運営、教学の両面において常に指導力を発揮している。従って、理事長および学長を中心に本学は適切に運営されている。

### 3-5 業務執行体制の機能性

本学の使命・目的の達成のため、事務局を編成しており、事務局は「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」など、事務組織に関する諸規程に基づき事務組織の責任体制が明確に定められている。さらに、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「学校法人日本医療大学職務権限規程細則」により決裁権限の移譲および専決事項の明確化を図り、業務の効率的な執行に努めている。

業務執行を管理し、適切に機能させるために本学では、事務局に運営事業グループ、学生支援グループ、学術情報グループ、法人グループを置いている。また、各グループの事務統括責任者として、グループ長を置いている。各業務については「学校法人日本医療大学事務分掌細則」に基づき、組織的かつ能率的な運用を図っている。

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築、強化および大学の管理運営機能強化ならびに教育研究機能の活性化が最重要課題となってきた。こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のために、SD (Staff Development) として、学内研修を毎月1回定期的に行っている。

### 3-6 財務基盤と収支

(平成26年度)

平成26年度収支予算は、平成26年3月25日（火）開催の評議員会および理事会において議決、その後平成26年9月24日（水）開催の評議員会および理事会において収支補正予算を議決、これらにそって適正執行した。

平成26年度事業報告書および平成26年度決算（財務計算に関する書類）については、平成27年5月20日（水）開催の理事会で承認を得た後、評議員会に付した。

法人の平成26年度決算概要等は、以下のとおりである。なお、法人に係る平成26年度事業報告書および財務に関する書類は、ホームページに掲載するとともに事務室に備え付けている。

#### (1) 資金収支（計算書）

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものである。

学生生徒等納付金収入は1,254百万円（対25年度53百万円増）、寄付金収入は451百万円（対25年度300百万円増）、前受金収入は764百万円（対25年度27百万円減）、借入金収入131百万円（長期123百万円、短期8百万円）等となった。

これらの結果、資金収入総計は、3,371百万円（対25年度313百万円減）となった。なお、主な減額要因は前年度繰越支払資金の減少である（表3-6-a）。

表3-6-a. 平成26年度資金収入総計

(百万円)

科 目	金 額	備 考
学生生徒等納付金収入	1,254	
寄付金収入	451	
借入金収入	131	長期123、短期8（年度内返済）
上記以外の収入	69	手数料収入、補助金収入他
前受金収入	764	翌年度学生生徒納付金等
その他の収入	45	前年度末未収入金、預り金等
資金収入調整勘定	△798	
前年度繰越支払資金	1,455	
総 計	3,371	

資金支出は以下のとおりである。人件費は、専任教員増に伴い840百万円（対25年度77百万円増）となった。

(平成26年5月1日における専任教員数は82人)

教育研究経費は405百万円（対25年度101百万円増）、管理経費は143百万円（対25年度77百万円減）となった。

施設整備費は、日本福祉学院2号館の取得等により344百万円（対25年度69百万円減）となった。

これらの結果、次年度繰越支払資金は1,381百万円（対25年度74百万円減）となり25年度末に比して減少した（表3-6-b）。

表3-6-b. 平成26年度資金支出総計

(百万円)

科 目	金 額	備 考
人件費支出	840	教員637、職員145
教育研究経費支出	405	教育に要する経費
管理経費支出	143	総務・経理・学生募集等に係る経費
その他の経費支出	317	借入金利息・返済
施設関係支出	344	日本福祉学院2号館取得
設備関係支出	77	教育研究用機器備品、図書等
資産運用支出	10	収益事業元入金
その他の支出	71	長期未払い金、前期末未払金、前払金等
資金支出調整勘定	△217	期末未払金、前期末前払金
総 計	1,990	
次年度繰越支払資金	1,381	

## (2) 消費収支（計算書）

消費収支計算書は、当該会計年度の学生生徒等納付金などの「帰属収入」から「基本金組入額」を控除した「消費収入」と人件費・教育研究経費等の「消費支出」との均衡状態、内容により経営状況を把握するものである。消費収支計算書の収入の部から学校法人の帰属収入とならない借入金等収入および資金の動きだけを示す前受金、その他の収入等は除かれる。また、支出の部では借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出等が除かれる。消費支出として退職給与引当金繰入額および減価償却額が計上される。

教育研究経費は546百万円（対25年度113百万円増、賃借料・報酬委託手数料・減価償却額の増加）、管理経費は144百万円（対25年度79百万円減）基本金組入額は377百万円（対25年度539百万円減）となった。

これらの結果、当該会計年度の消費支出の部合計は1,559百万円（対25年度108百万円増）、当該会計年度の消費支出超過額は162百万円（対25年度707百万円改善）、翌年度繰越消費支出超過額は1,573百万円（対25年度162百万円増）となり、消費支出は25年度末に比して悪化した（表3-6-c）。

表3-6-c. 平成26年度消費支出

(百万円)

科 目	金 額	備 考	帰属収入割合
学生生徒等納付金	1,253		70.1%
寄付金	451	特別寄付金	25.4%
補助金	34	地方公共団体補助金	1.9%
上記以外の収入	36	手数料、雑収入等	2.6%
帰属収入合計	1,774		100.0%
基本金組入額	△377		
消費収入の部 合計	1,397		
人件費	853	退職給与引当金含む	
教育研究経費	546	内減価償却費 141	

管理経費	144	内減価償却費 1	
借入金等利息他	16		
消費支出の部 合計	1,559		
当年度消費支出超過額	162		
前年度繰越消費支出超過額	1,410		
翌年度繰越消費支出超過額	1,573		

※百万円未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態を示した表で、負債、基本金および消費収支差額の状況をあらわしている。財務状況や経営分析に使用する重要なものである（表3-6-d）。

表3-6-d. 平成26年度貸借対照表

(百万円)

科 目	金 額	備 考
資産	5,085	対25年度 175増
固定資産	3,692	〃 275増
流動資産	1,393	〃 100減
負債	1,616	〃 39減
固定負債	547	〃 89減
流動負債	1,069	〃 50増
基本金	5,042	〃 377増
第1号基本金	4,945	〃 377増
第4号基本金	97	〃 増減なし
翌年度繰越消費支出超過額	1,573	

(平成27年度)

平成27年度収支予算は、平成27年3月28日（月）開催の評議員会および理事会において議決、その後平成27年5月20日（水）、平成27年9月25日（金）、平成28年3月28日（月）開催の評議員会および理事会において収支補正予算を議決、これらにそって適正執行した。

平成27年度事業報告書および平成27年度決算（財務計算に関する書類）については、平成28年5月24日（火）開催の理事会で承認を得た後、評議員会に付した。

法人の平成27年度決算概要等は、以下のとおりである。なお、法人に係る平成27年度事業報告書および財務に関する書類は、ホームページに掲載するとともに事務室に備え付けている。

#### (1) 資金収支（計算書）

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものである。

学生生徒等納付金収入は1,242百万円（対26年度12百万円減）、寄付金収入は333百万円（対26年度118百万円減）、前受金収入は781百万円（対26年度17百万円増）等となった。

これらの結果、資金収入総計は、3,044百万円（対26年度327百万円減）となった。なお、主な減額要因は寄付金収入と前年度繰越支払資金の減少である（表3-6-e）。

表3-6-e. 平成27年度資金収入総計 (百万円)

科 目	金 額	備 考
学生生徒等納付金収入	1,242	
寄付金収入	333	
上記以外の収入	76	手数料収入、補助金収入他
前受金収入	781	翌年度学生生徒納付金等
その他の収入	7	前年度末未収入金、預り金等
資金収入調整勘定	△776	
前年度繰越支払資金	1,381	
総 計	3,044	

資金支出は以下のとおりである。人件費は、専任教員増にともない954百万円（対26年度114百万円増）となった。

（平成27年5月1日における専任教員数は91人）

教育研究経費は365百万円（対26年度39百万円減）、管理経費は116百万円（対26年度27百万円減）となった。

施設整備費は、日本医療大学保健医療学部診療放射線学科開設にともない97百万円となった。

これらの結果、次年度繰越支払資金は1,247百万円（対26年度134百万円減）となり26年度末に比して減少した（表3-6-f）。

表3-6-f. 平成27年度資金支出総計 (百万円)

科 目	金 額	備 考
人件費支出	954	教員 747、職員 207
教育研究経費支出	365	教育に要する経費
管理経費支出	116	総務・経理・学生募集等に係る経費
その他の経費支出	109	借入金利息・返済
施設関係支出	1	
設備関係支出	97	教育研究用機器備品、図書等
その他の支出	207	長期未払い金、前期末未払金、前払金等
資金支出調整勘定	△52	期末未払金、前期末前払金
総 計	1,797	
次年度繰越支払資金	1,247	

## (2) 事業活動収支（計算書）

事業活動収支計算書は、当該会計年度の「教育活動」「教育外活動」「特別活動」に対応する事業活動収入および事業活動支出により、それぞれの収支状況を把握できるようにするとともに、基本

金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する収入および支出により経営状況を把握するものである。事業活動収支計算書の収入の部から借入金等収入および資金の動きだけを示す前受金、その他の収入等は除かれる。また、支出の部では借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出等が除かれる。教育活動支出として退職給与引当金繰入額および減価償却額が計上される。

「教育活動収支」における教育研究経費は478百万円（対26年度68百万円減、賃借料・修繕費・減価償却額の減少）、管理経費は131百万円（対26年度13百万円減）となり、教育活動収支差額は63百万円となった。

「教育活動外収支」における教育活動外収支差額は△9百万円となった。

「特別活動」における特別収支差額は△3百万円となった。

基本金組入前当年度収支差が51百万円となり、基本金組入額は288百万円（対26年度89百万円減）となった。

これらの結果、当該会計年度の当年度収支差額は△236百万円、翌年度繰越支出差額は1,810百万円（対26年度237百万円増）となり、消費支出は26年度末に比して悪化した（表3-6-g）。

表3-6-g. 平成27年度消費支出 (百万円)

教育活動	事業活動収入の部	科目	金額	備考
		学生生徒等納付金	1,242	
教育活動収支	事業活動収入の部	寄付金	333	特別寄付金
		補助金	27	地方公共団体補助金
		上記以外の収入	41	手数料・雑収入等
		教育活動収入計	1,643	
		事業活動の支出部	人件費	970
	教育研究経費		478	内減価償却費 113含む
	管理経費		131	内減価償却費 15含む
	その他の支出		1	
	教育活動支出計		1,580	
	教育活動収支差額			63
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	0円	
		その他の教育活動外収入	0円	
		教育活動外収入計	0円	
	事業活動支出の部	借入金等利息	9	
		その他の教育活動外支出	0円	
		教育活動外支出計	9	
教育活動外収支差額			△9	
経常収支差額			54	
特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	1	
		特別収入計	1	
	事業活動支出の部	その他の特別支出	4	
		特別支出計	4	



特別収支差額	△3	
基本金組入前当年度収支差額	51	
基本金組入額合計	△288	
当年度収支差額	△236	
前年度繰越収支差額	△1,573	
翌年度繰越収支差額	△1,810	

※百万円未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態を示した表で、負債、基本金および消費収支差額の状況をあらわしている。財務状況や経営分析に使用する重要なものである（表3-6-h）。

表3-6-h. 平成27年度貸借対照表

(百万円)

科 目	金 額	備 考
資産	4,916	対26年度 169減
固定資産	3,653	〃 38減
流動資産	1,262	〃 130減
負債	1,395	〃 220減
固定負債	433	〃 113減
流動負債	961	〃 107増
基本金	5,330	〃 288増
第1号基本金	5,233	〃 377増
第4号基本金	97	〃 増減なし
翌年度繰越消費支出超過額	1,810	

### 3-7 会計

法人は、学校法人会計基準および「学校法人日本医療大学経理規程」等に基づき、主に法人グループと運営事業グループが連携し確認しながら、適正な会計処理を行っている。

なお、学内における会計処理上、判断の難しい事例などが生じた場合は、公認会計士の指導・助言を受けながら適正に会計処理を行っている。また、「学校法人日本医療大学経理規程」第9章（予算編成）に基づき、予算を編成している。

やむを得ない事由や決算額が予算額と著しく乖離する場合は、その都度補正予算を編成している。

学校法人会計に識見を有する監事の監査については、私立学校法人および私立学校振興助成法ならびに学校法人会計基準などの法令に基づき、適正かつ厳正なる監査を実施している。

## 4 自己点検・評価

### 4-1 自己点検・評価の適切性

#### 4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

本学の使命・目的については、1-2に記載したとおりであり、それを達成するためには、自主的で自律的な自己点検・評価が必須である。本学の自己点検評価委員会規程は、平成26年4月1日に制定され、委員会が発足している。本委員会の審議事項は第2条に定められ、(1) 点検評価の基本的方針および実施基準の策定に関する事項、(2) 点検評価の実施に関する事項、(3) 点検評価報告書の作成に関する事項、(4) 点検評価結果の公表に関する事項、(5) その他の必要事項が謳われている。

#### 4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

自己点検評価委員会規程第3条により、委員会の構成員は学科長、学科から選出された教員2人、事務局長、運営事業グループ長である。平成26・27年度の構成員は、委員会報告 (p.87) のとおりである。

#### 4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

平成26年度は、自己点検評価委員会は開催されなかった。平成27年度9月から実質的な活動が始まったが不定期的な開催であった。平成28年度から定期的に行うことが決まっている。

### 4-2 自己点検・評価の誠実性

#### 4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

本学は、開学2年目であり未だ自己点検・評価に至っていない。来年度初頭に公益財団法人 日本高等教育評価機構（以下、高等教育評価機構）に加盟し、平成31年度に認証評価を受審する予定である。

平成27年度に「教員の自己点検・評価表」(表4-2-①-a)を作成し、教授会の承認を得て、年度末に全教員に実施した。これは、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての目標を上司の承認の得て作成し、年度末にそれらの自己評価を行い翌年度の目標を立てPDCAサイクルを実践するものである。

#### 4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

自己点検・評価委員会では、点検評価報告書を「日本医療大学 年報（以下、年報）」として公表することとした。年報を作成するにあたり各種委員会や関連部署に年間の活動報告や資料の提出を依頼し、編纂している。この作業の中で追加の資料を依頼したり疑問に思われる内容の分析や確認を行っている。

#### 4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

年報については、印刷の上、学内教職員に配布し、本学の実情の理解を図りたい。また、ホームページにも掲載し、社会に公表する予定である。

表4-2-①-a. 教員の自己点検・評価表

平成 年度 教員自己点検・評価表							年 月 日
分野		ウエイト	学科 職階： 具体的目標	氏名：	達成感	担当上司名：	自己評価
教 育	%				5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
					5・4・3・2・1		
					5・4・3・2・1		
研 究	%				5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
					5・4・3・2・1		
					5・4・3・2・1		
大学業務	%				5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
					5・4・3・2・1		
					5・4・3・2・1		
社会貢献	%				5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
					5・4・3・2・1		
					5・4・3・2・1		
	上司のコメント		上司のコメント		達成度 5：目標を大きく上回る成果があった 4：目標を上回る成果があった 3：目標を達成できた 2：目標を少し達成できなかった 1：目標をほとんど達成できなかった		

#### 4-3 自己点検・評価の有効性

自己点検・評価の結果の活用のためのPDCAサイクルの仕組みの確立と機能性について、本学は高等教育評価機構の認証評価は未受審であるが、受審後は、機構の意見を尊重し、改善に取り組む予定である。毎年、年報を発行し、長所、短所を確認しながらより良き大学の実現に向けて努力を重ねる所存である。

## 5 使命・目的に基づく大学独自の基準設定と自己点検・評価

### 5-1 日本医療大学認知症研究所

本学の歴史は、昭和59（1984）年4月に札幌市豊平区月寒に開設された特別養護老人ホーム「幸栄の里」に始まる。以来、高齢者医療・福祉の分野で先駆的な役割を果たしてきた。本学の運営母体であるノテ福祉会は、北海道、東京に69高齢者福祉施設を経営している。そうした中で、高齢者医療福祉分野に有能な人材が必要であるとの要望から、専門学校教育から大学教育へと転換を図った。本学の使命・目的は、「幅広い教養と高度な医療福祉の知識技術を修得し問題解決能力に長けた医療人の育成」であり、使命・目的の達成のため、高齢者福祉サービス事業を展開しているノテ

福祉の協力の下、高齢者社会で一番の問題となっている認知症を克服するという使命・目的のため、平成27年10月1日に本邦初となる大学が設置する認知症研究所を設立した。

本研究所の事業内容は、研究部門、広報部門、外部連携部門から成る。研究部門の平成27年度の主たる事業は、在宅の認知症高齢者を支えるサービスシステムとしての小規模多機能型居宅介護サービスの有効性に関する研究であった。

研究所は、傳野隆一学長を所長とし、顧問に中村秀一氏（一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長）、今井幸充氏（一般社団法人日本認知症ケア学会副理事長）を迎え、研究員は対馬輝美氏（一般財団法人つしま医療福祉研究財団理事長）、2人の本学教授、錢本隆行氏（日欧文化交流学院学院長）、4人のノテ福祉施設長、客員研究員として五十嵐智嘉子氏（一般社団法人北海道総合研究会理事長）で構成されている。

本研究所は、設立されて間もないが、本学を含むつしま医療福祉グループの総合力を活用し、認知症を引き起こす疾患に関する研究や関連事業を行い、国民の健康福祉の増進に貢献しようとしている。

平成27年度の活動状況は、委員会活動報告の項（p.103）を参照のこと。

## 6 社会貢献

大学自身の啓蒙活動や大学が保有する有形無形の資源を社会に還元することは、大学の使命の一つである。

大学自身の啓蒙活動として、オープンキャンパスや一日体験入学、高校生や中学生の大学見学の受け入れ、高校への出前講義、入試説明会などが挙げられる。これらの活動は、開学間もない本学を社会に周知し、受験生や入学者の獲得に大変有益である。オープンキャンパスは、平成26年度に看護学科で4回、リハビリテーション学科で3回開催（表6-a）し、平成27年度には、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科（平成28年4月開催）ともに4回開催（表6-b）した。一日体験入学は、平成26年度に看護学科で1回開催（表6-c）し、平成27年度には、看護学科、リハビリテーション学科ともに3回開催（表6-d）した。大学見学は、平成27年度に5回（表6-d）あった。出前講義は、平成26年度に4回（表6-e）、平成27年度には27回（表6-f）あった。入試説明会は、平成27年度に1回開催（表6-g）した。

表6-a. 平成26年度オープンキャンパス参加人数

		3年・既卒			2年			1年			合計	保護者	友人	教員	総合計
		看護	リハ	不明	看護	リハ	不明	看護	リハ	不明					
6/22	真栄	33			9			4			46	17			63
	恵み野		12			4			1		17	10			27
7/27	真栄	34			10			3			47	15			62
	恵み野		19								19	11			30
8/10	真栄	70			28			3			101	28			129
	恵み野		32			4					36	20			56
10/5	真栄	16			2			1			19				19
	恵み野										0				0
		153	63	0	49	8	0	11	1	0	285	101	0	0	386
		216			57			12							

単位は人

表6-b. 平成27年度オープンキャンパス参加人数

		3年・既卒					2年					1年					合計	保護者	友人	教員	総合計
		看護	P T	O T	放射	不明	看護	P T	O T	放射	不明	看護	P T	O T	放射	不明					
6/20	真栄	36			22		4			3		1				66	11		1	78	
	恵み野		11	8		1			1			1				22	11			33	
7/26	真栄	54			15		11			7					87	41			128		
	恵み野		16	9				3							28	11			39		
8/9	真栄														0				0		
	恵み野														0				0		
10/4	真栄	67			35		20			7		3		5	137	62	4		203		
	恵み野		25	15				13	4				0	0	57	19	2		78		
		157	52	32	72	1	35	16	5	17	0	4	1	0	397	155	6	1	559		
		314					73					10									

単位は人

表6-c. 平成26年度一日体験入学

平成26年度の実績は看護学科で高校1校参加者数16人（内訳高校3年生2人・2年生14人教員2人）。  
大学1日学生体験参加人数

日時	高校名	訪問CA	企画名	3年	2年	1年	既卒	合計	保護者	教員	総合計
10/14	北海学園札幌	真栄	一日体験入学（看護）	2	14			16		2	18
				2	14			16		2	18

単位は人

表6-d. 平成27年度一日体験入学および 大学見学

平成27年度の実績は看護学科で高校4校・中学1校参加者数316人（内訳高校3年生20人・2年生281人・1年生5人、中学校3年生19人、教員16人）。  
リハビリテーション学科で高校3校36人（内訳高校2年生31人・1年生5人、教員1人）。

日時	高校名	訪問CA	企画名	3年	2年	1年	既卒	合計	保護者	教員	総合計
6/18	札幌真栄	真栄	大学見学		81			81		4	85
6/25	札幌真栄	真栄	大学見学		73			73		4	77
7/2	札幌真栄	真栄	大学見学		82			82		4	86
7/14	中の島中	真栄	大学見学	19				19		1	20
7/14	北星女子中高	真栄	一日体験入学（看護）	20	5			25		1	26
10/15	北海学園札幌	真栄	一日体験入学（看護）		3	5		8		1	9
11/11	恵庭南	恵み野	大学見学		5			5			5
1/26	北海学園札幌	恵み野	一日体験入学（リハ）			5		5			5
1/29	伊達緑丘	真栄	一日体験入学（看護）		11			11		1	12
1/29	伊達緑丘	恵み野	一日体験入学（リハ）		13			13		1	14
3/26	-	恵み野	一日体験入学（リハ）		13			13			13
				39	286	10	0	335	0	17	352

単位は人

表6-e. 平成26年度出前講義

高等学校等出前講義について

平成26年度の実績は4校で参加者数77人であった。（うち1校42人は本学つしま記念ホールにて実施）  
学科別では、看護学科では医療全般の分野を含め3校で実施し、参加者は64人であった。

リハビリテーション学科では1校13人が参加した。

出前講義等

日時	高校名	企画	分野	主催	参加者(人)
6/24	札幌真栄	模擬講義	看護	高	校 42
6/26	札幌南陵	模擬講義	看護	高	校 12
1/27	駒大苫小牧	職業講話	看護	高	校 10
2/4	釧路明輝	模擬講義	リハビリ	高	校 13
合計	4校				77

表6-f. 平成27年度出前講義

高等学校等出前講義について、平成27年度の実績は27校で参加者数431人であった。学科別では、看護学科で医療全般の分野を含め21校で実施し、参加者数363人（教員1人除く）リハビリテーション学科で3校38人、診療放射線学科で、2校13人（教員・保護者5人除く）が参加した。（リハビリテーション学科・診療放射線学科合同の講義1校18人を除く）

日時	高校名	企画	分野	主催	参加者
5/19	遠 軽	出前講義	看護・医療系	高 校	26
5/20	クラーク記念国際(大通)	分科会	看護	ライセンス	7
5/25	札幌山の手	分科会	看護	ライセンス	10
6/23	札幌真栄	職業説明	看護	高 校	19
7/22	釧路江南	出前講義	看護	高 校	49
7/23	帯広緑陽	出前講義	作業療法	高 校	25
8/24	恵庭北	入試説明	本学全般	高 校	25
8/26	釧路明輝	分野別説明	看護	高 校	35
10/30	クラーク大通	模擬講義	医療	ライセンス	15
10/5	看護予備	入試説明	看護	看護予備	11
10/7	第一看護予備校	学校説明	看護	第一看護予備校	11
10/17	遺愛女子	講演会	看護	ライセンス	19
10/19	北海学園札幌	入試説明	本学リハビリ	高 校	12
10/30	上ノ国	出前講義	看護	高 校	8
11/4	恵庭北	職業説明	リハビリ・診療放射線	高 校	18
11/6	旭川龍谷	分科会	看護・医療	ライセンス	18
11/9	札幌山の手	模擬講義	看護・医療	ライセンス	16
11/11	札幌清田	出前講義	看護	高 校	23
11/21	函館大学付属有斗	職業説明	診療放射線	高 校	7
12/3	双葉	分科会	看護・医療	ライセンス	25
12/4	小清水	模擬授業	医療	ライセンス	2
12/8	北見商業	職業説明	診療放射線	高 校	6
12/11	北見工業	職業説明	リハビリ	高 校	1
12/15	穂別	模擬講義	看護	ライセンス	5
1/26	駒大苫小牧	模擬講義	看護	ドリコム	16
3/10	駒大苫小牧	模擬演習	看護	ドリコム	19
3/10	苫小牧中央	模擬演習	看護	ライセンス	3
合計	27校				431

単位は人

表6-g. 平成27年度入試説明会（平成26年度実績無し）

平成27年度の実績はリハビリテーション学科で1回実施。理学療法学専攻12人、作業療法学専攻4人合計16人の参加であった。

日時	高校名	学科	3年		2年		1年		既卒		合計	保護者	総合計
			PT	OT	PT	OT	PT	OT	PT	OT			
11/28	入試説明会	リハビリ	11	2		2	1				16	10	26
			13		2		1		0		16	10	26

単位は人

### 公開講座

本学主催の公開講座は、27年度に公開講座、生涯学習講座を併せて7回行った（表6-f、6-g、6-h）。

表6-f 平成26年度 公開講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数(人)
平成26年11月23日	札幌市	「いつまでもおいしく食べたい！」を可能にする口腔内の観察とケアのポイント	柿木 保明	120

表6-g 平成27年度 公開講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数(人)
平成27年10月31日	札幌市	医療系大学における専門職連携教育	三浦 宜彦	120

表6-h 平成27年度 生涯学習講座

〔平成27年度〕

開催年月日	開催場所	テーマ	講演者	参加人数
平成27年10月17日	月寒公民館	口腔から始まる健康長寿	賀来 亨	17
平成27年11月28日	月寒公民館	手足腰を動かし元気に過ごす	高橋 光彦	20
平成27年12月26日	月寒公民館	健康寿命を延ばす簡身体操	石橋 晃仁	18
平成28年01月23日	月寒公民館	超高齢化社会について 人類が始めて経験する「あれ」や「これ」	林 美枝子	24
平成28年02月27日	月寒公民館	病は気から？	須賀 俊博	28
平成28年03月26日	月寒公民館	ここはどこ？あなたは誰？ せん妄の予防と対応	長谷川真澄	36

単位は人



## 7 顕彰

### ・学生顕彰について

学生顕彰は、平成26年度に創設された。その経緯は、平成27年2月4日開催の学生委員会で学生表彰の創設について議論がなされ、その後平成27年3月4日、平成27年3月23日開催の学生委員会、平成27年3月10日、平成27年3月25日開催の教授会での審議を経て、日本医療大学学生表彰要項ならびに第1回学生顕彰の成績優秀者顕彰8人が決定した。なお、社会貢献者顕彰は該当がなかった。授与式は、平成27年4月7日に執り行われた。

平成27年度は、平成28年3月9日開催の学生委員会、平成28年3月23日開催の教授会で成績優秀者顕彰15人が決定した。なお、平成27年度も社会貢献者顕彰は該当がなかった。授与式は、平成28年4月16日に行う予定である。

### ・教員の教育顕彰について

教員の教育顕彰の創設については、学科設置完成前のため検討は進んでいないが、3学科が設置した平成28年度から検討を行う。

## 8 委員会活動報告

平成26年4月の開学時に以下の委員会と構成委員により、本学の運営がなされてきた（表7-a、7-b）。

表7-a 平成26（2014）年度 日本医療大学各種委員会と構成員

委員会名	委員長	委員	
		看護学科	事務局
教務委員会	小山 満子 教授	原谷、伊藤、山田、松本	竹内
学生委員会	林 美枝子 教授	森口、山田、福島	竹内
入試広報委員会	傅野 隆一 学長	門間、佐々木、森口、滋野	黒澤・広報室
自己点検評価委員会	小山 満子 教授	佐々木、伊藤	運営事業G長
研究倫理委員会	村松 宰 教授	門間、林、森口	杉原
研究費審査委員会	村松 宰 教授	村松、林、小山、小島	黒澤
人権擁護委員会	林 美枝子 教授	小山、森口	竹内
図書・学術振興委員会	村松 宰 教授	小島、滋野	杉原
就職・進路対策委員会	原谷 珠美 准教授	藤長、伊藤、福島	竹内
F D 委員会	松本真由美 准教授	小島、斉藤	竹内
教員選考委員会	傅野 隆一 学長		黒澤
ハラスメント防止委員会	林 美枝子 教授	小山、松本	竹内、杉原

表7-b 平成27（2015）年度 日本医療大学各種委員会と構成員

任期：平成27年4月～平成28年3月 2015.4.8修正後

委員会名	構成員数 (人)	委員長	委員		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務局
教務委員会	2	小山 満子教授	門間、原谷、 佐々木、松本、 山田	乾、高橋、石橋、 合田	竹内、西山
学生委員会	3	林 美枝子教授	森口、山田、 福島	高橋、澤田	竹内、富田
入試広報委員会	2	傳野 隆一学長	門間、佐々木、 森口、滋野	乾、坪田、高橋	今井事務局長、 富田、
自己点検評価委員会	2	乾 公美教授	門間、佐々木、 伊藤	澤田、佐藤	今井事務局長
研究倫理委員会	3	佐藤 秀紀教授	門間、林、 森口	澤田	杉原
研究費審査委員会	3	村松 宰教授	小山、畑瀬、 小島	坪田、佐藤	杉原
人権擁護委員会	2	林 美枝子教授	門間、森口	乾、早川	竹内
図書・学術振興委員会	2	村松 宰教授	小島、滋野	早川、清田	杉原
就職・進路対策委員会	3	原谷珠美准教授	藤長、伊藤、 福島	早川、石橋	竹内
FD委員会	2	松本真由美准教授	小島、岡田	佐藤、清田	竹内
教員選考委員会		傳野 隆一学長	学部長、学科長、	審査委員	今井事務局長
ハラスメント防止委員会 (兼相談員)	3	坪田 貞子教授	小山、松本	石橋	竹内、杉原

\* 下線：規程上学科長を構成員に含む

各委員会の平成26・27年度の活動状況および次年度への課題は、以下のとおりである。ただし、平成26年度の活動報告書がない委員会については、委員会の開催がなかった。

### 平成26年度 教務委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程に関する事項</li> <li>2 定期試験およびその他の試験に関する事項</li> <li>3 授業計画および実施、授業担当者に関する事項</li> <li>4 成績評価、単位認定、進級および卒業に関する事項</li> <li>5 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項</li> <li>6 教育施設および教材に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 平成26年度年間教材等全体予算</li> <li>② 平成26年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等および予算</li> <li>③ 次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算</li> <li>④ 次年度教育施設等全体予算</li> <li>⑤ 次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成</li> </ol> </li> <li>7 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項</li> <li>8 学生便覧、講義要綱に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>① キャンパスハンドブックの見直し</li> <li>② シラバスの見直し</li> </ol> </li> <li>9 その他教務に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 履修規程の見直しと申し合わせ事項</li> <li>② 医療者としての情報管理指針の作成</li> <li>③ 保護者懇談会の4月・10月の教務事項 ※教務事項等の報告者（教務委員長）</li> <li>④ 新入生オリエンテーション（案）</li> <li>⑤ 在校生ガイダンス（案）</li> <li>⑥ オフィスアワーの調査と学生周知等</li> </ol> </li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 看護学科のカリキュラムの進度検討                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果を高める理由により、科目の進度変更を検討する必要が問題提起された。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2 定期試験およびその他の試験に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 定期試験実施要項の作成                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に作成した定期試験要領について、次年度のリハビリテーション学科の開設にともない、両学科に適應するために定期試験実施要領に定期試験実施要項の一部を変更した。</li> <li>・看護学科学生の立地条件や交通事情を考慮した試験開始時間とした。</li> <li>・試験会場の広さなどを考慮し、試験の不正予防として、科目試験毎の席順の指定席を直前に変更する等の工夫をした。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3 授業計画および実施、授業担当者に関する事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定されていた授業担当者の一身上の都合により、一部ではあるが担当者の変更があった。</li> </ul> </li> </ol>

実施内容と結果	<p>4 成績評価、単位認定、進級および卒業に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の進級要件に対する問題提起があり、検討された。結果、平成27年度入学生は一部履修規程の改正が認められた。平成26年度入学生は申し合わせ事項とした。</li> <li>・成績評価は、進級要件に沿い、教務委員会で判定した。その結果、進級の合意がされた。</li> </ul> <p>5 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項</p> <p>5-1 休学、退学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科1年次に該当者はなかった。</li> </ul> <p>6 教育施設および教材に関する事項</p> <p>6-1 教務委員会等の予算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度年間教材等全体予算と次年度予算を検討した。</li> <li>・平成26年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等および予算と次年度の実習指導教員・非常勤講師・変更と各学科で予算化した。</li> <li>・実習指導教員・非常勤講師・変更等のフォーマットの作成をした。実習指導教員の検討を実施し、承認された。</li> <li>・次年度教育施設等全体予算</li> </ul> <p>6-2 初年度教育の教材・手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度教育に関する教材・手引書の完成に向けて、担当者を決定して勧めた。</li> </ul> <p>7 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事項なし</li> </ul> <p>8 学生便覧、講義要綱に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスハンドブックの見直し</li> <li>・リハビリテーション学科の開設も考慮したシラバスの見直しを行った。</li> </ul> <p>9 その他教務に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修規程の見直しと改正を実施した。</li> <li>・医療者としての情報管理指針を作成した。</li> <li>・保護者懇談会（4月・10月）は、学長の依頼を受け、今年に限り、教務委員会で企画・運営教務事項説明をした。 ※教務事項等の報告者（教務委員長）が就職事項も含めた説明を実施した。</li> <li>・新生オリエンテーション（案）の見直しと実施</li> <li>・在校生ガイダンス（案）時期の見直し</li> <li>・在校生ガイダンス（案）の内容の検討をし、最終的には担任に企画を依頼する方向に決定した。</li> <li>・オフィスアワーの調査と学生周知等</li> </ul>
次年度への課題等	<p>1 定期試験実施要領等を作成し、進めてきたが、新学科との調整が必要であり、学生に不利益のないように進めていく必要がある。</p>

次年度への課題等	<p>2 履修規程について、本学の学生に対して、進級要件が適していない部分があると考えられ、改正案が認められた。新学科に適した内容の再検討が求められる可能性がある。</p> <p>3 4月、10月の保護者懇談会の教務事項(学科と学部での説明内容の区別)の内容の再検討が必要である。</p>
----------	--

### 平成27年度 教務委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<p>1 教育課程に関する事項</p> <p>2 定期試験およびその他の試験に関する事項</p> <p>3 授業計画および実施、授業担当者に関する事項</p> <p>4 成績評価、単位認定、進級および卒業に関する事項</p> <p>5 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項</p> <p>6 教育施設および教材に関する事項</p> <p>① 平成27年度年間教材等全体予算</p> <p>② 平成27年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等および予算</p> <p>③ 次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算</p> <p>④ 次年度教育施設等全体予算</p> <p>⑤ 次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成</p> <p>7 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項</p> <p>8 学生便覧、講義要綱に関する事項</p> <p>① キャンパスハンドブックの見直し</p> <p>② シラバスの見直し</p> <p>9 その他教務に関する事項</p> <p>① 履修規程の見直し</p> <p>② 医療者としての情報管理指針</p> <p>③ 保護者懇談会の4月・10月の教務事項 ※教務事項等の報告者(教務委員長)、学科別報告</p> <p>④ 新入生オリエンテーション(案)</p> <p>⑤ 在校生ガイダンス(案)</p> <p>⑥ オフィスアワーの調査と学生周知等</p>
実施内容と結果	<p>1 教育課程に関する事項</p> <p>1-1 看護学科の科目の開講時期の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果を高める理由により、「看護の基本技術論」を1年次前期から1年次通年に変更した。</li> <li>・「形態機能学Ⅱ」を1年次後期から1年次通年に変更した。</li> </ul> <p>2 定期試験およびその他の試験に関する事項</p> <p>2-1 定期試験実施要項の一部変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月の診療放射線学科の開設に伴い、両学科に対応するかたちで定期試験実施要項の一部を変更した。</li> <li>・両学科に適応する定期試験時間割の作成をした。</li> </ul>

<p>実施内容と結果</p>	<p>2-2 再試験結果の掲示中止について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再試験の結果は、学生のプライバシー保護の目的で、掲示を中止した。試験結果は、成績表と、科目責任者の責任下で対応するとした。</li> </ul> <p>3 授業計画および実施、授業担当者に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定されていた授業担当者の一身上の都合により、一部科目の担当者の変更があった。</li> </ul> <p>4 成績評価、単位認定、進級および卒業に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、進級要件に沿い、判定された結果、進級可能者、留年者、仮進級対象者が判定された。</li> </ul> <p>5 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項</p> <p>5-1 休学、退学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科は、各学年に休学者と退学者が数人存在した。休学、退学等に関しては、学生担当教員が面談し、教務委員会で検討後、教授会で最終決定し、手続きを実施した。</li> <li>・休学から退学に移行する場合、学生担当教員の事前面談と手続きの時期を周知する必要があった。</li> </ul> <p>6 教育施設および教材に関する事項</p> <p>6-1 教務委員会等の予算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度年間教材等全体予算と次年度予算を検討した。</li> <li>・平成27年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱および予算と次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱</li> <li>・変更を各学科で予算化した。</li> <li>・次年度教育施設等全体予算を検討した。</li> </ul> <p>6-2 初年度教育の教材・手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度教育に関する教材・手引書を作成し、『学修ハンドブック』として、全学生に配布する予定とした。</li> </ul> <p>7 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事項なし</li> </ul> <p>8 学生便覧、講義要綱に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスハンドブックの見直し</li> <li>・シラバスの見直し</li> </ul> <p>9 その他教務に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修規程の見直しと改正を実施した。</li> <li>・学部として、医療者としての情報管理指針を共有化した。</li> <li>・保護者懇談会（4月・10月）の教務事項説明を実施した。 ※教務事項等の報告者（教務委員長）、学科別報告の区分</li> <li>・新入生オリエンテーション（案）の見直しと実施</li> <li>・在校生ガイダンス（案）時期についての見直し</li> <li>・オフィスアワーの調査と学生周知等</li> </ul>
----------------	---

<p>次年度への課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期試験に代わる臨時試験の早期の告知を徹底するために、試験要項に追加する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目ガイダンス時の定期試験期間外の告知</li> <li>・試験開始1ヵ月前迄の告知の実施</li> <li>・臨地実習の1週間前は、教育的効果を認める以外の試験は避ける。</li> </ul> </li> <li>2 休学、退学手続きについての手続き時期を徹底する。</li> <li>3 毎年の学科新設に伴い、学部全体に沿った履修規程の見直しや改正が求められてきた。学生に不利益にならない公正・公平な履修規程を検討する必要がある。</li> <li>4 追実習に関して、各学科で異なる実習形態を考慮した申し合わせ事項を決定する。</li> <li>5 4月、10月の保護者懇談会の教務事項（学科と学部での説明内容の区別）の内容の再検討が必要である。</li> <li>6 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項は、履修規程等を厳守するように、周知する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学中の学生を担当する学生担当教員は、履修規程等に沿い、学生面談（必要時の保護者面談等含む）をし、教務委員会・教授会、事務手続きの時期を考慮した対応ができるように周知することが必要である。</li> </ul> </li> </ol>
-----------------	--

平成26年度 学生委員会活動報告書

<p>平成26年度 事業計画</p>	<p>1 学生委員会の通常業務（キャンパスの環境整備と学生生活に関する情報提供、情報発信、交流事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの保安に関する整備</li> <li>・キャンパスの環境整備と学生の居場所作り</li> <li>・学生への学生生活に向けた情報提供</li> <li>・学生のメンタルヘルスに関する支援事業</li> <li>・生活指導</li> <li>・学生の生活ニーズに関する情報収集</li> </ul> <p>2 学生委員会主催事業（生活指導や人間力の向上の啓発事業）</p> <p>平成26年度</p> <p>4月 学生生活関連啓発講座の実施</p> <p>5月 安心・安全週間の開催</p> <p>10月 命を学ぶ週間の開催</p> <p>1月 学生委員会セミナー</p> <p>3月 第1回 春期休暇中スタディ・バスツアー</p> <p>3 学友会創設の支援と事業開催の支援</p> <p>平成26年度</p> <p>4月 第1回 新入生歓迎会・第1代学友会会長選挙</p> <p>9月 第1回 日医祭の実施</p> <p>10月 第1回 体育大会</p> <p>1月 第2代 学友会会長選挙・臨時総会</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項</p> <p>5 奨学金に関する事項</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項</p>
<p>実施内容と結果</p>	<p>1 学生委員会の通常業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生委員会を14回実施</li> <li>・学内での事故、紛失物（盗難の疑いが濃いもの）の発生を受けて、キャンパスの保安向上に関する検討を重ねる。</li> <li>・環境整備と学生の居場所作りとして玄関前のプランターによるWELCOMEの花文字を学生ボランティアとともに設置。また、教員の読み終わった図書を無料で提示する自由文庫を食堂に設置した。</li> <li>・キャンパスの学生活動を広報するためのニュースレター「あずまし」の発刊（1号から6号発刊）</li> <li>・学生に「学生委員会からのお知らせ」2014-1から5までを配布</li> <li>・「学生相談室だより」第1号から2号の配布</li> <li>・生活指導としては、夏期、冬期、春期休暇前の過ごし方に関する注意喚起を実施</li> <li>・第1回学生の満足度調査を平成26年5月に実施</li> </ul>



<p>実施内容と結果</p>	<p>・9月25日「学生相談室」開室  相談員 臨床心理士 山田愛子氏  週1回 木曜日 利用時間 12時00分～17時00分</p> <p>2 学生委員会主催事業（生活指導や人間力の向上の啓発事業）  安心・安全週間の実施</p> <p>6月21～27日 一気飲み禁止、くすり、飲酒喫煙等の啓発ポスター展  6月20日 デートDVについて  本学教員 林美枝子教授  <u>参加学生 65人</u></p> <p>6月24日 安心安全講話  「若者を狙う犯罪、被害者にも加害者にもならないために」  北海道警察本部警務部警務課  犯罪被害者支援室 室長 秦耕樹氏  <u>参加学生 63人</u></p> <p>「命」を学ぶイベント  7月第2週 第1回「いのちのパネル展」  7月19日 特別講演「命」  旭山動物園園長 坂東元氏  <u>参加者109人（学生39人）</u></p> <p>「世界と日本 人間力を高めるための一週間」  12月10日～16日 ユニセフ活動パネル展示  12月16日 講演会  「世界の子供たちとユニセフ活動」  北海道ユニセフ協会相談役 重原祐治氏  <u>参加学生 46人</u></p> <p>12月16日 「AEDの取扱いについての説明会」事務局  学生委員会セミナー</p> <p>平成27年  1月29日  「喫煙・飲酒に関する注意喚起」学生委員会  「携帯ローンや通信料の支払いが滞ったら…その後の人生を左右する怖いお話」  SMBCコンシューマーファイナンス 村上知代氏  <u>参加学生 62人</u></p> <p>3月5日 第1回 春期休暇中スタディ・バスツアー  独立行政法人国際協力機構 JICA北海道  「JICAとは」JICA職員による説明  <u>参加教員・学生11人</u></p> <p>3 学友会設立と活動支援事業  平成26年  4月28日 第1回新入生歓迎会実施  ・会長立候補者の立会演説会と選挙</p>
----------------	--

<p>実施内容と結果</p>	<p style="text-align: center;">第1代学友会会長 看護学科1年 難波直喜さん 学友会定期総会実施</p> <p style="text-align: right;"><u>参加学生 82人</u></p> <p>9月6日 第1回日医祭開催 模擬店は4団体が参加。作品展示1件</p> <p>10月1日 第1回体育大会 体育館 クラス対抗方式の選抜選手によるバレーボール、ドッチボール、ソフトバレーボール、スプーンリレー 参加学生80人</p> <p>平成27年</p> <p>1月22日 学友会臨時総会 ・会長立候補の立会演説会と選挙 第2代学友会会長 看護学科1年 静谷遼真さん ・新会長の承認・学友会則の改正について</p> <p>学内団体活動 学内団体設立申請とその審査、承認を行い5月末申請で7団体が設立された。 ボランティア部、スポンティアサークル、漫画・イラスト研究部、茶道サークル、演劇サークル、バトミントンサークル、バレーボールサークル 備品購入に関して茶道サークルでは専門学校の茶道具を譲り受け、ノテ福祉会の施設内茶室を利用させていただくこととなった。 平成27年3月末に各学内団体の活動報告書の回収。</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項 日本医療大学年度別学生顕彰の対象学生選抜を実施。成績上位10%の成績優秀学生8名を顕彰することとなったが社会貢献での顕彰対象学生・団体はいなかった。 (平成27年4月7日、顕彰賞状授与式挙行)</p> <p>5 奨学金に関する事項 年間を通して各種奨学金の募集情報の提供、授与学生の選抜等を実施した。</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項 ユニセフ協会に関連する学友会、学内団体の共同事業の支援。 平成26年9月5日 第1回日医祭での募金活動 ユニセフ協会から感謝状を頂く JICA北海道を訪問、施設の見学を実施。スタッフと交流会を開いた。</p>
<p>次年度への課題等</p>	<p>1 学生委員会の通常業務 1-1 開学初年度であるため、学生委員会の通常業務の計画立案を最初の一步から行った。それぞれの前任校、あるいは近隣大学の学生部、学生委員会の年間業務、行事等の情報収集を行って計画を練ったが、本学のオリジナリティはあまり盛り込むことができなかった。</p>

<p>次年度への課題等</p>	<p>1 学生委員会の通常業務</p> <p>1-1 開学初年度であるため、学生委員会の通常業務の計画立案を最初の一步から行った。それぞれの前任校、あるいは近隣大学の学生部、学生委員会の年間業務、行事等の情報収集を行って計画を練ったが、本学のオリジナリティはあまり盛り込むことができなかった。</p> <p>1-2 学生に対する情報提供はニュースレター「あずまし」とお知らせを通して行ったが、学生一人ひとりへの情報の共有化には多くの課題が残った。</p> <p>1-3 学生のニーズ調査は順調に実施することができたが、結果が示唆した学生の様々な意見に十分な対策がとれず、特に通学のバスの利便性の向上には課題が残った。</p> <p>1-4 メンタルヘルスのための学生相談室の利用は12件。教員からの学生への対応に関する相談も8件寄せられた。学生数の増加や、キャンパスが2カ所になることを考えると、相談室の開室頻度や時間等への対応が必要である。</p> <p>2 学生委員会主催事業</p> <p>2-1 学生委員会主催事業は全て第1回目の実施を滞りなく終了することができたが、参加する学生としない学生の格差がめだち、一人でも多くの学生が関心を持つ事業への工夫が必要であろう。</p> <p>3 学友会創設の支援と事業開催の支援</p> <p>学友会の創設に関する支援は、開学初年度であったが滞りなく実施できた。学内団体サークルの設置、および活動の開始も順調に進んだ。</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項</p> <p>学長の希望で創設された日本医療大学年度別学生顕彰は入学後の学業の成果を讃える本学独自の制度である。次年度以降の継続が強く望まれる。</p> <p>5 奨学金に関する事項</p> <p>各種奨学金の募集、選抜、事務手続きは順調に実施できたが、重複貸与学生の発生が目立ち、返済計画を視野に入れた貸与への指導が必要かもしれない。</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項</p> <p>海外渡航に関しては長期休暇の前に注意喚起を行ったが、今年度の海外渡航の報告は1件であった。学生のアンケートからは海外研修の要望もあるため、来年度は是非姉妹校や学術交流協定校の締結を議論すべきであろう。</p>
-----------------	--

平成27年度 学生委員会活動報告書

<p>平成27年度 事業計画</p>	<p>1 学生委員会の通常業務（キャンパスの環境整備と学生生活に関する情報提供、情報発信、交流事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの保安向上に関する事項の検討</li> <li>・環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）</li> <li>・ニュースレター「あずまし」の発刊</li> <li>・「学生委員からのお知らせ」の配布</li> <li>・学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」の配布</li> <li>・学生相談室の運営と学生への広報</li> <li>・生活指導</li> <li>・学生の満足度調査の実施</li> </ul> <p>2 学生委員会主催事業（生活指導や人間力の向上の啓発事業）</p> <p>平成27年</p> <p>4月 学生生活関連啓発セミナーの実施</p> <p>5月 安心・安全週間の開催</p> <p>10月 命を学ぶ週間の開催</p> <p>3 学友会支援事業</p> <p>平成27年</p> <p>4月 新入生歓迎会・定期総会</p> <p>6月 第2回体育大会</p> <p>7月 第1回実習壮行会（ナーシングセレモニー）の実施</p> <p>9月 第2回日医祭の実施</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項</p> <p>5 奨学金に関する事項</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項</p>
<p>実施内容と結果</p>	<p>1 学生委員会の通常業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生委員会を11回実施</li> <li>・キャンパスの保安向上に関する検討を重ね、道警本部に相談をして、日ごろの見回り体制を事務局に整えてもらい、今後の経過でより踏み込んだ保安処置も検討することとした。また検討に当たって、学内での事故、紛失物(盗難の疑いが濃いもの)調査を実施、被害届に関する書式の整備を行う。</li> <li>・環境整備と学生の居場所作り（真栄キャンパス玄関前のガーデニングを実施、自由文庫を恵み野キャンパスにも設置した）</li> <li>・「あずまし」の発刊は（7号から9号）、3月末に10号の発刊を予定している。</li> <li>・学生に「学生委員会からのお知らせ」2015-1から7までを配布</li> <li>・恵み野キャンパスに学生相談室を設置、7月8日から開室</li> <li>・「学生相談室だより」第3号から7号の配布</li> <li>・生活指導としては、学内での私物の管理に関する指導やロッカー室の使用方法に関する注意喚起、および夏期、冬期、春期休暇前の過ごし方に関する注意喚起を実施</li> </ul>

<p>実施内容と結果</p>	<p>・第2回学生の満足度調査を平成27年5月に実施</p> <p>2 学生委員会主催事業(生活指導や人間力の向上の啓発事業)啓発セミナー</p> <p>4月「今年20歳になる学生のための年金セミナー」の実施</p> <p>安心・安全週間の実施</p> <p>真栄キャンパス</p> <p>5月11日～16日 防犯ポスター展</p> <p>講話1 11日(月)</p> <p>「若者を狙う犯罪、被害者にも加害者にもならないために」</p> <p>北海道警察本部警務部警務課</p> <p>犯罪被害者支援室 係長 成田麻知子氏</p> <p>講話2 11日(月)</p> <p>「デートDVとキャンパスハラスメント 親密な関係での人権侵害について」</p> <p>本学教員 林美枝子 教授</p> <p>恵み野キャンパス</p> <p>5月18日～23日 防犯ポスター展</p> <p>講話1 18日(月)</p> <p>「デートDVとキャンパスハラスメント 親密な関係での人権侵害について」</p> <p>本学教員 林美枝子 教授</p> <p>講話2 19日(火)</p> <p>「若者を狙う犯罪、被害者にも加害者にもならないために」</p> <p>北海道札幌方面千歳警察署交通第一課</p> <p>企画・規制係長 警部補 藤田稔氏</p> <p>「命」を学ぶイベント</p> <p>10月 第2回「いのちのパネル展」</p> <p>平成27年12月15日 第2回「命」の講演会実施 <u>参加学生 117人</u></p> <p>「命 遺体への死に化粧から見えるもの」</p> <p>死化粧師 田村麻由美氏</p> <p>学生委員会セミナーⅠ</p> <p>平成28年1月22日 <u>参加学生 64人</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ワーク・ルールを知って、ブラック・バイトから身を守る方法を身につけよう」</li> </ol> <p>札幌学生ユニオン共同代表 下郷沙季氏</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 「携帯ローンや通信料の支払いが滞ったら…その後の人生を左右する怖いお話」</li> </ol> <p>SMBCコンシューマーファイナンス</p> <p>村上知代氏・境龍介氏</p> <p>学生委員会セミナーⅡ</p> <p>平成28年1月26日恵み野キャンパス大教室 <u>参加学生 34人</u></p> <p>「資格取得後の挑戦と社会貢献について」</p> <p>北海道理学療法士会 理事 畑原理恵氏</p>
----------------	---

<p>実施内容と結果</p>	<p>平成28年2月4日真栄キャンパス <u>参加学生 66人</u>  「こころのケア」  こころのケア講座ファシリテーター 志堅原郁子氏  交流会の実施  新旧学友会本部会メンバーと学生委員の交流会の実施  平成28年2月18日 グリル妖精の丘  第2回 春期休暇中スタディ・バスツアー  平成28年3月10日 <u>参加学生 14人</u>  札幌市民防災センター  「まず自分を守る!! それから人を助ける」  市民防災センター長 細川雅彦氏  独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道  「JICAとは」JICA 職員による説明  「医療関係者としてベトナムに派遣されて」  札幌医科大学 相馬深輝氏</p> <p>3 学友会支援事業  平成27年4月27日 第2回新入生歓迎会実施  学友会定期総会実施  ・事業報告と決算・予算決議、事業計画  <u>参加学生 219人</u></p> <p>6月6日 第2回体育大会  北海道立総合体育センター（北海きたえーる）サブアリーナ  （25人の8チームに分かれてバレーボールドッジボール、フットサル、  障害物競走、長縄の5種競技を実施） <u>参加学生 201人</u>  7月6日 第1回ナーシングセレモニー「平成27年の誓い」実施  9月4,5日 第2回日医祭開催  参加者は200人程度（葉の配布人数）、案内の葉書を持参した高校3年  生の参加は9人</p> <p>平成28年1月22日 学友会臨時総会  ・会長立候補の立会演説会と選挙  第3代学友会会長 看護学科1年 津坂夏美さん  ・劇団アンデルセン講演会DVD鑑賞  ・新会長の承認・学友会則の改正について</p> <p>学内団体設立申請とその審査、承認を行い5月末申請で3団体、9月末申請  で2団体が新たに活動を開始した。平成27年度は12団体が活動を行った。  平成28年3月末に各学内団体の活動報告書の回収。</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項  日本医療大学年度別学生顕彰の対象学生選抜を実施。成績上位10%の成  績優秀学生8人を顕彰することとなったが社会貢献での顕彰対象学生・団  体はいなかった。平成27年4月7日、顕彰賞状授与式挙行。</p>
----------------	--

実施内容と結果	<p>5 奨学金に関する事項 年間を通して各種奨学金の募集情報の提供、授与学生の選抜等を実施した。</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項 ユニセフ協会に関連する学友会、学内団体の共同事業の支援。 平成27年5月 日本医療大学ネパール募金活動 平成27年9月5日 第2回日医祭での募金活動 ユニセフ協会から感謝状を頂く</p> <p>JICA北海道を訪問し、スタッフと交流会を開き日本の海外援助に関する説明や医療関係者の海外派遣に関する体験談を傾聴し国際的視野の涵養に尽くした。</p>
次年度への課題等	<p>1 学生委員会の通常業務</p> <p>1-1 学生委員会の通常業務は多岐にわたり、担当教員の職務分担があいまいであるため、次年度は担当者を決めて実施したい。</p> <p>1-2 学生に対する情報提供はニュースレターとお知らせであるが、さらに別の方法も工夫し「知らなかった」「見ていなかった」という学生を出さないようにしたい。</p> <p>1-3 キャンパスの環境整備は平行措置を心がけているが、2つのキャンパス環境における格差の是正にはまだまだ努力と時間を必要とする。</p> <p>2 学生委員会主催事業</p> <p>2-1 学生委員会主催事業は全て第2回目の実施を滞りなく終了することができたが、学生の動員力は弱く、外部講師に対する聴講マナーも必ずしも良いものではなかった。</p> <p>3 学友会創設の支援と事業開催の支援</p> <p>3-1 学友会支援事業も滞りなく実施できたが、むしろ介入の度合いがが深すぎた場面もあった。学生の自治組織であるため、教職員のサポートを控え、学生達の自助力を高めるよう指導すべきであろう。</p> <p>4 学生の賞罰に関する事項 社会貢献賞の対象となるよう、個人、団体の社会活動支援の充実が必要である。</p> <p>5 奨学金に関する事項 各種奨学金の募集、選抜、事務手続きは順調に実施できたが、貸与学生に関する将来の返済に関する情報提供や留意事項の研修会のようなものも必要であったと思われる。</p> <p>6 国際交流、海外研修に関する事項 海外渡航に関しては長期休暇の前に注意喚起を行ってきたが、海外研修に関する情報収集にとどまり、制度として提言できるような話し合いには至らなかった。学生委員会では国際交流や海外研修に関する事業は、むしろ国際交流委員会のような組織を作って、そこが担うべきではないかという意見が出た。</p>

平成26年度 入試広報委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	<p>1 平成27年度入学試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開学後初めての入学試験の実施にあたり、試験ごとに実施要項等を作成する。</li> </ul> <p>2 受験生の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生確保のため、オープンキャンパスの開催、進学相談会や高校訪問を積極的に実施する。</li> <li>・社会貢献の観点からも、高大連携事業として一日学生体験や出前講義を実施する。</li> </ul>
実施内容と結果	<p>1-1 学生募集要項の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション学科の開設に伴い、「看護学科募集要項」と別途「リハビリテーション学科募集要項」を作成した。</li> </ul> <p>1-2 入学試験実施要項等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学区分の試験ごとに「入学試験実施要項」「試験監督実施要領」「面接マニュアル」を作成し、入学試験の円滑な実施を図った。</li> </ul> <p>1-3 入学試験の実施・推薦入試、一般入試前期、一般入試後期を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション学科において定員充足の目的で特別入試を計画し実施した。</li> </ul> <p>2-1 オープンキャンパスの企画および実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定通り4回開催した。</li> <li>・参加者総数は看護学科263人であり、参加者の評価は概ね好意的であった。</li> </ul> <p>2-2 相談会、高校訪問、出前講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学相談会は教員の参加を含め、71会場、面談者676人であった。</li> <li>・高校訪問についてはⅠ～Ⅲ期に分け、Ⅰ期は全道の実績校106校、Ⅱ期は全道重点校84校（教員同行は8校）、Ⅲ期は石狩近郊の重点校45校を訪問し、進路指導担当教諭等と面談した。</li> <li>・出前講義は、4校を対象に開催した。</li> </ul> <p>2-3 一日学生体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科において、学内講義としてはプレインターンシップ、一日学生体験を1回実施し、16人の参加があった。</li> <li>・いずれの企画においても、参加した高校生から非常に良い評価を得た。</li> </ul>
次年度への課題等	<p>1 面接試験における評価基準の検討および作成が課題である。</p> <p>2 看護学科およびリハビリテーション学科の出願者増加を目指し、受験生確保のあり方を検討する必要がある。</p>

平成27年度 入試広報委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<p>1 平成28年度入学試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開学2年目を迎え、入試日程の固定化、面接試験評価基準の設定について検討する。</li> </ul>
-------------	--



平成27年度 事業計画	<p>2 受験生の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生確保のため、オープンキャンパスの開催、進学相談会や高校訪問を積極的に実施する。</li> <li>・社会貢献の観点からも、高大連携事業として一日学生体験や出前講義を実施する。</li> </ul>
実施内容と結果	<p>1-1 学生募集要項の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療放射線学科の開設に伴い、「看護学科・リハビリテーション学科募集要項」と別途「診療放射線学科募集要項」を作成した。</li> </ul> <p>1-2 入試日程の固定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道内私立保健医療学系大学の入試日程を勘案し、本学においては、推薦入試を11月第2土曜日、一般入試前期を2月2日、一般入試後期を3月7日とした。</li> </ul> <p>1-3 面接試験評価基準の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接委員経験者に対し聞き取り調査を実施し、「A」「B」「C」「D」それぞれの評価基準を作成した。</li> </ul> <p>1-4 入学試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定通り、推薦入試、一般入試前期、一般入試後期を実施した。</li> <li>・一般入試前期において、インフルエンザ罹患の受験生が1名認められたが、別室試験室を開設し、特に支障なく実施できた。</li> </ul> <p>2-1 オープンキャンパスの企画および実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真栄キャンパスおよび恵み野キャンパスそれぞれで4回開催した。</li> <li>・参加者総数は看護学科269人、リハビリテーション学科152人、開設準備の一環として実施した診療放射線学科111人であり、参加者の評価は概ね好意的であった。</li> </ul> <p>2-2 相談会、高校訪問、出前講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学相談会は教員の参加を含め、58会場、面談者739人であった。</li> <li>・高校訪問についてはⅠ～Ⅲ期に分け、Ⅰ期は全道の実績校106校、Ⅱ期は全道重点校58校（教員同行は21校）、Ⅲ期は石狩近郊の重点校33校を訪問し、進路指導担当教諭等と面談した。</li> <li>・出前講義は、27箇所409人を対象に開催した。</li> <li>・リハビリテーション学科定員充足のため、一般入試前期を控えた11月28日に入試説明会を開催した。</li> </ul> <p>2-3 一日学生体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内講義としてはプレインターンシップ、一日学生体験を10回実施し、322人の参加があった。</li> <li>・リハビリテーション学科においては、オープンキャンパス参加者を対象に開催を案内し、3月26日に実施し13人の参加があった。</li> <li>・いずれの企画においても、参加した高校生から非常に良い評価を得た。</li> </ul>
次年度への課題等	<p>1 各入学試験について、合否判定基準の作成が今後の課題である。</p> <p>2 リハビリテーション学科作業療法学専攻の定員充足はもとより、看護学科・診療放射線学科の出願者増加を目指し、受験生確保のあり方を検討する必要がある。</p>

平成27年度 自己点検・評価委員会

平成27年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織運営の改善に向けて、自己点検・評価の実施、人事考課の見直しを行う。</li> <li>2 組織運営の見直しとして、PDCAサイクルを実施する。</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 大学認証評価機関について <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の規模や特性から「公益財団法人日本高等教育評価機構」とすることに決定した。</li> </ul> </li> <li>1-2 大学認証評価機関への加盟について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公益財団法人日本高等教育評価機構」への加盟は、平成28年度当初に行うこととした。</li> </ul> </li> <li>1-3 認証評価受審の時期について <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学完成年次の行事予定を鑑み、検討する。</li> </ul> </li> <li>1-4 教員の自己点検・評価について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の自己点検評価表を作成し、平成28年度自己目標の記載を平成28年2月に学長名で全教員に依頼した。</li> </ul> </li> <li>2-1 年報について <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価規程第2条第3項に則り、報告書を作成することとし、その名称を「日本医療大学年報」とした。</li> <li>・年報の目次について検討し、「公益財団法人日本高等教育評価」の評価基準に沿ったものとした。</li> </ul> </li> <li>2-2 平成27年度日本医療大学事業計画の実施状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度日本医療大学事業計画の実施状況把握のため、学長名で関連部署、担当委員会に活動報告の依頼をした。</li> </ul> </li> </ol>
次年度への課題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学認証評価機関「公益社団法人日本高等教育評価機構」に加盟と受審時期の決定</li> <li>2 平成27年度日本医療大学年報（以下、「年報」という。）の編纂</li> <li>3 組織運営の見直しとして、PDCAサイクルの実施</li> </ol>

### 平成26年度 研究倫理委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	1 研究倫理委員会規程の見直し、申請の手引き、様式等を新規に規定 2 研究倫理審査活動
実施内容と結果	1-1 規程、様式等を新たに作成 研究倫理委員会規程、研究倫理審査申請様式、研究倫理審査申請の手引きを平成26年8月27日制定 2-1 研究倫理審査状況 年8回委員会を開催 通常審査：6件（条件付再確認5件を含む。）全て承認
次年度への課題等	研究倫理教育の実施

### 平成27年度 研究倫理委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	1 研究倫理審査活動 2 北海道合同倫理研修会への参加 3 研究倫理委員会規程、申請の手引き、様式の追加・変更 4 研究倫理に関する教員研修会（FD委員会との共催） 5 研究倫理講習 受講名簿の作成 6 厚生労働省 研究倫理審査委員会報告システム情報公開
実施内容と結果	1-1 研究倫理審査活動 年8回委員会を開催、通常審査：11件（条件付再確認3件を含む）、迅速審査：11件 全て承認 2-1 北海道合同倫理研修会への参加 札幌医科大学 「平成27年度札幌医科大学学術振興助成事業 北海道地区医学医療系大学倫理委員合同研修会」：平成27年6月19日開催 3-1 研究倫理委員会規程、申請の手引き、様式の追加・変更 研究倫理委員会規程、研究倫理審査申請様式、研究倫理迅速審査意見書、研究倫理審査申請の手引きの改正 第8回教授会（平成27年7月17日）にて改正 4-1 研究倫理に関する教員研修会（FD委員会との共催） 真栄キャンパスにて 講師：札幌医科大学医学部医科知的財産管理学教授 石埜 正穂氏 平成27年8月26日開催 研究倫理講習会受講証明書発行（日本医療大学教員34/34人） 5-1 研究倫理講習 受講名簿の作成 日本医療大学教員34/34人 平成27年9月作成 6-1 厚生労働省 研究倫理審査委員会報告システム情報公開 日本医療大学研究倫理委員会委員名簿、手順書（研究倫理委員会規程、研究倫理審査申請様式、研究倫理審査申請の手引き）平成27年9月25日公表

次年度への課題等	研究倫理教育の実施による研究者（教員）倫理の向上 平成28度は「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を受けて、以下の内容にて開催予定 ・研究倫理とは何か ・研究倫理教育の必要性 ・社会の中で研究者が果たすべき役割等
----------	---

平成27年度 人権擁護委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャンパス・ハラスメントが発生した場合の防止委員会から学長に提案される対応策の妥当性審議と再調査の話し合い</li> <li>2 人権侵害が発生した場合の調査委員会設置と解決策の提示</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャンパス・ハラスメントが発生したという報告がなかったため、防止委員会から学長に対応策が提示されることもなく、本委員会でのその妥当性の審議と再調査の話し合いがもたれることもなかった。</li> <li>2 人権侵害の発生も報告もなく、調査委員会設置や解決策の提示が行われることもなかった。</li> </ol>
次年度への課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度の会議で人権擁護委員会はキャンパス・ハラスメントを防止する委員会が学内に設置されていないこと、相談窓口がないこと、既存の「ハラスメントの防止等に関する規程」との兼ね合いで「人権擁護委員会規程」の改正が必要であること、規程上顧問弁護士に委員就任の依頼を行う必要があることなどを話し合い、学長にその結果を伝えた。</li> <li>・学内における委員会整備の状況に応じ、順次これらの案件は取り組むこととなり、その後本委員会は開催されなかった。</li> <li>・平成26年3月に「ハラスメント防止委員会」が発足し、キャンパスハンドブックにハラスメント相談と支援の流れが掲載されるようになった。しかし翌月には次年度の委員会が組織され、「ハラスメント防止委員会」に関する規定と「人権擁護に関する規程」のすり合わせの必要性から、両委員長による話し合いの場が持たれた。被害の発生も報告がなかったことから人権擁護委員会は開催されることがなかったが、次年度は事が起こってからの対応とするだけでなく、人権擁護に資する規程の見直しや課題の洗い出し、対応に関するシステムの確認、被害が発生した場合のシミュレーション等に取り組むべきである。</li> </ul>

## 平成26年度 研究費審査委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成26年度研究費配当額の算定</li> <li>2 平成26年度研究費の公募・申請・執行</li> <li>3 平成26年度研究活動報告</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 平成26年度研究費配当額を算定            学術助成費、教育向上研究費の配当額を算定（300万円）</li> <li>2-1 平成26年度研究費申請状況（学科別）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科                学術助成費（1件）、教育向上研究費（3件）                教授（2人）、准教授（1人）、助教（1人）</li> </ul> </li> <li>3-1 平成26年度研究活動の報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科                学術助成費（1件）、教育向上研究費（3件）</li> </ul> </li> </ol>
次年度への課題等	研究費申請マニュアルおよび様式等の整備

## 平成27年度 研究費審査委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究費申請マニュアルおよび様式等の整備</li> <li>2 平成27年度研究費基準配当額の算定（600万円）</li> <li>3 平成27年度研究費の公募・申請・執行</li> <li>4 平成27年度研究活動報告</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 マニュアルおよび様式等を整備            手順書、申請様式、支出要領等を整備</li> <li>2-1 平成27年度の研究費基準配当額を算定            学術助成費、教育向上研究費の基準配当額を職位別に算定</li> <li>3-1 平成27年度研究費申請状況（学科別）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科                学術助成費（6件）、教育向上研究費（4件）                教授（5人）、准教授（6人）、講師（6人）、                助教（1人）、助手（3人）</li> <li>・リハビリテーション学科申請状況                学術助成費（7件）、教育向上研究費（1件）                教授（5人）、准教授（0人）、講師（2人）、                助教（1人）、助手（0人）</li> </ul> </li> <li>4-1 平成27年度研究活動の報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科                学術助成費（6件）、教育向上研究費（4件）</li> <li>・リハビリテーション学科                学術助成費（7件）、教育向上研究費（1件）</li> </ul> </li> </ol>
次年度への課題等	原則として競争的資金の公募に応募していない教員は学内研究費の配分は無しとする基本原則は守る必要がある。

平成26年度 図書・学術振興委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成26年度図書購入</li> <li>2 平成26年度公開講座の実施</li> <li>3 紀要投稿規程等の作成</li> <li>4 紀要第1巻の発刊</li> <li>5 第1回保健医療学部研究発表会の開催</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 平成26年度看護学科図書購入状況 和書（186冊）、視聴覚資料（16点）</li> <li>2-1 平成26年度市民に向けた公開講座を実施 テーマ：「いつまでも美味しく食べたい！」を可能にする口腔内の観察とケアのポイント 講師：九州歯科大学副学長、附属病院長 柿木 保明教授氏 平成26年11月23日開催 かでの2・7 大ホール 受講者120人</li> <li>3-1 投稿規程、執筆要領を作成 平成26年10月1日制定</li> <li>4-1 紀要第1巻を創刊 総説（1篇）、原著論文（3篇）、資料・研究ノート（4篇） 平成26年3月31日発刊</li> <li>5-1 第1回保健医療学部研究発表会を開催 平成26年3月31日開催 発表者：看護学科教員18人</li> </ol>
次年度への課題等	データベース（CINAHL）の導入検討

平成27年度 図書・学術振興委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成27年度図書購入</li> <li>2 平成27年度公開講座の実施</li> <li>3 恵み野キャンパス図書館の職員配置</li> <li>4 紀要投稿規程の変更</li> <li>5 紀要第2巻の発刊</li> <li>6 第2回保健医療学部研究発表会の開催</li> <li>7 競争的資金等の不正防止関連の規程等の整備</li> </ol>
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 平成27年度看護学科図書購入状況 和書（286冊）、洋書（3冊）、視聴覚（36点）、和雑誌（54冊）、洋雑誌（9冊）</li> <li>1-2 平成27年度リハビリテーション学科図書購入状況 和書（151冊）、洋書（1冊）、和雑誌（8冊）</li> <li>2-1 平成27年度公開講座を実施 テーマ：「医療系大学における専門職連携教育」 講師：埼玉県立大学学長 三浦 宜彦氏 平成27年10月31日開催 自治労会館 受講者：120人</li> </ol>

<p>実施内容と結果</p>	<p>3-1 恵み野キャンパス図書館の職員配置  雇用期間：平成27年12月7日～平成28年3月29日  臨時職員</p> <p>4-1 紀要投稿規程を変更  紀要の分類方法を一部変更、執筆要領の一部変更</p> <p>5-1 紀要第2巻を発刊  総説（1篇）、研究報告（1篇）、資料（4篇）、短報（3篇）  平成27年3月31日発刊</p> <p>6-1 第2回保健医療学部研究発表会を開催  平成27年3月30日開催  発表者：看護学科4人、リハビリテーション学科1人、認知症研究所1人の計6人の教員が発表</p> <p>7-1 競争的資金等の不正防止関連の規程等を整備  競争的資金等の不正防止関連の規程等を作成  平成28年2月10日制定に伴い、不正調査委員会を設ける</p>
<p>次年度への課題等</p>	<p>恵み野キャンパス図書館の職員の雇用  競争的資金に係る間接経費の取り扱い方針の作成  間接経費の収支報告</p>



平成27年度 就職・進路対策委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	1 看護学科は、2年次学生に向けての国家試験模試、キャリアプラン講習会の実施、「キャリアハンドブック」作成に向け検討を進める。
実施内容と結果	<p>1-1 国家試験模試 看護学科2年生に対し、国家試験模試を2回実施した。模試の結果を受けて、4割の学生に自ら国家試験対策に取り組む姿勢がみられ学修の動機付けとなった。</p> <p>1-2 キャリアプラン講習会の実施 「専門看護師・認定看護師の活動」と題し、若手看護師を起用したキャリアプラン講習会を実施した。身近な存在として専門職の活動を知り、将来の自分のキャリアを考える機会となった。</p> <p>1-3 「キャリアハンドブック」作成 「就職ガイドブック」の作成に取り組み、今年度末に完成した。今後、看護学科3年生の就職支援に活用する予定である。</p>
次年度への課題等	<p>1 リハビリテーション学科、診療放射線学科は看護学科と就職及び国家試験対策が伝統的に異なるので、委員会としては各学科と3学科全体の事業計画及び活動計画のバランスをとっていくことが必要である。</p> <p>2 リハビリテーション学科と診療放射線学科は、看護学科と同様に、それぞれの学科の特性に基づいた4年間の年次計画を作成することが必要である。</p> <p>3 看護学科は4年間の年次計画に基づき3年次までの国試模試、キャリア教育、就職ガイドブック活用を実施すること、就職ガイドブックの改訂を検討することが必要である。</p> <p>4 リハビリテーション学科は2年次までの国試模試、キャリア教育を行うことが必要である。</p> <p>5 診療放射線学科は1年次の放射線取扱主任者試験対策(国試とは異なる)を行うことが必要である。</p>

平成26年度 FD委員会活動報告書

<p>平成26年度 事業計画</p>	<p>FD委員会は教育課程・体制の開発向上および教員の教育方法の向上等のための業務を行うことを役割とするものである。</p> <p>具体的には次の5点である。</p> <p>① 教育課程・体制の点検・評価および改善方法の計画に関する事項</p> <p>② 講義および演習・実習に対する学生の授業評価項目の改善ならびに実施方法の計画に関する事項</p> <p>③ 授業法の開発と改善に対する具体的計画に関する事項</p> <p>④ 教員研修プログラムの開発および研修方法の計画に関する事項</p> <p>⑤ その他本学におけるFDに関する事項</p> <p>以下、FD委員会の役割にそって、平成26年度実施内容と結果を報告する。</p>
<p>実施内容と結果</p>	<p>1 学生による授業評価アンケートの実施</p> <p>上記②に関するものとして、学生による授業評価アンケート（講義・演習科目）（案）を作成し、学科会議、教授会で審議したのち、現行のものを作成した。各前期科目の最終回および各後期科目、各通年科目の最終回に実施した。対象は前期20科目、後期19科目であった。実施方法は科目担当教員が授業科目名、科目コードを黒板に示し、アンケート用紙を配付し、学生が記入した。回答後は事務職員が回収した。</p> <p>集計は3社の見積もりを得たのち、リスモン・マッスル・データ株式会社に委託した。</p> <p>結果は、全科目集計表、必修―選択科目集計表、基礎教育―専門基礎教育―専門教育科目ごとの集計表とそれらのグラフを図書館に掲示した。個々の科目の集計結果と自由記述部分は科目担当者に郵送またはボックスに配布した。</p> <p>前期の集計結果は全科目平均が3.80、必修&lt;選択、演習&lt;講義、専門基礎教育&lt;基礎教育&lt;専門教育であった。後期は全科目平均が3.98、選択&lt;必修、講義&lt;演習、専門基礎教育&lt;基礎教育&lt;専門教育であった。前期と後期で違いが見られたのは必修―選択科目、講義―演習科目である。後期の選択科目については多くの学生が不得手とする一科目の影響が全体に及んだと思われる。また、後期の演習科目は看護に直結したものが多く、評価が高かったと考えられる。</p> <p>年度末に全体の結果をホームページ上に公開する予定だったが、ホームページリニューアル中のため、改訂後に掲載の予定である。</p> <p>2 教員研修会</p> <p>上記①と④に関するものとして、看護学科の現行のカリキュラムについて共通認識を深め、また、4年後のカリキュラム改訂を見据え、現行のカリキュラム構成と、具体的な到達目標について理解することを目的にカリキュラム検討会と共同で教員研修会を企画した。</p> <p>① プレ研修会:研修会実施に先立ち、7月16日（水）の看護学科会議前に、カリキュラム作成に関わった荻野名誉学院長から現行のカリキュラムについての説明を受けた。</p>

	<p>② 教員研修会：8月8日（金）13：30～15：30、本学301講義室にて、参加17名の教員を3グループに分け、カリキュラム検討会作成のマッピングを基に構成要素、タイトル、内容、およびカリキュラム軸（垂直軸、水平軸）の検討を行った。</p> <p>参加者へのアンケート結果は4種の質問に対し、5段階評価で3.3～4.3であり、研修内容についての評価は得られたが、時期、場所、所要時間については再考の余地があった。</p> <p>3 講演会</p> <p>上記③に関するものとして講演会を企画した。候補者としてオープンエデュケーションに関わる先進的な活動を行う北海道大学情報基盤センター准教授の重田勝介氏を検討した。</p> <p>7月3日、4日に札幌で開催されたMOOCに関するワークショップにFD委員が参加し、重田氏とコンタクトを取り、内諾を得た。</p> <p>10月23日（木）16：30～18：00、本学301講義室にて「オープンエデュケーションと未来の学び」の講演をいただいた。本学および専門学校教員、学生、近隣大学関係者に呼びかけ、専門学校教員と学生を含む25人の参加があった。</p> <p>参加者へのアンケートの結果は5種の質問に対し、5段階評価で4以上の数値が得られ、良好であった。</p>
次年度への課題等	<p>大学開学初年度であり、蓄積がない中で、FD委員会として①～④の役割を概ね果たすことができたが、課題も残った。</p> <p>① 授業評価アンケート（実習用）（案）については次年度要検討。特に学科共通で実施できるものを目指したい。</p> <p>② 集計会社への委託については限られた予算の中でのより効率のよい集計方法が求められる。</p> <p>③ 教員研修会で実施したカリキュラムの理解については一定程度の成果があり、その後、カリキュラム検討会がカリキュラム構成軸、構成要素、内容等を作成し、ほぼ完成したが、4年後のカリキュラム改変に向け、参加者からは同じ内容でより深めたい希望や、新たに教育評価について学修したい要望が出た。</p> <p>④ 講演会については、先進的な教育スタイルの講演が評価されたことから、引き続き本学の教育の充実につながるテーマの選択を考えたい。</p> <p>⑤ 今後は、複数学科で活動計画を立案することから、両学科の要望をできるだけ兼ね備えたものを目指す必要がある。</p>

#### 平成27年度 FD委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	<p>FD委員会は教育課程・体制の開発向上および教員の教育方法の向上等のための業務を行うことを役割とするものである。</p> <p>具体的には次の5点である。</p> <p>① 教育課程・体制の点検・評価および改善方法の計画に関する事項</p>
-------------	--

平成27年度 事業計画	<p>② 講義および演習・実習に対する学生の授業評価項目の改善並びに実施方法の計画に関する事項</p> <p>③ 授業法の開発と改善に対する具体的計画に関する事項</p> <p>④ 教員研修プログラムの開発および研修方法の計画に関する事項</p> <p>⑤ その他本学におけるFDに関する事項</p> <p>以下、FD委員会の役割にそって、平成27年度実施内容と結果を報告する。</p>
実施内容と結果	<p>1 FD委員会の役割①教育課程関連：教員研修会でのカリキュラム検討（平成26年度実施）</p> <p>教育課程に関する事項については、平成26年度に看護学科の現行のカリキュラムについて共通認識を深め、また、4年後のカリキュラム改訂を見据え、現行のカリキュラム構成と、具体的な到達目標について理解することを目的にカリキュラム検討会と共同で教員研修会を企画した。実施の結果、垂直軸・水平軸に沿ったカリキュラムに関する理解が深まり、次期改訂に向けた動機付けが高まったと予想される。</p> <p>平成27年度は教育課程・体制等に関わる内容の事業は実施していない。</p> <p>2 FD委員会の役割②授業評価：学生による授業評価アンケートの実施</p> <p>授業評価に関しては、前年度実施された「学生による授業評価アンケート（講義・演習科目）」に続き「学生による授業評価アンケート（実習科目）」を作成し、各科目の講義の最終回に実施した。対象科目数は看護学科1年前期21科目、後期18科目（通年を含む）、2年前期19科目、後期15科目、リハ学科1年理学療法前期20科目、後期18科目、作業療法前期19科目、後期21科目であった。実施方法は科目担当教員がアンケート用紙を配付し、学生が記入後、事務職員が回収にあたるか、または学生がボックスに投函した。結果の集計は前年度の集計会社から株式会社HDCに変更した。札幌市内の会社で、集計内容の打ち合わせがしやすく、アンケート用紙の回収、納品に融通が聞く利点がある。集計結果の表示も見やすく、前年度より好評であった。</p> <p>集計結果は、各科目担当者に項目ごとの平均値・全平均値・自由記述部分を返却し、あわせて、全科目集計表を添付し、授業改善の参考としてもらうよう働きかけた。また、全科目集計表・必修―選択科目集計表・基礎教育―専門基礎教育―専門教育科目等、グループごとの集計表とそのグラフを真栄キャンパス・恵み野キャンパス、それぞれに掲示し、学生が授業評価アンケートの結果を閲覧できるようにした。</p> <p>自由記述部分については、活字での返却の希望があり、検討した結果、次年度は集計会社に委託し、活字化することとなった。これにより記入した学生の匿名性は担保される。</p> <p>授業評価アンケートの集計結果については、看護学科の平成26年度1年前期の全科目平均が3.80点、後期は全科目平均が3.98点、平成27年度1年前期の全科目平均が4.15点、後期の全科目平均が4.20点であり、2年前期の全科目平均が3.90点、後期の全科目平均が4.10点であった。リハビリテーション学科の平成27年度1年前期の全科目平均が4.32点、後期の全科目平均が4.45点であった。</p>

実施内容と結果	<p>個々の科目平均点は2点台からほぼ5点に近いものまでバラつきがあるため、上記の平均値の評価は慎重でなければならないが、看護学科、リハビリテーション学科ともに学生の授業評価は概ね良好と考えられる。</p> <p>3. FD委員会の役割③：授業方法の開発（平成26年度実施）</p> <p>平成26年度に新しい授業のあり方として「オープンエデュケーション」に関する講演会を行っており、今年度は授業法の開発・改善に関する企画はせず、教員研修会を重点として取り組んだ。</p> <p>4. FD委員会の役割④：教員研修会</p> <p>教員研修会に関しては、平成27年度は各教員の研究活動に関わる企画を据えた。研究活動はFD委員会の主目的である教育課程・体制の開発向上や教育方法の向上とも間接的につながるものであり、研究の充実は学生に提供する講義内容、教育方法の向上とも連動することから、シリーズ1として、研究倫理に関する学習会、シリーズ2として統計手法に関する学習会を実施した。研究倫理については、ここ近年、研究者に倫理意識の向上が求められており、前年12月に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が出され、大学教員に対し研究倫理に関する講義の受講が義務付けられていることから、研究倫理委員会との合同企画としてシリーズ1を実施した。また、量的研究の遂行において、統計の理解は非常に重要であり、論文を書くためのファクターの1つである統計手法の理解についてシリーズ2では取り扱った。</p> <p>・シリーズ1:8月26日（水）13:30～15:20、講師:石埜正穂先生（札医大）、タイトル:研究の倫理および文部科学省研究倫理ガイドラインについて、参加者:42人。</p> <p>・シリーズ2:9月9日（水）13:30～15:20、講師:村松宰先生（本学教授）、タイトル:既存の論文の統計部分に関するクリティーク、参加者:43人。</p> <p>参加者は公務で不在の教員を除き、2回とも全教員の参加があり、シリーズ1については2人の事務職員の参加もあった。研修内容、時期、場所、所要時間について参加者にアンケートを実施した。シリーズ1は5段階評価で3.9～4.5ポイントであり、有意義な研修であったという意見が多かった。シリーズ2は3.2～4.2ポイントであり、統計手法について学べてよかったという感想と、講義とグループワークが短時間の間に盛り込まれ、時間不足を指摘する意見がみられた。委員会としては参加者が主体的に学べることを意図し、グループワークを組んだが、結果的に時間が足りず、講義が未消化になったことが反省点である。</p> <p>① 授業評価アンケートについては、(講義・演習用)と(実習用)のフォーマットが確定し、看護学科とリハビリテーション学科で実施した。次年度は診療放射線学科が加わることから、様式について再検討が必要である。</p>
---------	---

<p>次年度への課題等</p>	<p>② この他、授業評価アンケート後の積極的活用として、科目担当教員からのフィードバックについて検討した。アンケートの集計結果と自由記述の内容を受け、各担当教員が次年度の教育にどのように結果を反映させるかを書面で提出することを想定した。今年度、具体化しなかったのは、開学間もないために、各教員も試行錯誤中であることが予想され、次年度以降の実施が適当と考えたことによる。次期、委員会での検討事項とする。</p> <p>③ 集計担当のHDC社とは4年間の契約を結んでいる。次年度以降も、HDC社の見積額での依頼となる点を次期、委員会への申し送りとする。</p> <p>④ 教育課程については次年度、学内のカリキュラム検討会が新メンバーで検討を再開する。FD委員会はカリキュラムの改訂に協力できることから連携をとりながら進めることが望ましい。</p> <p>⑤ 次年度の教員研修会に向け高大連携に関わる企画を検討した。近年の高校の授業は変わりつつあり、アクティブ・ラーニングのスタイルが導入されてきている。その変化を受け、大学教育も参加型授業にシフトしていることから、高校の授業視察、またはアクティブ・ラーニングに関する講演会の企画等を話し合った。これらについても次期、委員会への申し送りとする。</p>
-----------------	--

## 平成26年度 ハラスメント防止委員会活動報告書

平成26年度 事業計画	ハラスメント防止委員会は平成26年年度末に発足したため、委員会等 は開かれておらず、実質的な活動計画はたてられていない。
実施内容と結果	<p>学生へのハラスメント防止に関する啓発や窓口となる相談員の指名の 必要性に関して、人権擁護委員会から提言がなされていたが、委員会が 発足していなかったため、全てが翌年度への課題となった。</p> <p>ハラスメント研修については学生委員会でキャンパスハラスメントと デートDVに関する研修を行っている。</p> <p>また教務委員会発刊の『CAMPUS HAND BOOK 2014』にはキャンパ スハラスメントに関する説明と防止に関する心構え、防止に関する大学 の体制等が明示してあり、学生委員会からは学生によく読んでおくよう 随時声掛けが行われた。</p> <p>結果：窓口となっていた起用職員へのハラスメントの申し立ては1件も なかった。</p> <p>平成27年度に本格的に活動が開始される予定の委員会であるため、次 年度委員長に課題等を引き継いだ。</p>
次年度への課題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「ハラスメントの防止等に関する規程」について、「人権擁護委員会 規程」「学校法人日本医療大学ハラスメント規程」に照らし合わせ、大 学の規程見直しを検討大学『ハラスメント防止規程』の作成</li> <li>2) 人権擁護委員会との連携</li> <li>3) 相談員の指名</li> <li>4) 委員会の委員自身の研修</li> </ol>

## 平成26年度 ハラスメント防止委員会活動報告書

平成27年度 事業計画	ハラスメント防止委員会として、真栄キャンパス、恵み野キャンパス 各々の学生へ、相談員の掲示を行い、些細な事でも相談できる体制を早 急に整えることおよびハラスメントを未然に防止することの重要性につ いて、構成員が共有し、今年度の委員会活動を以下のとおりとした。
実施内容と結果	<p>第1回ハラスメント防止委員会【平成27年6月4日】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現行規程の見直し：             <p>「ハラスメントの防止等に関する規程」について、「人権擁護委員会 規程」「学校法人日本医療大学ハラスメント規程」に照らし合わせ、大 学の規程見直しを検討する。</p> </li> <li>2 ハラスメント研修について：             <p>ハラスメント関連の研修参加について、次年度予算に向け、外部研 修参加を計画すること。</p> </li> <li>3 真栄、恵み野キャンパスに各2人ずつの相談員を選出し学内に掲示し た。相談件数は0件。</li> </ol>

実施内容と結果	<p>4 恵み野キャンパスでの啓蒙活動：        専門学校生が主体となって実施している「アルコールハラスメント啓発活動」（先輩から後輩に継承）に学部生も参加し、ポスター制作及びパワーポイント資料の見直しに携わり、前期、後期2回、協同で実施した。</p> <p>結果：        1 「ハラスメントの防止等に関する規程」作成は未実施</p>
次年度への課題等	<p>1) 大学『ハラスメント防止規定』の作成        2) 人権擁護委員会と連携        3) 相談員の役割        4) ハラスメントに関する研修会への参加</p>



## 9 認知症研究所活動報告

平成27年度 事業計画	<p>1. 認知症サポーター養成講座の開催</p> <p>2. 小規模多機能居宅介護事業所の状況把握</p>
実施内容と結果	<p>1-1. 認知症サポーター養成講座の開催</p> <p>平成28年2月23日開催</p> <p>参加者：北海道美容業生活衛生同業組合員30人</p> <p>第一部</p> <p>I. 「認知症サポーター養成講座」</p> <p>講師：認知症研究所 研究員</p> <p>社会福祉法人ノテ福祉会 小林 孝弘氏</p> <p>II. 「幸せの国デンマークから」</p> <p>講師：認知症研究所 研究員 錢本 隆行氏</p> <p>第二部</p> <p>I. 「老齡学とは」</p> <p>講師：元北海学園大学学長・北海道大学名誉教授 工学博士 朝倉 利光氏</p> <p>II. 「訪問美容活動の実際」</p> <p>講師：北海道美容業生活衛生同業組合員</p> <p>訪問美容委員会 橘 浩人氏</p> <p>2-1. 小規模多機能居宅介護事業所の状況把握</p> <p>平成28年2月頃アンケート調査を実施</p> <p>アンケート調査結果の利用方法などは今後検討する</p>
次年度への課題等	<p>認知症サポーター養成講座実施・講師の依頼</p> <p>競争的資金等の獲得</p>

## 編集後記

何事も最初が肝心であるが、最初が最も労力が必要となる。時間に余裕を持って始めたつもりであったが、諸般の事情でいつの間にか完成目標の上半期が過ぎてしまい、申し訳なく思う。

年報は、自己点検評価委員会報告書そのものであり、名称を日本医療大学年報とした。年報は、日本医療大学の歴史を記すものであり、記事には正確性が要求される。そこから見えてくる本学の長所や短所について、長所を更に発展させ短所を改善し、多少なりとも大学の発展に寄与できればよしと考える。

本誌の編集にあたり、資料を寄せていただいた教員、各種委員会、事務局に深謝する。また、多忙な中、快く校正や編集を引き受けていただいた自己点検評価委員、リハビリテーション学科西山徹講師、事務局鎌田顕主任に感謝する。(文責：乾 公美)

### 自己点検評価委員会

委員長：乾 公 美  
委 員：佐 藤 秀 紀  
委 員：滋 野 和 恵  
委 員：西 山 篤  
委 員：八 田 達 夫  
委 員：樋 口 健 太  
委 員：門 間 正 子  
委 員：山 田 敦 士

### 編集事務担当

運営事業グループ：鎌 田 顕

日本医療大学年報 創刊号

2015年

発行者 日本医療大学

〒004-0839 札幌市清田区真栄434-1

Tel (011) 885-7711

印刷所 (社福) 北海道リハビリ

〒061-1195 北広島市西の里507番地1

Tel (011) 375-2116

